

平成 27 年度
自 己 点 検 評 価 書

平成 27 (2015) 年 6 月
徳島文理大学

目 次

I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等	1
II. 沿革と現況	5
III. 評価機構が定める基準に基づく自己評価	9
基準 1 使命・目的等	9
基準 2 学修と教授	21
基準 3 経営・管理と財務	65
基準 4 自己点検・評価	84
IV. 大学が使命・目的に基づいて独自に設定した基準による自己評価	90
基準 A 地域貢献・地域連携	90
基準 B 国際交流	98
.	
.	
.	
.	
V. エビデンス集一覧	102
エビデンス集（データ編）一覧	102
エビデンス集（資料編）一覧	103

I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等

1. 徳島文理大学の建学の精神、使命・目的

徳島文理大学（以下「本学」という）の建学精神は「自立協同」である。

この建学精神は、学祖村崎サイが明治 28(1895)年 7 月徳島に私立裁縫専修学校を設立した歴史に由来する。学祖は、「女も独り立ちが出来ねばならぬ」との信念を持ち「女性の自立」を唱えて村崎学園を創立した。昭和 20(1945)年 7 月、学園は戦火に包まれて灰燼に帰し、村崎サイも学園と運命を共にした。その年の秋、戦野から帰還した村崎凡人前理事長は、学園の復興に精魂を傾け、総合学園の建設を目指した。その過程で、「他からの協力、他への協力なくして、『人間の自立』はあり得ない」との確信に至り、学祖村崎サイの精神を受け継ぎ、「村崎学園」の建学精神を「自立協同」としたものである。

この建学精神の意味するところは、生育してゆく人間として、「自立」は重要な到達目的であり、「協同」は「自立」を具現化する方法、とするものである。

「協同」は「力を合わせて物事をする」ことなので、個としての「自立」は、「協同」すなわち「他からの協力、他への協力」という体験の中で促される。「ヒト」はその体験を通して人間的な成長を遂げる。学園における教養的教育、専門的学術・芸術探求の教育は、まさに「人間の自立」を促す「協同」の場であらねばならない。

爾来、本学はこのような学園の歴史に基づいた「自立協同」の建学精神のもと、教育を推進し、幼、小、中、高、大学・短大併せて 9 学部 26 学科、6 大学院、3 専攻科、そして 5 研究所、1 相談室を有する総合学園として発展してきた。

今後とも建学の精神のもと、ますます精進し、学術・芸術の探究を通して未来を創造する大学でありたいと願っている。

本学は、徳島文理大学「学則」第1章第1条に「本学は教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、自立協同の建学精神に基づき、広く高い教養と高度の専門的知識技能を教授研究し、人格の陶冶を図り、もって、教育研究の成果を社会に提供するとともに、文化の創造と地域及び世界の発展に貢献することのできる人物を育成することを目的とする。」と定めている。本学の8学部21学科における教育研究上の目的は、「学則」第2章第3条第2項に、大学院の教育研究上の目的は「大学院学則」第1章第5条第2項に、さらに、専攻科については「専攻科規則」第2章第2条第2項に明記されている。このように、本学の使命は、建学精神の下、「学則」等に記した教育研究上の目的を達成することにある。

本学の使命・目的は、学祖が女性の自立を唱えて建学したこと、村崎凡人前理事長が第2次世界大戦で軍役に服した経験を生かし、さらに、戦後の社会状況から芽生えた近代精神を取り入れたこと、村崎正人現理事長がドイツ留学において社会経済学を学んだ経験に基づき、新たな国際感覚を吹き込んだこと等から形作られている。その目的は、自立協同の建学の精神を基本に、高度な教養と専門的能力を身につけるための教育と研究を実践し、並びに、幅広い教養を身につけた社会人、あるいは、研究心と独立心を持って社会の発展に寄与する人材を養成することである。

また、本学は教育機関であると同時に研究機関でもある。研究機関としての本学の使命は、研究成果を社会に還元し、文化の創造と発展に貢献していくことである。

2. 徳島文理大学が目指す大学像

①文理融合の教育

大学は2つのキャンパス（徳島と香川）を有しており、文系の3学部、理系の3学部、さらに、文理融合の2学部を設置している。日本には学科を文系、理系に分ける習慣があるが、人間教育の視点から文理融合は、成熟した社会人への成長を支援するものである。

②教育目標・方法等の明示と自立学修

本学は各学部各学科の教育目標・方法等を履修ガイド及びシラバスに明示し、目標達成のため教員と学生はともに努力している。例えば、本学は昭和47(1972)年薬学部を新設した当初から、薬剤師を養成し、卒業生が日本各地で活躍することを目的に、薬剤師国家試験での合格率の向上に努めている。

他の学部学科においても、それぞれのカリキュラムを充実させ、国家試験、資格試験での合格率の向上と、資格取得に努めている。そのために、学生自らが課題を見つけ解決するいわゆる「自立学修」ができる教育を実践している。

③適切できめ細やかな教育、学生の成長を支援する充実した教育・研究環境

本学は、学年学期の各ステップで、学生に適切できめ細やかな教育を行うよう努めている。入学前には、AO入試、推薦入試に合格した段階から入学前教育を開始しており、本学の担当教員が出身校と連携をとり、入学後の学修がスムーズに進むよう支援している。

また、入学予定者全員に本学が製作した学習ポートフォリオを送付している。入学後には、新入生一人ひとりに学部学科のチューターあるいは担任が付き、一人ひとりの学生の大学生活をサポートしている。

なお、新入生は、本学の特色である「文理学」を必修科目として履修する。「文理学」では、理事長の「徳島文理大学の建学精神と歴史」、学長の「大学とは」の講義に続いて、学習ポートフォリオの使用説明がある。学習ポートフォリオは、チューター等がポートフォリオの記入を始めた新入生と討議しつつ教育指導をすることで、学生の自立学修を促すとともに、教員と学生とのきめ細かな連携を構築することにも用いている。

そのほか、全学共通教育センターでは、学力充実講座を開講し、学生の個々の事情に合わせた各学部学科教育の専門的な学修に備えるための自主的な補習を支援している。

また、eラーニングによる学修システムを導入し、個別メニューで効果的に独自学修が行えるようサポートしている。さらに、教員を目指す学生には「教員養成対策講座」、公務員を目指す学生に対しては「公務員試験対策講座」での指導を通じて、進路の実現を支援している。

FD(Faculty Development)研究部会は、FD研修会・講演会の開催、全学授業評価アンケート調査、研究授業、卒業生の満足度調査等を行い、教育活動の質の向上に努めるだけでなく、学生と教員の連携を円滑に進めている。

メディアセンターは、最新鋭のICT (Information and Communication Technology、情報通信技術) 教育設備を備え、語学・基礎学力向上を図るセンターや、生活面をサポートする施設等を擁しており、学生の自主的な学びの場として、学生と教職員とのコミュニケーションロビーとして活用されている。

また、両キャンパスにある図書館は、合計蔵書数約 71 万冊、学術雑誌約 2,140 種、電子ジャーナル約 12,000 種等、豊富な資料を揃えており、最先端の情報システムのもと DVD、CD、ビデオ等あらゆる視聴覚資料を学生に供し、教育環境の完備に努めている。

さらに、徳島キャンパスには、世界最高水準の音楽ホール「むらさきホール」並びに「アカンサスホール」、「ボストンホール」が設置されており、学生のレッスン、学生による定期演奏会、OB 定期演奏会等に利用されている。同ホールでは、国際的に活躍している演奏家や指揮者の演奏を学生は直に聴くことができる。また香川キャンパスには、同様の機能を有した「村崎サイメモリアルホール」を設置している。

④地域に密着した教育貢献

本学は地域に密着した教育貢献を心がけている。これは、本学が徳島の地で戦災から復興し今日の発展に至ったのは、県民が教育を求め、成功を修めた多くの卒業生、多数の保護者、教育に尽力した教職員、地域住民等の限りない協力と支援に負うところ大きかったと考えるからである。

地域に密着する教育貢献としては、公開講座や公開講演会、定期演奏会、高等学校への出張講義、児童・生徒を対象とした科学・工作教室等の開催、徳島県・徳島県教育委員会との地域連携事業の推進のほか、前述した「むらさきホール」を一般の講演会や学会の場として提供しており、地域住民の参加を歓迎している。

また、平成 27(2015)年 4 月、地域貢献・地域連携を担う中核として地域連携センターを設立した。

⑤グローバル教育

本学は四国に位置していることから、グローバルに考え、ローカルに行動する「グローバル教育」を実践している。高度情報化社会に生きる学生に必要な IT 能力や コミュニケーション能力の向上を図るために、本学は、メディアセンターの充実、新システム ICT の導入、総合大学という特色を生かした多様な講義を受講できる機会を設ける等、教育環境を整えている。

さらに厳しい社会環境を生き抜き活躍できる人材教育の徹底に努め、学生には地元企業や地域とのインターンシップに積極的に参加するよう推奨している。

地方の大学にとって、学生の就職支援は、学生の大学生活を成功に導くための極めて重要な課題である。本学は平成 19 (2007)年度、事務の組織改革を行い、学生のキャリア・就職支援を行う部署として学生支援ユニット（現在は就職支援部）に、キャリア・サポートグループを設置した。「文理学」のカリキュラムにキャリアガイダンスを入れ、キャリア形成への意識付けを初年次から始めた。その後は就職活動の指導・支援を進め、3 年次には就職相談や支援に努め、成果を上げている。

⑥国際交流

本学は総合大学である特徴を生かし、米国、カナダ、ヨーロッパ、アジア、オセアニアの各地にある 30 大学と協定を締結している。また高大連携は 8 校となっている。

学生は外国の教育を受けることができ、同時に、異文化に触れる機会に恵まれ、さらに

は、国際人として活躍できる大学としての特色を備えている。また、本学は、日本で最初に米国マサチューセッツ工科大学と協定を締結するとともに、アメリカの音楽療法の先進校であるシェナンドー大学から日本の大学としては初めて、音楽療法教育を導入した。

また、韓国・檀国大学校、香港城市大学、台湾の中山医学大学等から学生の短期・長期の滞在を含めた定期的な交流がある。

さらに、本学音楽学部では、ウィーン国立音楽大学教授陣による夏期・冬期講習会が開催されており、音楽留学の道も開いている。

これらの交流を通じて、本学の学生には異文化への理解と国際的な視野を持つ機会を提供している。一方、本学の教員も、国際シンポジウムに招待されることが多く、これらのことは、本学で高い研究レベルが維持されている証左でもある。

II. 沿革と現況

1. 本学園の沿革

明治 28 年 村崎サイ、私立裁縫専修学校創立 「女性の自立」を唱え、自立協同を 建学の精神とする。	昭和 43 年 徳島女子大学音楽学部音楽学科設 置	昭和 62 年 徳島文理大学短期大学部経営情報 科設置（香川キャンパス）
大正 13 年 徳島女子職業学校設置許可	昭和 45 年 徳島女子大学家政学部児童学科設 置	昭和 63 年 徳島文理大学短期大学部家政科を 生活科学科（生活科学専攻、食物 専攻）に名称変更
大正 14 年 学園創立 30 周年	徳島女子短期大学商科設置	カナダ バンクーバー・コミュニテ ィー・カレッジと姉妹校協定締結
昭和 7 年 徳島女子職業学校経済科設置許可	昭和 47 年 徳島女子大学薬学部薬学科、衛生 薬学科設置	平成元年 徳島文理大学工学部機械電子工学 科、情報システム工学科設置 （香川キャンパス）
昭和 19 年 財団法人村崎女子商業学校認可	徳島文理大学と校名変更	村崎サイメモリアルホール完成 （香川キャンパス）
昭和 20 年 学園創立 50 周年	昭和 48 年 徳島文理大学附属幼稚園開設 徳島文理大学短期大学と校名変更	平成 4 年 徳島文理大学文学部コミュニケー ション学科設置（香川キャンパス）
昭和 22 年 財団法人村崎学園認可 村崎高等女学校と校名変更	昭和 49 年 徳島文理大学短期大学家政科専攻 分離（家政専攻、食物専攻）	徳島文理大学大学院文学研究科地 域文化専攻[修士課程]設置（香川 キャンパス）
昭和 23 年 村崎女子高等学校と校名変更	昭和 50 年 徳島文理大学音楽専攻科設置 徳島文理大学附属中学校開設 学園創立 80 周年	平成 5 年 徳島文理大学家政学専攻科設置 徳島文理大学大学院工学研究科シ ステム制御工学専攻[修士課程]設 置（香川キャンパス）
昭和 26 年 学校法人村崎学園認可	昭和 51 年 徳島女子高等学校を徳島文理高等 学校と校名変更	平成 6 年 徳島文理大学家政学部生活環境情 報学科設置
昭和 30 年 学園創立 60 周年	徳島文理大学附属中学校を徳島文 理中学校と校名変更	徳島文理大学大学院文学研究科地 域文化専攻[博士課程(後期)]設置 （香川キャンパス）
昭和 33 年 徳島女子高等学校と校名変更	昭和 54 年 徳島文理大学大学院薬学研究科薬 学専攻[修士課程]設置	平成 7 年 徳島文理大学大学院工学研究科シ ステム制御工学専攻[博士課程(後 期)]設置（香川キャンパス）
昭和 36 年 徳島女子短期大学創立、家政科設 置	昭和 55 年 徳島文理大学短期大学を徳島文理 大学短期大学部と校名変更	アメリカ マサチューセッツ工科大 学〔MIT〕と大学間協定締結
昭和 37 年 徳島女子短期大学家政科専修分離 （家政専修、食物専修）	昭和 56 年 徳島文理大学大学院薬学研究科薬 学専攻[博士課程(後期)]設置	カナダ ランガラ大学と姉妹校協 定締結
昭和 38 年 徳島女子短期大学保育科設置	昭和 58 年 香川キャンパスを開学 徳島文理大学文学部日本文学科、 英米文学科設置（香川キャンパス）	学園創立 100 周年
昭和 40 年 学園創立 70 周年	昭和 59 年 徳島文理小学校開設	平成 8 年 徳島文理大学短期大学部文科英文 専攻を英語文化専攻に名称変更
昭和 41 年 徳島女子大学創立、家政学部家政 学科設置 徳島女子短期大学文科（国文専攻 英文専攻）、音楽科設置	昭和 60 年 学園創立 90 周年	

徳島文理大学

平成 9 年 徳島文理大学短期大学部文科国文学専攻を日本文学専攻に名称変更 徳島文理大学大学院家政学研究所食物学専攻、生活環境情報学専攻 [修士課程]設置	徳島文理大学家政学部を人間生活学部に変更 家政学部家政学科家政学専攻を人間生活学部人間生活学科に変更	平成 18 年 徳島文理大学人間生活学部生活情報学科をメディアデザイン学科に変更 徳島文理大学薬学部薬学科 [4 年制]、医療薬学科 [4 年制] を改組し、薬学科 [6 年制] 設置 徳島文理大学香川薬学部創薬学科 [4 年制] を改組し、薬学科 [6 年制]、薬科学科 [4 年制] 設置 イタリア パヴィア大学と学術交流協定締結
平成 10 年 徳島文理大学大学院家政学研究所児童学専攻 (児童教育学コース、臨床心理学コース) [修士課程]設置 徳島文理大学大学院薬学研究所医療薬学専攻 [修士課程]設置 徳島文理大学家政学部人間発達学科設置 徳島文理大学文学部文化財学科設置 徳島文理大学工学部環境システム工学科設置 アメリカ インディアナ大学と学術協定締結	平成 15 年 徳島文理大学人間生活学部人間福祉学科設置 徳島文理大学人間生活学部人間発達学科を心理学科に、文学部英米文学科を英米言語文化学科に名称変更 徳島文理大学短期大学部経営情報科を地域ビジネス情報科に名称変更 (香川キャンパス) 香港大学と学術交流協定締結	平成 19 年 徳島文理大学工学部臨床工学科設置 (香川キャンパス) 徳島文理大学人間生活学部人間福祉学科を改組し、人間福祉学部人間福祉学科設置
平成 11 年 徳島文理大学大学院家政学研究所人間生活学専攻 [博士課程 (後期)] 設置 徳島文理大学短期大学部文科を改組し、言語コミュニケーション学科設置 ベトナム ハノイ国家大学と学術交流協定締結 徳島文理大学大学院家政学研究所児童学専攻臨床心理学コース、臨床心理士養成の指定を受ける	平成 16 年 徳島文理大学工学部ナノ物質工学科設置 (香川キャンパス) 徳島文理大学大学院総合政策研究科地域公共政策専攻 [専門職学位課程] 設置 徳島文理大学香川薬学部創薬学科設置 (香川キャンパス) 韓国 檀国大と学術交流協定締結	平成 20 年 徳島文理大学人間福祉学部を保健福祉学部に変更 徳島文理大学文学部英米言語文化学科を英語英米文化学科に、工学部機械電子工学科を機械創造工学科に、情報システム工学科を電子情報工学科に変更 (香川キャンパス) 徳島文理大学保健福祉学部看護学科設置 オーストラリア グリフィス大学と学術交流協定締結
平成 12 年 徳島文理大学総合政策学部総合政策学科設置 学園創立110周年記念むらさきホール完成 (徳島キャンパス) オーストリア ウィーン国立音楽大学・アメリカ シェナンドー大学と学術交流協定締結	平成 17 年 徳島文理大学大学院香川薬学研究所創薬科学専攻 [博士課程 (前・後期)] 設置 (香川キャンパス) 徳島文理大学家政学専攻科を人間生活学専攻科に変更 徳島文理大学大学院家政学研究所を人間生活学研究科に変更 徳島文理大学大学院人間生活学研究科児童学専攻臨床心理学コースを改組し、心理学専攻 [博士課程 (前期)] 設置 徳島文理大学大学院工学研究科ナノ物質工学専攻 [博士課程 (前・後期)] 設置 香港城市大と学術交流協定締結 スロベニア ヨーゼフ・ステファン国際大学院と学術交流協定締結 学園創立110周年	平成 21 年 徳島文理大学工学部を理工学部に変更 (香川キャンパス) 徳島文理大学助産学専攻科設置 徳島文理大学人間生活学部住居学科を建築デザイン学科に変更 イギリス グロスターシャー大学と学術交流協定締結 台湾 中山醫學大學と学術交流協定締結 台湾 新民高級中學と高大連携校協定締結
平成14年 徳島文理大学薬学部衛生薬学科を医療薬学科に変更 徳島文理大学家政学部家政学科管理栄養士専攻、生活環境情報学科を改組し、食物栄養学科、生活情報学科、住居学科設置		平成 22 年 徳島文理大学保健福祉学部理学療法学科設置

徳島文理大学

徳島文理大学大学院香川薬学研究科薬科学専攻[修士課程]設置（香川キャンパス）	2号館アカンサスホール完成(徳島キャンパス)
台湾 台北醫科大學・大仁科技大學・台南應用科技大學と学术交流協定締結	
台湾 台北市立南湖高級中學・樹徳高級家事商業職業學校・新光高級中學と高大連携校協定締結	
平成23年	
台湾 嘉南薬理科技大學・義守大學・東海大學・国立台中教育大學・国立台湾師範大學と学术交流協定締結	
三民高級中學と高大連携校協定締結	
平成24年	
徳島文理大学保健福祉学部診療放射線学科設置、臨床工学科を理工学部から保健福祉学部へ移行（香川キャンパス）	
徳島文理大学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程(4年課程)設置	
台湾 中原大學・逢甲大學・開南大學と学术交流協定締結	
平成25年	
中国 厦門大學と学术交流協定締結	
韓国 水原大學校・水原科學大學校と学术交流協定締結	
台湾 康橋双語學校と高大連携校協定締結	
平成26年	
徳島文理大学大学院看護学研究科看護学専攻[修士課程]設置	
韓国 安山江西高等學校と高大連携校協定締結	
台湾 淡江大學と学术交流協定締結	
平成27年	
中国 広東省外語芸術職業学院と学术交流協定締結	
中国 北京語言大学附属大連高級中学と高大連携校協定締結	
学園創立120周年	
地域連携センター開設	

徳島文理大学

2. 本学の現況

【大学名】 徳島文理大学

【所在地】 法 人 事 務 局 : 〒770-8560 徳島県徳島市寺島本町東1丁目8

徳島キャンパス : 〒770-8514 徳島県徳島市山城町西浜傍示 180 番地

香川キャンパス : 〒769-2193 香川県さぬき市志度 1314 番地 1

【徳島キャンパス】

・学部、大学院、専門職大学院及び専攻科の構成

(平成27年5月1日現在)

学 部	学 科
人 間 生 活 学 部	人間生活学科
	食物栄養学科
	児童学科
	メディアデザイン学科
	建築デザイン学科
	心理学科
音 楽 学 部	音楽学科
薬 学 部	薬学科
総 合 政 策 学 部	総合政策学科
保 健 福 祉 学 部	人間福祉学科
	看護学科
	理学療法学科

研 究 科	専 攻	課 程
薬学研究科(4年課程)	薬学専攻	博士課程
人 間 生 活 学 研 究 科	人間生活学専攻	博士後期課程
	食物学専攻	博士前期課程
	生活環境情報学専攻	博士前期課程
	児童学専攻	博士前期課程
	心理学専攻	博士前期課程
看 護 学 研 究 科	看護学専攻	修士課程
総 合 政 策 研 究 科	地域公共政策専攻	専門職学位課程

専 攻 科	専 攻
音 楽 専 攻 科	器楽専攻
	声楽専攻
人 間 生 活 学 専 攻 科	人間生活学専攻
	児童学専攻
助 産 学 専 攻 科	—

【香川キャンパス】

・学部及び大学院の構成

学 部	学 科
文 学 部	日本文学科
	英語英米文化学科
	文化財学科
理 工 学 部	機械創造工学科
	電子情報工学科
	ナノ物質工学科
香 川 薬 学 部	薬学科
保 健 福 祉 学 部	診療放射線学科
	臨床工学科

研 究 科	専 攻	課 程
文 学 研 究 科	地域文化専攻	博士前期課程
		博士後期課程
工 学 研 究 科	システム制御工学専攻	博士前期課程
		博士後期課程
	ナノ物質工学専攻	博士前期課程
		博士後期課程

募集停止の学部・研究科	学 科又は専 攻	課 程
理 工 学 部	臨床工学科	—
香 川 薬 学 部	薬科学科	—

【学生数】

課 程	学 生 数
学 部 生	4,516
大学院生	66
専攻科生	16
合 計	4,598

【教員数】

職 名	人 数
専任教員	334
助 手	16
兼任教員	101
合 計	486

【職員数】

キャンパス	人 数
法 人 事 務 局	23
徳島キャンパス	61
香川キャンパス	41
合 計	125

Ⅲ. 評価機構が定める基準に基づく自己評価

基準 1. 使命・目的等

1-1 使命・目的及び教育目的の明確性

≪1-1 の視点≫

1-1-① 意味・内容の具体性と明確性

1-1-② 簡潔な文章化

(1) 1-1 の自己判定

基準項目 1-1 を満たしている。

(2) 1-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

1-1-① 意味・内容の具体性と明確性

【事実の説明】

- ・ 本学は、建学精神を基本に、大学「学則」第 1 章第 1 条に「本学は教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、自立協同の建学精神に基づき、広く高い教養と高度の専門的知識技能を教授研究し、人格の陶冶を図り、もって、教育研究の成果を社会に提供するとともに、文化の創造と地域及び世界の発展に貢献することのできる人材を育成することを目的とする」と明記している。【資料 1-1-1】
- ・ 本学の使命は、「学則」に明記した教育研究上の目的を達成することである。各学部学科に応じた教育研究上の目的は学則に定め、キャンパスガイドに明記している。【資料 1-1-2】
- ・ 「大学院学則」には第 1 章第 2 条に目的、第 5 条第 2 項に教育研究上の目的を、「専攻科規則」には第 1 章第 1 条に目的、第 2 章第 2 条第 2 項に教育研究上の目的を、それぞれ定めている。【資料 1-1-3～資料 1-1-5】
- ・ 入学生に対しては、入学式において、建学精神である「自立協同」を伝えるほか、必修の「文理学」を通して、建学精神の理解を促し、本学学生としてのアイデンティティの確立を図る取り組みを行っている。また、在学生に対しては、ホームページや大学通信をとおして、その精神を繰り返し強調している。そのほか、卒業式においても、必ず「自立協同」の精神が饗の言葉として送られている。【資料 1-1-6～資料 1-1-8】

【エビデンス集・資料編】

【資料 1-1-1】 徳島文理大学学則 ※【資料 F-3】と同じ

【資料 1-1-2】 平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド（180-183 頁）

※【資料 F-5】と同じ

【資料 1-1-3】 徳島文理大学専攻科規則 ※【資料 F-3】と同じ

【資料 1-1-4】 徳島文理大学大学院学則 ※【資料 F-3】と同じ

【資料 1-1-5】 平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド（208,215-216 頁）

※【資料 F-5】と同じ

【資料 1-1-6】 平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド（37 頁）

※【資料 F-5】と同じ

【資料 1-1-7】ホームページ〔<https://www.bunri-u.ac.jp/>〕

(徳島文理大学について／教育情報の公表／II. 教育研究の概要／
名称及び教育研究上の目的)

【資料 1-1-8】徳島文理大学通信（アカンサス）Vol.75（3頁）

【自己評価】

- ・ 大学ホームページや学則に明示されている本学の使命・目的及び教育目的は具体的で明確であると判断している。

1-1-② 簡潔な文章化

【事実の説明】

- ・ 本学の使命・目的及び教育目的をホームページやキャンパスガイドに文章で簡潔に示している。【資料 1-1-1～資料 1-1-5】【資料 1-1-7】

【エビデンス集・資料編】

【資料 1-1-1】徳島文理大学学則 ※【資料 F-3】と同じ

【資料 1-1-2】平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド（180-183 頁）

※【資料 F-5】と同じ

【資料 1-1-3】徳島文理大学専攻科規則 ※【資料 F-3】と同じ

【資料 1-1-4】徳島文理大学大学院学則 ※【資料 F-3】と同じ

【資料 1-1-5】平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド（208,215-216 頁）

※【資料 F-5】と同じ

【資料 1-1-7】ホームページ〔<https://www.bunri-u.ac.jp/>〕

(徳島文理大学について／教育情報の公表／II. 教育研究の概要／
名称及び教育研究上の目的)

【自己評価】

- ・ 本学の使命・目的及び教育目的は簡潔な文章で表現されていると判断している。

(3) 1-1 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 本学の建学精神や使命・目的及び教育目的は、主として大学案内や大学のホームページを通じて、学外へ公表・周知しており、今後も様々な機会を通じて公表していく。

1-2 使命・目的及び教育目的の適切性

《1-2 の視点》

1-2-① 個性・特色の明示

1-2-② 法令への適合

1-2-③ 変化への対応

(1) 1-2 の自己判定

基準項目 1-2 を満たしている。

(2) 1-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

1-2-① 個性・特色の明示

【事実の説明】

- ・ 明治 28(1895)年の学園創設時の女性の自立を目指す精神が脈々と受け継がれ「自立協同」の建学精神へと繋がってきている。これは、百有余年の長きに亘って受け継がれてきた建学精神が、時代を超えた重要な内容であるといえる。【資料 1-2-1】【資料 1-2-2】
- ・ 本学は、建学精神を基本に、大学「学則」第 1 章第 1 条に「本学は教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、自立協同の建学精神に基づき、広く高い教養と高度の専門的知識技能を教授研究し、人格の陶冶を図り、もって、教育研究の成果を社会に提供するとともに、文化の創造と地域及び世界の発展に貢献することのできる人物を育成することを目的とする」と明記している。【資料 1-2-3】

【エビデンス集・資料編】

【資料 1-2-1】 ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/>]

(徳島文理大学について／教育情報の公表／ I . 学校法人の概要／
建学の精神、使命・目的)

【資料 1-2-2】 ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/>]

(徳島文理大学について／教育情報の公表／ I . 学校法人の概要／
めざす大学像)

【資料 1-2-3】 徳島文理大学学則 ※【資料 F-3】と同じ

【自己評価】

- ・ 本学の使命・目的及び教育目的は「自立協同」の建学精神を基本に定められており、本学の特色を反映しているものと判断している。

1-2-② 法令への適合

【事実の説明】

- ・ 「学則」第 1 章第 1 条に「本学は教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、自立協同の建学精神に基づき、広く高い教養と高度の専門的知識技能を教授研究し、人格の陶冶を図り、もって、教育研究の成果を社会に提供するとともに、文化の創造と地域及び世界の発展に貢献することのできる人物を育成することを目的とする」と明記している。また、各学部学科の教育研究上の目的は学則に定め、キャンパスガイドに明記している。【資料 1-2-3】【資料 1-2-4】【表 1-2-1】

【表 1-2-1】教育研究上の目的

【大 学】	本学は教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、自立協同の建学精神に基づき、広く高い教養と高度の専門的知識技能を教授研究し、人格の陶冶を図り、もって、教育研究の成果を社会に提供するとともに、文化の創造と地域及び世界の発展に貢献することのできる人物を育成することを目的とする。
【人間生活学部】	最先端の知識・技能を教授研究し、かつ人間と生活環境との共生を総合的・学際的に追究して、より豊かで幸せな人間生活の実現のために、広く社会貢献をなし得る人材の養成を目的とする。
人間生活学科	健康で安全・快適な人間生活の実現のため、人と生活について科学的、総合的な教授研究を行い、専門的知識・技能を持ち、地球社会に貢献できる自立した人間性豊かな人材を養成する。
食物栄養学科	人々の健康を、食から支える栄養のスペシャリストとして、必要な専門的知識・技能を涵養し、社会に貢献できる他人に優しい管理栄養士・栄養士を養成する。
児童学科	教育・保育に対する使命感、教育愛、倫理観に裏付けされた豊かな人間性を涵養するとともに、高度な専門的知識やすぐれた指導技術を学び、子どもたちと共感的に向かい合える総合的人間力を備えた指導者を養成する。
メディアデザイン学科	デジタルデザイン技術を学び、インストラクショナルデザイナーに関する知識・技能を身につけ、さらに分析、企画、プロデュース能力及びプレゼンテーション能力を備えた人材を養成する。
建築デザイン学科	建築デザインに関する学術の総合的、学際的な教授研究を行い、快適で安全な住まい、美しい住環境を創ることをめざし、「建築デザイン」に関する基礎的、専門的知識・技術を持った人間性豊かな人材を養成する。
心理学科	心理学に関する学術の総合的、学際的な教授研究を行い、精神的危機をもたらす社会環境への適応に向けて、人間関係改善の相談支援並びに専門的サポートシステムの担い手となる人材を養成する。
【音楽学部】	音楽に関するすぐれた研究者及び専門的職業人等を養成し、社会の要請に応えられる人材を養成することを目的とする。
音楽学科	音楽の領域に関する学術の総合的、学際的な教授研究を行い、音楽の表現・鑑賞並びに音楽療法にかかわる専門的知識・技能を備え、文化の昂揚啓発に貢献する人材を養成する。
【薬学部】	薬学に関して深い知識・技能・態度をもつ有能な人材を養成するとともに、最高最新の科学を教授研究することを目的とする。
薬学科	薬剤師としての必須の知識・技能・態度を習得するだけでなく、問題解決能力を有した薬剤師を養成することを目的とする。
【総合政策学部】	法学・政治学・経済学・経営学・社会学など、社会科学の幅広い学問の教授研究を行い、広い視野を有するゼネラリストを養成することを目的とする。
総合政策学科	地域に立脚した総合政策を立案・推進する手法の総合的、学際的な教授研究を行い、複眼的志向を持つ問題解決型の人材を養成する。
【保健福祉学部】	医療・保健・福祉に関するすぐれた研究者及び専門的職業人等を養成し、社会の要請に応えられる人材を養成することを目的とする。
人間福祉学科	社会福祉学に関する学術の総合的、学際的な教授研究を行い、社会福祉にかかわる幅広い専門的知識・技能、豊かな人間性を兼ね備え、地域の要請に応えられる社会福祉士、精神保健福祉士を養成する。

徳島文理大学

看護学科	医療・保健衛生・健康の分野にかかわる学術の総合的、学際的な教授研究を行い、保健衛生・健康にかかわる専門的知識・技能、豊かな人間性を兼ね備え、社会の要請に応えられる看護師、保健師、助産師を養成する。
理学療法学科	生命を尊重し、人間の尊厳と権利に関する深い洞察力を持ちながら、健康と福祉の向上に貢献できる質の高い理学療法士を養成する。
診療放射線学科	放射線技術に関する諸科学・医学及び高度医療機器・設備等に精通し、チーム医療に貢献するとともに教育・行政、医療機器関係の企業等の諸分野において活躍できる診療放射線技師を養成する。
臨床工学科	高度先端医療に対応できる工学的・医学的知識を教授研究し、臨床工学に係わる専門的知識・技能を身につけ、豊かな人間性を兼ね備え、高度先端医療に対応できる臨床工学技士を養成する。
【文 学 部】	
各時代の文学を通じ、日本文学・語学及び文化を精究し、英語を駆使できる国際人、先人が残した多様な文化遺産を現代に創造的に生かせる人材を養成することを目的とする。	
日本文学科	古代から近現代に至る文学に関する学術の総合的、学際的な教授研究を行い、巨視的な観点を保ちつつ、その時代特有の思想や態度を精研するとともに、日本語学を体系的に学び、日本語の運用能力を身につけた人材を養成する。
英語英米文化学科	英米言語文化にかかわる学術の総合的、学際的な教授研究を行い、英語の運用能力のスキルを高め、欧米の文化についての知識を幅広く獲得することにより、広く国際社会に貢献できる真の国際人を養成する。
文化財学科	先人が残した多様な文化遺産の調査・分析方法を教授研究し、専門技能・学識や探求心・実践力を身につけ、文化・歴史・風土に対する知識や感性を社会の創造・発展に向けて活用できる人材を養成する。
【理 工 学 部】	
「創造力のあるもの創り」、「情報通信」、「環境・バイオテクノロジー」、「ナノテクノロジー・材料」、「ライフサイエンス」をキーワードとして、理学的・工学的基礎のうえに、専門的学術を教授研究し、科学技術の進歩に柔軟に適応できる能力を身につけ、豊かな社会を創造する技術者を養成することを目的とする。	
機械創造工学科	機械設計に必要な基礎知識を教授し、産業の基盤技術である「もの創り」の理解を深め、手法を会得し、創造性豊かな技術者を養成する。
電子情報工学科	電気・電子工学及び情報工学に関する学術を教授研究し、高度情報社会の発展に不可欠なコンピュータシステムを理解し、自由に使いこなせる能力を身につけた情報システム技術者を養成する。
ナノ物質工学科	応用化学・応用生物学・光工学分野における無機・有機・高分子・複合材料等、ナノ材料の基礎を教授し、資源・環境問題を認識したグローバルな視点から新素材開発に取り組み、豊富かつ高度なナノ構造解析機器と解析技術力を活用できる人材を養成する。
【香 川 薬 学 部】	
薬学に関する教育プログラムに基づき、薬の科学者としての技量・学識と医療倫理観を兼備した薬剤師を養成することを目的とする。	
薬学科	基礎及び専門教育をとおして、薬にかかわる科学を教授研究し、病院・薬局での臨床実習をとおして、医療人としての自覚と技量を養い、探求心と人間性を兼備した質の高い薬剤師を養成する。

【エビデンス集・資料編】

【資料 1-2-3】徳島文理大学学則 ※【資料 F-3】と同じ

【資料 1-2-4】平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド（180-183 頁）

※【資料 F-5】と同じ

【自己評価】

- ・ 法令を遵守して、教育研究を行っているものと判断している。

1-2-③ 変化への対応

【事実の説明】

- ・ 本学は創立以来、時代が求めるもの、未来が必要とするものは何かを常に問い続けながら、「自立協同」の建学精神のもと、人間の自立と学芸の独立を掲げた教育を推進してきた。本学は 8 学部 21 学科、6 大学院、3 専攻科を有しており、大学教育に寄せられる多様な社会的ニーズに応えられる体制となっている。【資料 1-2-5】
- ・ 平成 24(2012)年には香川キャンパスに保健福祉学部診療放射線学科を、平成 26(2014)年には徳島キャンパスに看護学研究科を新設する等、社会的ニーズの変化に対応すべく努力している。現在、平成 28(2016)年 4 月に看護学研究科博士後期課程並びに総合政策学研究科を新設できるよう準備している。

【エビデンス集・資料編】

【資料 1-2-5】徳島文理大学 2016 年大学案内（174-175 頁） ※【資料 F-2】と同じ

【自己評価】

- ・ 社会の変化に対応し、文化の創造と発展に貢献しながら、自己点検評価を実施し検証することにより、必要に応じて見直しを継続していく体制を整えていると判断している。

(3) 1-2 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 使命・目的及び教育目的の適切性については、自己点検・評価委員会において定期的に点検・評価を行うものとし、法令を遵守し、建学精神を具現化させながら、変化に対応できる人材の育成に取り組む努力を継続する。

1-3 使命・目的及び教育目的の有効性

《1-3 の視点》

1-3-① 役員、教職員の理解と支持

1-3-② 学内外への周知

1-3-③ 中長期的な計画及び 3 つの方針等への使命・目的及び教育目的の反映

1-3-④ 使命・目的及び教育目的と教育研究組織の構成との整合性

(1) 1-3 の自己判定

基準項目 1-3 を満たしている。

(2) 1-3 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

1-3-① 役員、教職員の理解と支持

【事実の説明】

- ・ 建学精神、理念及び教育方針に基づいた本学の使命・目的、3つのポリシー等は、本学ホームページやキャンパスガイド、大学通信、学部で作成している履修ガイド等に明記している。【資料 1-3-1～資料 1-3-16】
- ・ 学内の全部局、職員に対し、キャンパスガイドや大学通信を配付し、周知を図っており、それを基に学生の教育にあたっている。【資料 1-3-3】【資料 1-3-4】

【エビデンス集・資料編】

- 【資料 1-3-1】 ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/>]
(徳島文理大学について／教育情報の公表／I. 学校法人の概要／建学の精神、使命・目的) ※【資料 1-2-1】と同じ
- 【資料 1-3-2】 ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/>]
(徳島文理大学について／教育理念と方針)
- 【資料 1-3-3】 平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (見開き)
※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 1-3-4】 徳島文理大学通信 (アカンサス) Vol.75 (3 頁)
※【資料 1-1-8】と同じ
- 【資料 1-3-5】 平成 27 年度人間生活学部履修ガイド ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 1-3-6】 平成 27 年度音楽学部履修ガイド ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 1-3-7】 平成 27 年度薬学部要覧 (平成 27 年度入学生) ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 1-3-8】 平成 27 年度薬学部要覧 (平成 26 年度以前入学生)
※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 1-3-9】 平成 27 年度総合政策学部履修ガイド ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 1-3-10】 平成 27 年度保健福祉学部履修ガイド (徳島キャンパス)
※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 1-3-11】 平成 27 年度保健福祉学部履修ガイド (香川キャンパス)
※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 1-3-12】 平成 27 年度文学部履修ガイド ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 1-3-13】 平成 27 年度理工学部履修ガイド ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 1-3-14】 平成 27 年度香川薬学部要覧 (平成 27 年度入学生)
※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 1-3-15】 平成 27 年度香川薬学部要覧 (平成 26 年度以前入学生)
※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 1-3-16】 2015 年度薬学研究科要覧 ※【資料 F-5】と同じ

【自己評価】

- ・ 本学の使命・目的は、キャンパスガイドや履修ガイド等により、全教職員に理解され、支持されていると判断している。

1-3-② 学内外への周知

【事実の説明】

- ・ 入学時のオリエンテーション、各学部学科の授業や配属された教室での教育実践を通じて、大学の使命・目的は伝達されている。【資料 1-3-17～資料 1-3-19】
- ・ 大学の使命・目的が明記されている「学則」の一部を平易な文章にし、大学案内、徳島文理大学通信、本学ホームページ等の媒体に公表している。高校進路指導教諭を対象とした進学説明会での理事長や学長の挨拶は、建学の精神の他に、教育研究活動の紹介の中で本学の教育研究上の目的に触れ、大学の使命・目的の周知に努めている。大学の使命・目的の具現化の1つとして、公開講座や公開講演会等を通じて学外へ情報伝達を行っている。【資料 1-3-1】【資料 1-3-4】【資料 1-3-20～資料 1-3-22】

【エビデンス集・資料編】

【資料 1-3-1】 ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/>]

(徳島文理大学について／教育情報の公表／I. 学校法人の概要／
建学の精神、使命・目的) ※【資料 1-2-1】と同じ

【資料 1-3-4】 徳島文理大学通信 (アカンサス) Vol.75 (3 頁)

※【資料 1-1-8】と同じ

【資料 1-3-17】 平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (37 頁)

※【資料 F-5】と同じ

【資料 1-3-18】 新入学生オリエンテーション (32 頁)

【資料 1-3-19】 徳島文理大学「文理学 (地域学を含む)」について

【資料 1-3-20】 徳島文理大学 2016 年大学案内 (175 頁) ※【資料 F-2】と同じ

【資料 1-3-21】 ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/>] ※【資料 F-7】と同じ

(徳島文理大学について／情報公開／平成 26 年度学園の事業報告)

【資料 1-3-22】 徳島文理大学公開講座 2015

【自己評価】

- ・ 様々な情報伝達手段によって教育・研究上の使命・目的を公表しており、学内外で周知されていると判断している。

1-3-③ 中長期的な計画及び 3 つの方針等への使命・目的及び教育目的の反映

【事実の説明】

- ・ 使命・目的に基づき、各学部学科における教育研究上の目的を定め、その目的を基本に、各学科は 3 つの方針を作成している。その 3 つの方針が使命・目的及び教育目的の反映になっているか、全学教務委員会で協議している。【資料 1-3-2】【資料 1-3-23～資料 1-3-26】
- ・ 平成 26(2014)年 7 月、全学教務委員会で本学の教育理念と 3 つのポリシーについての協議が行われ、10 月に本学ホームページ並びに大学ポर्टレートで公表した。【表 1-3-1】

【表 1-3-1】 徳島文理大学の教育理念と 3つのポリシー

建 学 精 神	「自立協同」
使 命	「学則」に明記した教育研究上の目的を達成すること
教 育 理 念	本学教育は「自立協同」の建学精神のもと、広く高い教養と高度の専門的知識技能を教授研究し、人格の陶冶を図り、もって、教育研究の成果を社会に提供するとともに、文化の創造と地域及び世界の発展に貢献することのできる人物の育成を理念として行われている。
教育研究上の目的	教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、自立協同の建学精神に基づき、広く高い教養と高度の専門的知識技能を教授研究し、人格の陶冶を図り、もって、教育研究の成果を社会に提供するとともに、文化の創造と地域及び世界の発展に貢献することのできる人材を育成することを目的とする。
ディプロマ・ポリシー	<p>本学の教育課程において、厳格な成績評価のもと、所定の単位を修得し、次のような能力を身につけた学生に学位を授与する。</p> <p>①「自立協同」の精神を基本に、幅広い教養と専門的知識を身につけ、健全な価値観と倫理観をもった良き市民として、幸せな人生を追求することができること。</p> <p>② 修得した知識と技能を活用しながら他者と議論し、問題の解決に取り組み、それを評価して次の思考と行動に活かしていくことができること。</p> <p>③新しい知識や経験に関心をもつとともに、立案した企画について、目的達成を目指し、家庭・地域・社会における協働を通じ、実践していくことができること。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>ディプロマ・ポリシーの提示する学位取得の要件を満たすことを目指す学生に対して、本学は次のような科目から成る教育課程を提供する。</p> <p>①社会に適応しつつもそれを改革できる人物に必要とされる、専門性にとどまらない教養を涵養するために、本学が、多様な専門教育機関を有する総合大学であるがゆえに提供できる「共通教育科目」。</p> <p>②文化・文明の進歩に貢献する、高度に専門的な知識・技能を開拓・活用できる人物となるために、本学の各学部学科が提供する「専門教育科目」。</p>
アドミッション・ポリシー	<p>本学の教育は、明治 28 年の学園創立以来、「自立協同」の建学精神に基づいて行われている。本学が求める学生像は次のとおりである。</p> <p>①教育理念、及び教育内容に共感し、強い学びの意欲を有する人</p> <p>②知識や技能を修得するために必要な基礎的学力など、大学教育を享受する備えができていく人</p>

【エビデンス集・資料編】

- 【資料 1-3-2】 ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/>]
(徳島文理大学について／教育理念と方針)
- 【資料 1-3-23】 ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/>]
(徳島文理大学について／教育情報の公表／Ⅲ．学生に関する情報／
受入方針 (アドミッション・ポリシー))
- 【資料 1-3-24】 ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/>]
(徳島文理大学について／教育情報の公表／Ⅴ．学修の成果に係る評
価及び卒業または修了の認定に当たっての基準)
- 【資料 1-3-25】 ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/>]
(徳島文理大学について／教育情報の公表／Ⅸ．教育上の目的に応じ
学生が修得すべき知識及び能力に関すること)
- 【資料 1-3-26】 全学教務委員会要綱

【自己評価】

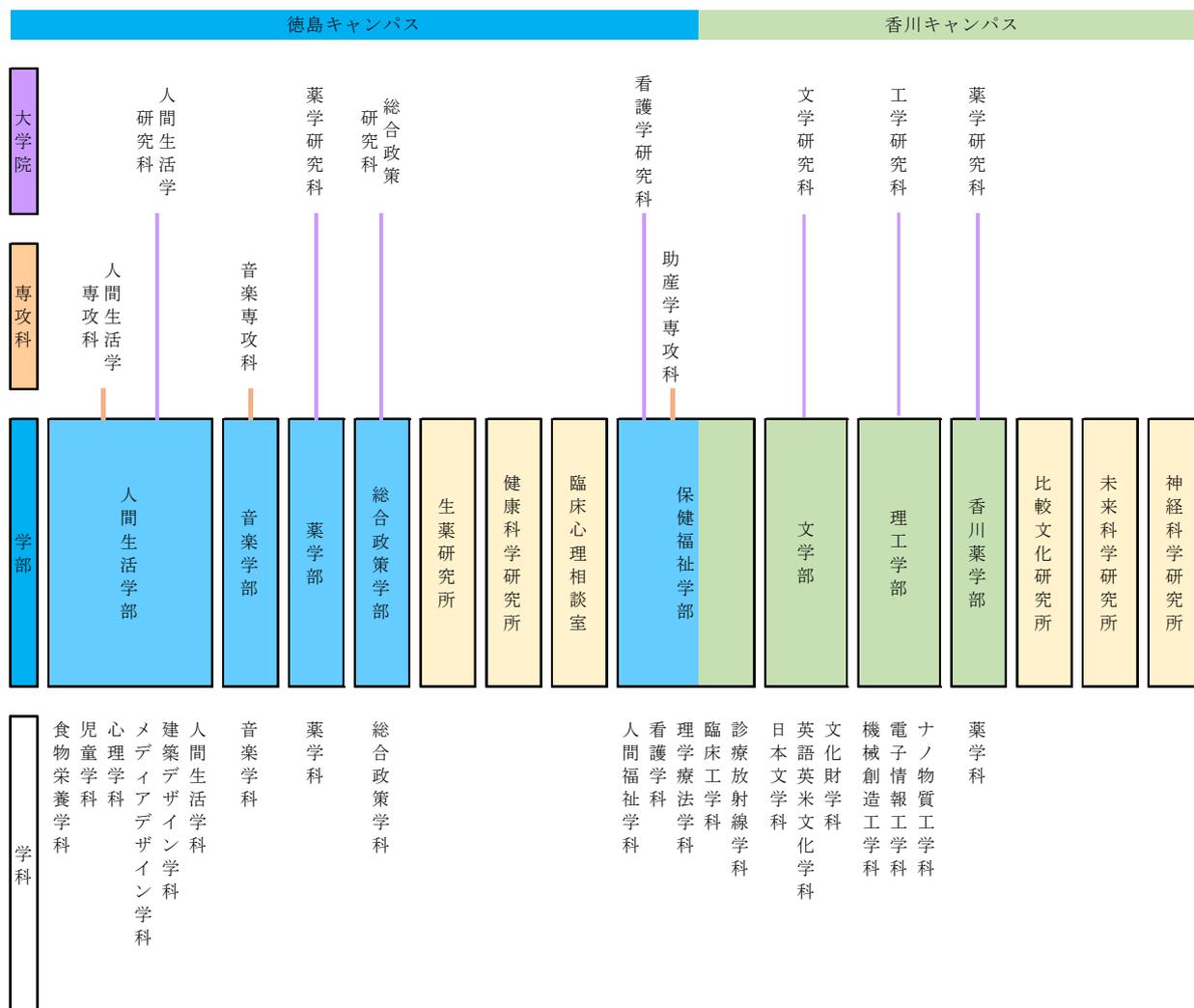
- ・ 3 つの方針等の立案においても、教育目的とその理念が十分に反映されていると判断している。

1-3-④ 使命・目的及び教育目的と教育研究組織の構成との整合性

【事実の説明】

- ・ 本学の教学部門は、学部・学科、研究科、専攻科、研究所、及び相談室から構成されている。【資料 1-3-27】【図 1-3-1】
- ・ 教育研究上の目的を達成するために、「徳島文理大学学則」第 2 章第 3 条に示すとおり、人間生活学部、音楽学部、薬学部、総合政策学部、保健福祉学部、文学部、理工学部、香川薬学部の 8 学部、21 学科を設置している。【資料 1-3-28】
- ・ 本学の「大学院学則」第 1 章第 3 条に示すとおり、平成 26(2014)年 4 月新設の看護学研究科を含む 6 つの大学院研究科、「専攻科規則」第 2 章第 2 条に記すとおり、3 つの専攻科を設置している。「学則」第 16 章第 52 条、第 17 章第 53 条、第 18 条第 54 条、第 19 章第 55 条、第 20 章第 56 条、第 21 章第 57 条に明記するとおり、5 つの研究所及び臨床心理相談室を設置している。【資料 1-3-29】【資料 1-3-30】
- ・ 部局長会は、本学の円滑な運営のため、「学園本部」、大学・短期大学部の「教学部門」及び「事務部門」の連絡調整機関である。【資料 1-3-31】
- ・ 部局長会において、教育方針等重要事項を評議し、学部（研究科）に係わる事項は学部教授会（研究科委員会）、大学全体に係わる事項は合同教授会で、それぞれ審議されている。これらの会議は毎月定期的に行われている。【資料 1-3-32～資料 1-3-34】

【図 1-3-1】 両キャンパスの教育研究組織



【エビデンス集・資料編】

- 【資料 1-3-27】 ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/>]
(徳島文理大学について／教育情報の公表／Ⅱ. 教育研究の概要
／学部、学科、研究科、課程、専攻の名称)
- 【資料 1-3-28】 平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (180-181 頁)
※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 1-3-29】 平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (215-216 頁)
※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 1-3-30】 平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (193-194 頁)
※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 1-3-31】 徳島文理大学部局長会規程
- 【資料 1-3-32】 徳島文理大学合同教授会規程
- 【資料 1-3-33】 徳島文理大学学部教授会規程
- 【資料 1-3-34】 徳島文理大学研究科委員会規程

【自己評価】

- 本学の使命・目的を実現するための学部・学科並びに教員構成となっているものと判断している。
- 教育研究組織の連携においては、部局長会、合同教授会等の全学的な連絡・調整機関、連絡・承認機関が、その円滑化に寄与していると判断している。

(3) 1-3の改善・向上方策（将来計画）

- 本学の使命・目的を学生に認識させるために、通常の授業の中で各教員がたびたび説明するよう工夫するとともに、各学部学科の教育研究活動の目的が、全学的に広く理解されるように、ICT（情報通信技術）化を含め周知方法等について一層の改善を図る。
- オープンキャンパス等を通じて、本学の教育研究活動の目的、各学部学科の特色を高校生に知らせることによって、地域社会に対して、信頼できる大学としての役割を示し、公開講演会の開催等を通じて社会に発信していく。
- 大学全体の3つの方針を定め、各学部学科の方針が大学全体の3つの方針に沿っているかの検討を行っている。また、中長期的な計画についてワーキンググループで協議し、自己点検・評価委員会で検討していく。
- 内容に大きな違いはないものの3つのポリシーに一部文言の相違が見られる。今後表記の統一を図る。

【基準1の自己評価】

- 本学の使命・目的及び教育目的は「自立協同」の建学精神を基本に作成され、法令に則った具体的かつ簡潔なものである。
- 全教職員が、教育・研究上の使命・目的を理解しており、目的実現のために必要な教育研究組織を有し、適切に運営されている。
- 学外へ本学の建学精神や使命・目的の周知は、大学案内、本学ホームページ等を通して行っている。
- 地域社会に対して、信頼できる大学としての役割を示し、社会に貢献するための努力を続ける。

基準 2. 学修と教授

2-1 学生の受入れ

≪2-1の視点≫

2-1-① 入学者受入れの方針の明確化と周知

2-1-② 入学者受入れの方針に沿った学生受入れ方法の工夫

2-1-③ 入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持

(1) 2-1の自己判定

基準項目 2-1 を満たしている。

(2) 2-1の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

2-1-① 入学者受入れの方針の明確化と周知

【事実の説明】

- ・ 本学の入学者受入方針（アドミッションポリシー）を大学案内及び入学試験要項等に記載・配布し、本学志願者及び高等学校等への周知を行うとともに、本学ホームページにも掲載し、広く入学志願者等に広報している。【資料 2-1-1～資料 2-1-21】

【表 2-1-1】

【表 2-1-1】アドミッションポリシー

各学部・学科でその専門となる内容を学ぶためには、広い視野と知識が求められます。このため、高等学校等で幅広く基礎的な勉強に励み、大学の授業を受ける土台を身につけた人を求めます。	
【人間生活学部】 6学科それぞれで、人間生活に欠かせない学問分野を専門的に学び、豊かな生活を創造できる実践的な専門家（管理栄養士、幼・小・中・高教員、保育士、情報処理士、建築士、認定心理士など）を養成します。そのために必要な基礎知識を有し、それを生活や勉学で生じる疑問の解決に応用することに興味・関心のある人、また継続的な努力のできる強い意志を持つ人を求めます。	
人間生活学科	食衣住、家庭、環境などについて、科学的、文化的に学びます。家庭科や養護教諭の資格が取得できるほか、生活者としての豊かな教養を養います。人と生活に関心があり、勉学に意欲のある人を求めます。
食物栄養学科	将来、管理栄養士になり、ヒトの健康の維持や疾病の予防また治療に貢献したいという明確な意志と目標を持った人を求めます。そのため、しっかりした基礎知識や能力を身につけ、学習に対する意欲や継続性、また協調性や柔軟性のある人を求めます。
児童学科	児童教育、児童心理や児童文化などについて、実践的な立場から学び、小学校教諭免許・幼稚園教諭免許や保育士資格が取得できます。子どもの教育・保育について強い関心があり、子ども一人ひとりの思いに寄り添って生きようとする意欲のある人を求めます。
メディアデザイン学科	メディアテクノロジーを活用して、現代社会のさまざまな問題解決のための企画・立案・実践を行うことのできる能力を身につけた人材を育成します。そのため、情報メディアの活用に関心がある人を求めます。
建築デザイン学科	生産技術などの知識を基礎にして、人間の感性や生活環境に対する深い理解をもとに、建築デザインを創造する人を求めます。そして、インテリアプランナー、インテリアコーディネーター、建築士、施工管理技士などの資格をめざして勉強できる人を求めます。
心理学科	現代心理学の知見にもとづく科学的な知識と思考（冷静な頭）と、臨床心理学

徳島文理大学

	<p>の基本である他者への共感的理解（温かい心）をもった人材を育成します。養護教諭や心理専門職、福祉職などの対人援助職をめざす人、また、職種に関わらず、人の心や社会とのつながりに関心を持ち、積極的・自主的に学ぶ意欲のある人を求めます。</p>
<p>【音楽学部】</p>	<p>音楽学部は、ピアノ、声楽、管弦打楽器、電子楽器、音楽療法の5コースを有し、少人数による細やかな指導を通して、演奏家、学校教員、音楽療法士など社会に貢献する有為な人材の育成を目標としています。</p> <p>音楽に対する能力、演奏技術を高め、恵まれた環境の中で豊かな感性を磨き、しっかりとした目的意識を持つことができる学生を育てます。</p>
<p>【薬学部】</p>	<p>薬学部では、チーム医療の一翼を担う、また、地域住民から信頼される「くすり」の専門家を育てています。そのような薬剤師になるには、専門的領域の学問を修め、協調性と思いやりを持った豊かな人間性を形成することが重要と考えています。そのために密度の高い日々の学習や研究活動への参加をとおして、確かな専門性、問題発見・解決能力、コミュニケーション能力の育成を図っています。このような薬学部での取り組みに共感し、薬学部の勉学に取り組みたいと強い意欲を持っている人材を求めます。</p>
<p>【総合政策学部】</p>	<p>総合政策学部では、「調べ・考え・議論する。そしてそれを文章にまとめる。」ということを繰り返す行うことを教育目標としています。</p> <p>民間企業で活躍できる人を育てる「企業経営コース」と、公務員をめざす「公共経営コース」にわかれて学びます。政治・経済・法律・社会・経営・情報・環境といった多様な社会科学の知識を習得し、将来、民間企業や行政機関で発生する課題に積極的に対応し、解決できる人材（ゼネラリスト）になりたい人を求めます。</p>
<p>【保健福祉学部】</p>	<p>人々の健康と福祉の向上をめざす、質の高い、社会に貢献できる有能な専門家（診療放射線技師、臨床工学技士、理学療法士、看護師、保健師、助産師、社会福祉士、精神保健福祉士）を育成します。そのために、高等学校等で幅広い基礎学力を身につけ、保健・医療・福祉に興味を持ち、継続的な努力ができる人を求めます。</p>
<p>人間福祉学科</p>	<p>「社会にたくさんの幸福をつくること」に貢献できる福祉の専門家（社会福祉士と精神保健福祉士）を育成します。</p> <p>「福祉」についての目的意識が明確であり、学習意欲の旺盛な、協調性と思いやりに富み、入学後の教育によって潜在能力が開花できる学生を求めます。</p>
<p>看護学科</p>	<p>人々の健康と福祉の向上をめざす、質の高い、社会に貢献できる有能なスペシャリスト（看護師、保健師、助産師）を育成します。そのために、高等学校等で幅広い基礎学力を身につけ、保健・医療・福祉に興味を持ち、継続的な努力ができる人を求めます。</p>
<p>理学療法学科</p>	<p>保健・医療・福祉（健康に関わる）分野の専門家として、「理学療法学」を通して、人々の「生命（いのち）」、「生活（くらし）」、「人生（生き方）」を支える（考える）ことのできる人材の育成をめざしています。これらの実現のために、客観的視野、創造的姿勢を持ち、継続的な努力を惜しまない「情熱人」を求めます。</p>
<p>診療放射線学科</p>	<p>日々大きく進歩を続けている医療技術に対応し、質の高い画像診断や放射線治療をめざし、チーム医療に貢献することのできる診療放射線技師を育成します。そのため、(1)人間に対する深い思いやりと豊かな人間味を持ち、(2)たゆまぬ努力と地道な自己研鑽を重ねることができ持続力と忍耐力を持ち合わせており、(3)他者の意見を聞き、協調して物事を進めることができるコミュニケーション力を持つ人物を求めます。</p>

徳島文理大学

臨床工学科	日々進化する高度な医療技術を提供できる「臨床工学技士」の養成をめざし、「自立協同」の建学精神のもと、チーム医療を実践できる医療人を育成します。そのため、(1)人間に対する深い思いやりと豊かな人間味を持ち、(2)明確な目的意識と旺盛な学習意欲、何事にも自分の意見を持ち、発言できる積極性があり、(3)他者と協同・協力してあらゆる問題解決にあたり、関わりを通して成長することのできる人物を求めます。
【文学部】	
日本文化とそれに関連の深い東アジアの文化、あるいは英語圏の文化に関する幅広い教養と、各学科のカリキュラムに基づき専門的な知識を身につけた、洞察力と協調性のある人材を育成します。文学部の各学科は、「自立協同」の建学の精神に則り、教員と学生、ならびに学生同士が議論を交わし、学生が自ら学びを深めていくよう教育しますので、感性に富み、問題意識を豊かに持つ、積極性のある人を求めます。	
日本文学科	日本文学に対する旺盛な好奇心や探究心を持っている人物を求めます。従って日本文学作品を味読及び分析するのに必要な読解力と文法力を身に付けていることが望まれます。
英語英米文化学科	英語や英語圏の文化に対する旺盛な好奇心や探究心を持っている人物を求めます。従って英語によるリーディングやライティングに関する基礎的な力を身に付けていることが望まれます。
文化財学科	文化財に対する旺盛な好奇心や探究心を持っている人物を求めます。従って文化財が成立する背景となる歴史的・地理的事実や資料を読み解くための基礎的な力を身に付けていることが望まれます。
【理工学部】	
社会に貢献できる有能な科学・技術者の養成をめざし、理工学的基礎の理解に加え、応用分野の知識と人や地球に優しい先端科学・技術を習得した実践的な人材を育成します。そのために、	
<ol style="list-style-type: none"> 1 自分の夢や目標をはっきり持ち、継続的な努力ができる人 2 柔軟な発想力を持ち、積極的な取り組みができる人 を求めます。	
機械創造工学科	ロボットや自動車など、機械や電子制御に興味を持ち、多くの仲間と協働作業をして「モノ」を作り上げることができる人を求めます。
電子情報工学科	電子・情報技術、電子回路、電気・電子機器、コンピュータ（ハードウェア、ソフトウェア）に興味があり、ものづくりが好きで精力的に取り組める人を求めます。
ナノ物質工学科	バイオ・医療あるいはナノ材料・ナノデバイスに興味を持ち、地球環境の維持に貢献したい人や、未知への探求と未来への創造に積極的に挑戦したい人を求めます。
【香川薬学部】	
今日の高度に専門化が進んだ医療に携わる薬剤師には、専門職としての薬および病気についての深い知識だけでなく、患者に寄り添う豊かな人間性と高い倫理観が強く求められています。香川薬学部では、先進的なチーム医療において「薬のスペシャリスト（専門職）」として貢献でき、病気の苦しみを理解して医療にあたることのできる薬剤師を養成します。	
このため、本学の建学の精神である自立協同を土台として、基礎および専門科目の十分な学力、優れた問題解決力、共感力に富んだコミュニケーション力を習得できるよう、医療 IT 技術を活用した少人数グループによる教育を行います。このような高い学識、技能と医療の心を身につけ、地域に密着して活躍する薬剤師をめざすため、意欲、探究心が旺盛で明朗な人材、医療に対して高い倫理観を持ち、薬学分野で貢献したいという強い志を持った人材を求めます。	

- ・ 入学者受入れの方針をはじめ本学の教育方針や本学各学部・学科の特色等について、徳島キャンパスは年間 7 回、香川キャンパスは年間 6 回オープンキャンパスを実施

- し、参加した高校生及び保護者等に周知を図っている。【資料 2-1-22】【資料 2-1-23】
- ・ 高等学校教員等を対象にした進路説明会を徳島、香川両キャンパスで実施するとともに、徳島（7会場）・香川（5会場）・愛媛（3会場）・高知（3会場）・岡山（1会場）でもブロック進学説明会において、受入れの方針や本学の教育方針等の周知に努めている。【資料 2-1-24】

【エビデンス集・資料編】

- 【資料 2-1-1】平成 28 年度徳島文理大学入学試験要項 ※【資料 F-4】と同じ
- 【資料 2-1-2】平成 28 年度徳島文理大学指定校制推薦入学試験要項
※【資料 F-4】と同じ
- 【資料 2-1-3】平成 28 年度スポーツ・芸術（音楽）推薦入学試験要項
※【資料 F-4】と同じ
- 【資料 2-1-4】平成 28 年度編入学試験要項 ※【資料 F-4】と同じ
- 【資料 2-1-5】平成 27 年秋季編入学試験要項 ※【資料 F-4】と同じ
- 【資料 2-1-6】2015 年 9 月編入学 2016 年 4 月編入学
外国人留学生のための編入学試験要項 ※【資料 F-4】と同じ
- 【資料 2-1-7】平成 28 年度春季 薬学研究科（4 年制）学生募集要項
※【資料 F-4】と同じ
- 【資料 2-1-8】平成 28 年度人間生活学研究科博士前期課程学生募集要項
※【資料 F-4】と同じ
- 【資料 2-1-9】平成 27 年度人間生活学研究科博士後期課程学生募集要項
※【資料 F-4】と同じ
- 【資料 2-1-10】平成 28 年度文学研究科博士前期課程・後期課程学生募集要項
※【資料 F-4】と同じ
- 【資料 2-1-11】平成 28 年度工学研究科学生募集要項 ※【資料 F-4】と同じ
- 【資料 2-1-12】平成 27 年度総合政策研究科募集要項（一般入試・社会人特別入試）
※【資料 F-4】と同じ
- 【資料 2-1-13】平成 27 年度総合政策研究科募集要項（外国人留学生のための入試）
※【資料 F-4】と同じ
- 【資料 2-1-14】平成 28 年度看護学研究科修士課程
（一般入学試験・社会人入学試験） ※【資料 F-4】と同じ
- 【資料 2-1-15】平成 28 年度専攻科入学試験要項（人間生活学・音楽）
※【資料 F-4】と同じ
- 【資料 2-1-16】平成 28 年度助産学専攻科入学試験要項 ※【資料 F-4】と同じ
- 【資料 2-1-17】平成 28 年度 AO 入試要項 ※【資料 F-4】と同じ
- 【資料 2-1-18】2016 年度外国人留学生のための入学試験要項
※【資料 F-4】と同じ
- 【資料 2-1-19】2016 年 4 月入学 2016 年 9 月入学外国人留学生のための指定校制
推薦入試要項 ※【資料 F-4】と同じ
- 【資料 2-1-20】ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/>]

(徳島文理大学について／教育情報の公表／Ⅲ. 学生に関する情報／
受入方針 (アドミッション・ポリシー)) ※【資料 1-3-23】と同じ

【資料 2-1-21】 ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/>] (入試情報)

【資料 2-1-22】 2015 年オープンキャンパスリーフレット

【資料 2-1-23】 2014 オープンキャンパス参加者数

【資料 2-1-24】 平成 27 年度進学説明会・ブロック進学説明会予定表

【自己評価】

- ・ 建学精神に基づいた教育研究上の目的や教育方針を掲げ、それに応じて明確に定めた入学者受入れの方針は、大学案内、入学試験要項等及び本学ホームページ等に掲載するとともに、オープンキャンパスや各種広報活動等を通して、広く周知されていると判断している。

2-1-② 入学者受入れの方針に沿った学生受入れ方法の工夫

【事実の説明】

- ・ 18 歳人口の減少に伴い、平成 27(2015)年度の学部学科全体の志願者数は減少しており、また、本四架橋による移動時間の短縮により関西方面への受験生の流出もあり、更なる志願者数増加に向けた工夫や努力が必要である。
- ・ 入学試験要項には、入学者受入れの方針や入学試験に関する詳細な説明を記載し、多彩な才能、資質、経歴を持つ学生や社会人、大学の国際化に合わせて外国人留学生等を広く受け入れるための入学試験を実施している。学力試験を課した入学試験だけでなく面接や特技及び高等学校における実績等を活用し、多面的に判断できる入試制度を設け、多様な学生が受け入れられるよう努めている。【資料 2-1-1】
- ・ 本学における学力試験を課さない入試は、指定校制推薦入試、スポーツ・芸術（音楽）推薦入試及び AO 入試が該当する。学力だけでなく、面接や特技及び高等学校における実績等を活用できる試験を実施し、多様な学生が受け入れられるよう努めている。【資料 2-1-2】【資料 2-1-3】【資料 2-1-17】【資料 2-1-19】
- ・ 本学を受験しやすいように複数の受験機会を設けるとともに、受験科目にも工夫を持たせている。【資料 2-1-1】【表 2-1-2】

【表 2-1-2】 複数の受験機会を設けている入試

AO 入試	エントリー期間を 6 期に分けて実施		
公募制一般入試	I 期	全学部	I・II 期に分けて実施
	II 期	薬学、香川薬学、理工、文	
一般入試	I 期	A 日程 (全学部)	A・B 日程に分けて実施
		B 日程 (全学部)	
	II 期	A 日程 (音楽学部以外)	A・B 日程に分けて実施
		B 日程 (全学部)	
III 期	A 日程 (音楽学部のみ)		
大学入試センタ	I 期	全学部	I・II・III 期に分けて

一試験利用入試	Ⅱ期	全学部	実施
	Ⅲ期	全学部	

- ・ 徳島、香川両キャンパスでの入試だけでなく多くの地方試験会場で入学試験を実施することにより、日本各地から志願者を募り、志願者の拡大を図るとともに、多様な学生が受け入れられるよう努めている。【資料 2-1-1】
- ・ 学園創立 120 周年を記念した新たな奨学金や特待生制度を新設し、卒業生の子弟や本学専願者の増加を図るとともに、家庭の事情や経済状況により就学困難な学生や本学のリーダーとなる人材確保に努めている。【資料 2-1-25】
- ・ 入学試験の実施方針、日程、実施教科科目などについて全学入試委員会で毎年検討し、インターネット出願や学部学科の第 2・第 3 希望制の拡大、大学と短期大学部との併願制の導入などを図った。また、入学試験問題は、入学試験問題作成委員会において検討後、全ての入学試験問題を本学教職員が作成し、公正公平な入試ができるよう努めている。【資料 2-1-26】
- ・ AO 入試、指定校推薦入試の入学予定者とそれ以外の入学予定者の希望者に大学教育の動機付けや学修サポートとして入学前教育を実施していたが、時期等が異なっていたため、全学部で統一した様式・内容にする予定である。また、通信機器を活用する e ラーニングも取り入れ、入学者予定者の定着や大学での学修の不安解消に努めている。【資料 2-1-27】
- ・ 大学院研究科修士課程及び博士課程とも入学者数は減少している。このことから、定員充足に向け、魅力ある大学院づくりや学内からの進学者の確保等に努めていく。また、併せて 9 月入学など外国人に対する留学制度を充実させることにより外国人の受け入れについても積極的に取り組んでいく。【資料 2-1-13】

【エビデンス集・資料編】

【資料 2-1-1】平成 28 年度徳島文理大学入学試験要項 ※【資料 F-4】と同じ

【資料 2-1-2】平成 28 年度徳島文理大学指定校制推薦入学試験要項

※【資料 F-4】と同じ

【資料 2-1-3】平成 28 年度スポーツ・芸術（音楽）推薦入学試験要項

※【資料 F-4】と同じ

【資料 2-1-13】平成 27 年度総合政策研究科募集要項（外国人留学生のための入試）

※【資料 F-4】と同じ

【資料 2-1-17】平成 28 年度 AO 入試要項 ※【資料 F-4】と同じ

【資料 2-1-19】2016 年 4 月入学 2016 年 9 月入学外国人留学生のための指定校制

推薦入試要項 ※【資料 F-4】と同じ

【資料 2-1-25】徳島文理大学奨学金・特待生制度リーフレット

【資料 2-1-26】全学入試委員会規程

【資料 2-1-27】平成 26 年度 e ラーニングシステムを使った入学前教育実施について

【自己評価】

- ・ 入学者受入れの方針に基づいて多様な入試制度を設け、多彩な才能を持つ学生や社会人、外国人を受け入れる体制を敷くとともに、新たな奨学金や特待生制度の新設、入学前教育の充実等により入学予定者の定着を図る取り組みを進めている。また、入学試験問題についても高等学校の新課程や志願者の多様化に合わせた入試問題を学内で作成しており、志願者数の増加に向け工夫と努力を重ねていると判断している。

2-1-③ 入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持

【事実の説明】

①学部学科

- ・ 平成 27(2015)年度学部学科全体の入学定員に対する入学者数の比率は、0.75 であった。【データ編・表 2-1】
- ・ 入学定員に対して入学者数が超過している学科は、保健福祉学部診療放射線学科(比率 1.1)、看護学科(比率 1.1)、理学療法学科(比率 1.0) である。【データ編・表 2-1】

②専攻科

- ・ 音楽専攻科器楽専攻(比率 1.3)、声楽専攻 (比率 1.0)、助産学専攻(比率 0.8)を除く専攻科は、収容定員に対する在籍学生数の比率が 0.7 以下となっている。【データ編・表 F-4】

③大学院

- ・ 人間生活学研究科心理学専攻(比率 1.0)、看護学研究科修士課程(比率 0.9)を除く大学院研究科は、収容定員に対する在籍学生数の比率が 0.7 以下となっている。【データ編・表 F-5】

【エビデンス集・データ編】

【データ編・表 2-1】 学部、学科別の志願者数、合格者数、入学者数の推移
(過去 5 年間)

【データ編・表 F-4】 学部・学科の学生定員及び在籍学生数／専攻科

【データ編・表 F-5】 大学院研究科の学生定員及び在籍学生数

【自己評価】

- ・ 平成 27(2015)年度の学部学科全体の入学定員に対する入学者数の比率は、0.7 である。平成 25(2013)年度から微減しており、高校生から選ばれる魅力ある大学、学部学科にする努力が必要である。そのため、学部学科の授業内容の改善はもとより、国家試験対策の充実や就職試験対策などの改善、新たな奨学金・特待生制度の創設などに取り組んでいるため、基準を満たしていると判断している。

(3) 2-1 の改善・向上方策 (将来計画)

- ・ 入学定員に対する入学者数が 70%を満たしていない状況が続いている学部学科があることを真摯に受けとめている。このことを改善するため、各学部・学科で更なる

改善につながる方策がないか教授会等で検討し、たとえ小さくとも実施可能な改善策から実施していき、入学定員の充足を図っていく。

- ・ 常に社会や志望者のニーズに注視するとともに、アンケート調査や授業評価等から在籍生や志願者からの声を参考に、改善策の検討に活かしていく。
- ・ 本学の入学者受入れの方針を大学案内及び AO 入試要項をはじめ各入学試験要項等に記載・配布し、本学志願者及び高等学校等への周知を行なうとともに、本学ホームページにも掲載し、広く入学志願者等に広報してきたが、これらに加え、各学部・学科の特色がよくわかる案内、就職状況等志願者・保護者が求めている資料を準備し、本学教職員が高校を訪問するなど、できるだけ細やかな広報を進めていく。
- ・ オープンキャンパスや本学への大学訪問など、できるだけ多くの志願者・高校生・保護者が本学を訪問してくれる機会をつくり、本学を理解しその魅力や秀でた点を実際に見聞してもらえよう努めていく。
- ・ 全学入試委員会において、現行の入試制度がよりよいものとなるよう課題や改善策について検討していく。
- ・ 各学部学科の教育効果を上げ高校生から魅力ある教育内容とするため、教職員の意識改革を図ることはもとより、学部学科の教育課程の見直しや国家試験対策、就職試験対策の再構築を図っていく。
- ・ 地域社会のニーズに応えた学科の新設や入学定員の見直しなどに取り組む予定である。

2-2 教育課程及び教授方法

《2-2 の視点》

2-2-① 教育目的を踏まえた教育課程編成方針の明確化

2-2-② 教育課程編成方針に沿った教育課程の体系的編成及び教授方法の工夫・開発

(1) 2-2 の自己判定

基準項目 2-2 を満たしている。

(2) 2-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

2-2-① 教育目的を踏まえた教育課程編成方針の明確化

【事実の説明】

教育課程編成方針の明確化

① 学部

- ・ 大学設置基準第 19 条に則り、本学の各学部学科においては、専門的教育（及び一部の学部学科においては専門的職業準備教育）を実践するとともに、学生が一般総合科目及び周辺領域を幅広く学ぶことにより、深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することができるように教育課程を適切に編成している。また、平成 26(2014)年には全学のカリキュラムポリシーを作成し、本学ホームページや大学ポートレートで公表した。学部学科ごとに全学の教育課程編成方針に沿った教育課程編成方針を作成し、全学教務委員会において教育目的に沿った内容であるかを協議している。【資料 2-2-1～資料 2-2-4】

- ・ 教育目的の達成のために、各学部では年度の初めに学生に履修ガイド、あるいは要覧を配布し、かつオリエンテーションを行って、教育課程の編成方針、学生にとって卒業に必要な単位数、履修科目について説明する。なお、各学部の履修ガイドや要覧には教育課程の編成の考え方、その特色がまとめて明記されている。平成3(1991)年の大学設置基準の大綱化により、設置基準上の科目区分が廃止されたが、本学では引き続き一般総合科目、専門教育科目を設け、教育目的達成のために低年次に一般総合科目・専門導入科目の履修を取り入れたくさび型の教育課程を編成している。【資料 2-2-5～資料 2-2-15】

② 研究科

- ・ 各研究科の教育課程は、それぞれの専攻分野に関する高度な専門的知識及び能力を修得させるとともに、その専攻分野に関連する素養を涵養するよう編成方針を定めている。【資料 2-2-1】 【資料 2-2-16】

【エビデンス集・資料編】

- 【資料 2-2-1】 平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-2-2】 ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/>]
(徳島文理大学について/教育理念と方針) ※【資料 1-3-2】と同じ
- 【資料 2-2-3】 全学教務委員会要綱 ※【資料 1-3-26】と同じ
- 【資料 2-2-4】 第 2 回・第 4 回全学教務委員会議事
- 【資料 2-2-5】 平成 27 年度人間生活学部履修ガイド ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-2-6】 平成 27 年度音楽学部履修ガイド ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-2-7】 平成 27 年度薬学部要覧 (平成 27 年度入学生) ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-2-8】 平成 27 年度薬学部要覧 (平成 26 年度以前入学生)
※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-2-9】 平成 27 年度総合政策学部履修ガイド ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-2-10】 平成 27 年度保健福祉学部履修ガイド (徳島キャンパス)
※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-2-11】 平成 27 年度保健福祉学部履修ガイド (香川キャンパス)
※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-2-12】 平成 27 年度文学部履修ガイド ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-2-13】 平成 27 年度理工学部履修ガイド ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-2-14】 平成 27 年度香川薬学部要覧 (平成 27 年度入学生)
※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-2-15】 平成 27 年度香川薬学部要覧 (平成 26 年度以前入学生)
※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-2-16】 2015 年度薬学研究科要覧 ※【資料 F-5】と同じ

【自己評価】

- ・ 本学は、建学の精神に基づいた教育研究上の目的を踏まえた教育課程編成方針を全学部・学科で適切に作成し、本学ホームページと大学ポータルで公表しており、

明確化されていると判断している。

2-2-② 教育課程編成方針に沿った教育課程の体系的編成及び教授方法の工夫・開発

【事実の説明】

(1) 教育課程の編成

①学部

- ・ 本学では、学修成果や教育研究上の目的を明確化した上で、教育課程編成方針を作成している。またその達成に向け、順次性のある体系的な教育課程を編成に努めている。この体系的な教育課程を編成するために、全学部学科でカリキュラムマップを作成している。これらのカリキュラムマップを一部の学部・学科で「履修ガイド」により、学生に提示している。また、科目間の関連や科目内容の難易を表現する番号を付ける「ナンバリング」については、現在全学教務委員会で検討している。【資料 2-2-2】【資料 2-2-5～資料 2-2-15】

③ 大学院

- ・ 研究科修士課程及び博士前期課程は、広い視野に立って専攻分野を研究し、精深な学識と研究能力を養うことを目的として、教育課程を編成している。【資料 2-2-2】
- ・ 博士後期課程は、専攻分野について自立できる研究者として、研究活動を行うのに必要な高度な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を獲得できるように編成している。【資料 2-2-2】【資料 2-2-16】

④ 専攻科

- ・ 音楽専攻科、人間生活学専攻科及び助産学専攻科は、「学則」に基づいた教育課程を編成している。【資料 2-2-17】
- ・ 平成 23(2011)年よりシラバスには全科目で科目の到達目標と成績評価の方法・基準を明記している。平成 25(2013)年度よりシラバスには、アクティブ・ラーニングを推進するために全科目で授業形態を明記している。また、学士課程教育の質的転換を目的とした学修時間の実質的な増加・確保を図るため、授業時間外学習の欄を設け学生に事前の準備や事後の展開など時間外学修を促すための取組を行っている。シラバスの記載内容が適正か否かについては、各学部長・学科長等が点検している。【資料 2-2-18】
- ・ 単位制度の実質を保つため、大学設置基準の第 27 条の 2 に則り、履修登録単位数の上限を定め、履修規程に示している。履修規程には、「各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として修得すべき単位数について、1 年間に履修科目として登録することができる単位数の上限は原則として 40 単位とする。ただし、各学部の定めるところにより、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、40 単位を超えて履修科目の登録をすることができる。したがって、その上限を考慮して適切な履修計画を立てなければならない。」と規定している。担任並びにチューターはその上限を考慮して適切な履修計画を立てるよう指導している。【資料 2-2-19】
- ・ これまで 1 年を前後期に分け、1 つの科目を 1 週間に 1 コマで 15 週履修するセメス

ター制を実施してしていたが、平成 26(2014)年度より一部の科目で前期・後期をそれぞれ二つに分け、1 週間に 2 コマで 8 週履修するクォーター制を導入した。本学のクォーター制の導入のねらいは下表の通りである。【資料 2-2-20】【表 2-2-1】

【表 2-2-1】クォーター制導入のねらい

クォーター制導入のねらい
①受講科目数を減少させ、学修に集中することで、理解度を向上させる。
<ul style="list-style-type: none"> ・受講科目数が減り、講義が週 2 回行われるため、学修に集中でき、講義毎の理解度を向上させることができる。 ・講義内容の進度が速くなるため、緊張感を持って学修ができる。 ・記憶が薄れる前に次の授業があり、学修記憶のアップにつながる。
②試験時の負担が分散し、試験の評価が上がる。
<ul style="list-style-type: none"> ・受講科目数が減るため試験科目が減少し、定期試験時の負担が分散して勉学に集中できるため、試験の評価が上がる。 ・再試験となる科目数も減少する。

(2) 教授方法の工夫・開発

- ・ 教授方法の工夫・改善については、FD 活動として取り組んでいる。そのうち、FD 研究部会で企画・運営を実施しているものは、①授業改善のための FD 研修会・講演会の学内開催及び学外研修会への派遣、②全学部で実施する研究授業と意見交換会、③授業に対する学生の授業評価アンケート及び評価結果に対しての教員からのフィードバックである。【資料 2-2-21】【資料 2-2-22】
- ・ 研究授業は「教員相互による授業参観」に加え、授業技術向上のための目標・実施期間を設定した「目標設定型」、一定期間にすべての講義を自由に聴講できる「オープンクラスウィーク」の 3 形態を設けており、平成 26(2014)年度からはアクティブ・ラーニングを取り入れた研究授業を推進している。研究授業後における意見交換会での討議などを通して授業改善を図っている。【資料 2-2-21】【資料 2-2-22】
- ・ よりよい授業の在り方を考えていくために実施する全学授業評価アンケートは、教員には授業に対する改善点の発見、学生には授業への取り組みを向上させる契機になることを求めている。そのため、評価結果に対するフィードバックを「アクションプランシート」にまとめ、結果と併せて学内の端末から Web で閲覧できるようにしている。【資料 2-2-21】【資料 2-2-22】

【エビデンス集・資料編】

【資料 2-2-2】 ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/>]

(徳島文理大学について/教育理念と方針) ※【資料 1-3-2】と同じ

【資料 2-2-5】 平成 27 年度人間生活学部履修ガイド ※【資料 F-5】と同じ

【資料 2-2-6】 平成 27 年度音楽学部履修ガイド ※【資料 F-5】と同じ

【資料 2-2-7】 平成 27 年度薬学部要覧 (平成 27 年度入学生) ※【資料 F-5】と同じ

- 【資料 2-2-8】平成 27 年度薬学部要覧（平成 26 年度以前入学生）
※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-2-9】平成 27 年度総合政策学部履修ガイド ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-2-10】平成 27 年度保健福祉学部履修ガイド（徳島キャンパス）
※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-2-11】平成 27 年度保健福祉学部履修ガイド（香川キャンパス）
※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-2-12】平成 27 年度文学部履修ガイド ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-2-13】平成 27 年度理工学部履修ガイド ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-2-14】平成 27 年度香川薬学部要覧（平成 27 年度入学生）
※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-2-15】平成 27 年度香川薬学部要覧（平成 26 年度以前入学生）
※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-2-16】2015 年度薬学研究科要覧 ※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-2-17】徳島文理大学専攻科規則 ※【資料 F-3】と同じ
- 【資料 2-2-18】Web シラバスについて
- 【資料 2-2-19】平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド（35-36 頁）
※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-2-20】平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド（2-5 頁）
※【資料 F-5】と同じ
- 【資料 2-2-21】2014（平成 26 年度）FD 研究部会活動報告書
- 【資料 2-2-22】ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/>]
（教育・研究支援／授業改善活動（FD 活動））

【自己評価】

- ・ 本学の教育課程編成方針は、各学部学科の教育研究上の目的に即して策定されている。各学部・学科の教育課程は、基礎的内容から専門性の高い内容までを体系的に編成するためカリキュラムマップを作成している。これらに基づくシラバスは、本学ホームページや一部学部では、履修ガイドに記載されており、充実した教育課程が進められていると判断している。
- ・ クォーター制導入の効果について、受講生と授業担当者にアンケート調査を実施した。クォーター制と Semester 制の併用であり、受講者と授業担当者にもまだ戸惑いがあるが受講者と授業担当者ともに授業の理解度が高くなったと答えており、クォーター制導入の効果があると判断している。
- ・ 単位制度の実質を保つため、1 年間に履修科目として登録することができる単位数の上限を原則として 40 単位とすることを定め、キャンパスガイドの履修規程に示している。担任・チューターはその上限を考慮して履修計画を立てるよう、適切に指導を行っているものと判断している。
- ・ 教育方法の改善については、FD 研究部会が中心となり、計画的で有効な活動を実施している。

(3) 2-2 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 履修登録単位数の上限により、各年次にわたって適切に授業科目を履修できるよう引き続き、きめ細かい履修指導を行うように努める。
- ・ クォーター制については、その効果についてアンケート調査を行い、その結果を全学教務委員会で検討していく。
- ・ シラバス作成については、全学教務委員会と FD 研究部会でシラバス作成要領を作成し、到達目標を観点別の観点①知識・理解②態度（関心・意欲）③技能（表現）④思考・判断の領域別に記述するなど充実に努める。

2-3 学修及び授業の支援

《2-3 の視点》

2-3-① 教員と職員の協働並びに TA(Teaching Assistant) 等の活用による学修支援及び授業支援の充実

(1) 2-3 の自己判定

基準項目 2-3 を満たしている。

(2) 2-3 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

【事実の説明】

- ・ 徳島・香川両キャンパスに同様の学修支援体制を整備し、学生へのサービス機能の向上に努めている。
- ・ 新入生支援としては、指定校制推薦入試・AO 入試での早期合格者に対する入学前教育、初年時教育として1年生を対象に必修科目として「文理学」を実施している。
【資料 2-3-1】【資料 2-3-2】
- ・ 教員による学生支援としては、各学部・学科にチューター・担任あるいはその両方を置き、学生の学修支援を行っている。支援内容は、履修登録・学修相談、前期・後期に及ぶ学修成績のモニタリング、その他必要に応じた指導・助言である。学習ポートフォリオの使用を新入生に指導して、学期ごとに学習目標や学習状況を記入させ、それをもとに担任・チューターが面談等を行い学生の自立した学びを支援している。【資料 2-3-3】
- ・ 学力充実の対策としては、徳島キャンパスの全学共通教育センターでは、日本語、数学、理科、社会、音楽、簿記、パソコン等の学力充実講座、香川キャンパスでは、数学、物理、化学等の一般総合科目の支援を目的として、学力向上対策指導・講座を開設し、学生の基礎学力の充実に支援している。【資料 2-3-4】【資料 2-3-5】
- ・ 徳島キャンパスの語学センターでは、英語の教員による「英語ステップアップ講座」を開設し、また、外国人教員による「イングリッシュチャットタイム」「コリアンチャットタイム」「中国語チャットタイム」を開設して、英語をはじめとした外国語の学力向上に努めている。香川キャンパスでも英語の勉強方法や資格試験に関することで親身に相談できる体制が整っている。【資料 2-3-6】【資料 2-3-7】
- ・ 全学共通教育センターでは、平成 22(2010)年度から e ラーニングシステムを導入し、学生の基礎学力の充実に努めることで学修及び授業支援を行い、希望する学生が登録

して学内で活用している。全学共通教育センターでは、さらに教員養成対策として教員を目指す学生のための課題別研修会の実施や学外への研修会への学生参加支援を行い、教職実践力の充実に支援している。徳島キャンパスの教員養成対策講座は、月曜日から金曜日の毎週の定期講座を前期・後期に実施し、希望する学生が受講している。特別講座は、前期に実施していたが春休み中に課題別で実施している。公務員対策講座は、毎週水又は金曜日に科目別で実施をしている。前期は 14 回、後期は 12 回実施している。また、期間中毎週 1 日公務員相談を実施している。香川キャンパスでは、テーマを決め前期に 13 回、後期に 12 回の教員採用試験対策講座を実施している。【資料 2-3-4】【資料 2-3-5】

- ・ 全学共通教育センターが行っている学力充実対策講座（数学講座）では個別に相談に来る学生が多いため、教員だけでは対応することが難しい状況がある。そこで、教員のアシスタントとして、TA が個別指導にあたる。主に、数学の問題の解き方がわからなくて相談に来た学生の助言役として活動している。【資料 2-3-8】【資料 2-3-9】
- ・ 香川キャンパスでは物理（数学）担当の専任教員が常駐し、物理、数学のほか電気・電子工学など専門科目の基礎指導に即応できる体制をとっている。また、各学部から選出された基礎教育担当委員（約 20 人）とも連携しつつ全学的に指導に当たっている。
- ・ 担任教員や学科所属教員は研究室にいる時間をオフィスアワーとして設け、学生に周知している。この時間内に学生は関係教員を訪問し、指導・助言を受けることができる。【資料 2-3-10】
- ・ 学生部としての支援については、学生部には学生サポートスタッフを配置し、学生支援を含む学生生活全般の相談に応じている。通常対応する受付カウンターの他に、プライバシーに配慮した個別の相談室も設けている。
- ・ 研究室での学修支援については、実験・実習・討論を通じて専門分野の知識・技能を身につけさせる。この期間に研究室教員の指導のもとで学生は人生の友だちを見出し、先輩と後輩の縦の関係を知り、人間としての成熟を迎える。特に資格等取得のために国家試験を受験する学科では、教員が卒業研究の指導を行うと同時に国家試験対策の指導も行っている。
- ・ 徳島キャンパスメディアセンターとしての支援としては、3 階のメディアラボ、5 階のマルチメディア室のパーソナルコンピュータとグループ学修のための教室を個人又はグループで使用できるようにして学生の学修支援を行っている。5 階の語学センターには、同時通訳や語学力を診断改善する語学クリニック等が設置され学生の英語力の向上に役立っている。CALL 室のコンピュータを利用した英語学修環境やプレゼンテーション室でパーソナルコンピュータを見ながら本格的かつ実践的にディベートができる学修環境が整備されている。6 階の全学共通教育センターでは、教員養成対策も行っており、上記の学力充実講座の他に、面接講座、論文講座など様々な教員養成対策講座を実施している。
- ・ 府県別保護者会における保護者との面談において、学生の意見や要望が保護者を通じて得られた場合は、面談報告を受けた総務部が対応している。保護者会での面談

は、保護者や学生からの要望を受け付けるだけでなく、学生の成績状況等の情報交換の場でもある。【資料 2-3-11】

- ・ 本学には、学長を委員長とし、各学部長・学科長等が委員である「退学者防止対策検討委員会」が設置されている。この委員会では、退学者の実態調査を実施するとともに、退学者防止対策として全学的に取り組む具体的な内容に関して検討している。【資料 2-3-12】
- ・ 退学者防止対策検討委員会では、入試区分別退学者について、退学者数をもとに入試区分別の指導について議論した。また、退学者の個人別に退学時までの修得単位数、退学時までの累積 GPA、退学者に対しての個人面接の回数、退学者からの学生相談を調査し、委員会でそれをもとに議論した。また、各学部・学科の中途退学防止に向けての対策を報告し議論している。
- ・ 平成 26 年度入学生の内、AO 入試並びに指定校推薦合格者には入学後、スムーズに専門的な学修ができるよう e ラーニングシステムを使った入学前教育を実施している。【資料 2-3-13】
- ・ 教員免許状取得を目指す学生が作成しなければならない「教職履修カルテ」は、本学では電子化されており、コンピュータで管理・保存している。学生に対する説明会、教職員に対する活用研修会を年間各 1 回ずつ開催して円滑な利用を図っている。【資料 2-3-14】 【資料 2-3-15】

【エビデンス集・資料編】

【資料 2-3-1】平成 28 年度 AO 入試要項 ※【資料 F-4】と同じ

【資料 2-3-2】新入学生オリエンテーション (32 頁) ※【資料 1-3-18】と同じ

【資料 2-3-3】学習ポートフォリオ (学生用) 取扱説明書

【資料 2-3-4】ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/>]
(教育・研究支援／全学共通教育センター)

【資料 2-3-5】新入学生オリエンテーション (27-30 頁) ※【資料 1-3-18】と同じ

【資料 2-3-6】ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/>]
(教育・研究支援／語学センター)

【資料 2-3-7】新入学生オリエンテーション (15-22 頁) ※【資料 1-3-18】と同じ

【資料 2-3-8】H26 年度全学共通教育センター利用状況

【資料 2-3-9】ティーチング・アシスタント規程

【資料 2-3-10】オフィスアワーについてお願い

【資料 2-3-11】2014 年度保護者会支部会開催のご案内

【資料 2-3-12】退学防止対策検討委員会設置要領

【資料 2-3-13】平成 26 年度 e ラーニングシステムを使った入学前教育実施について
※【資料 2-1-27】と同じ

【資料 2-3-14】平成 26 年度教職履修カルテ説明会資料

【資料 2-3-15】教職履修カルテ (学生用・教員用) 取扱説明書

【自己評価】

- ・ 新入生支援として入学前教育・導入教育（「文理学」、学習ポートフォリオを用いた指導）の充実に力を入れている。入学直後、チューター・担任が、責任を持ってオフィスアワーを活用した少人数でのきめ細かな指導を行っている。
- ・ 学生部は、学生にとって身近な相談窓口になっており、学生の多様な意見を受け付けている。総務部は、保護者会で得られた保護者等からの意見を取りまとめ対応している。チューター・担任による学修支援は、退学者対策も含め役立っている。
- ・ 全学共通教育センターで行われている講座は、学生の基礎学力向上に寄与している。
- ・ 全学共通教育センターで実施している教員・幼保採用試験対策講座は、学生の意欲と学力を向上させ、堅実な成果をあげている。
- ・ 退学者防止対策検討委員会で退学者の実態調査や各学部・学科の取組等について議論し、対応を行っている。
- ・ eラーニングシステムを使った入学前教育は、アンケート調査の結果、半数に近い使用者から有意義であったとの評価を得ている。
- ・ 「教職履修カルテ」の活用を通して、教職員のきめ細かな学生への支援ができています。また、「教職履修カルテ」の活用により、学生の教職実践力が向上している。
- ・ このようなことから、本基準を満たしていると判断している。

(3) 2-3の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 教員は、オフィスアワーの面談時間等の設定を含め学生ポータルサイトを通じ、学生との双方向的緊密な連絡が取り合えるようにし、一層の学修支援に努める。
- ・ 中途退学防止に向けての対策としては、退学者防止対策検討委員会で引き続き、全学的に取り組む効果的で具体的な対策について協議していく。
- ・ 「学習ポートフォリオ」の効果的な活用について共通理解を図り、全学で学生の自立した学びを支援する。
- ・ 全学共通教育センターでの学修指導は、大学入学初期における高校からの主要科目（数学、物理、英語、日本語等）の橋渡しの役割を果たし、主に一般総合科目担当者が行っている。生化学や分子生物学、電気・電子工学などの専門科目を学び始めた学生に対し、これらに関する基礎的な内容の理解を支援するためにも学部専門科目担当者を加えて充実を図る。
- ・ 指定校制推薦入試・AO入試の早期合格者に入学前教育をより充実させるため、現在学内で活用されているeラーニングシステムを平成26(2014)年度入学者からの入学前教育に活用しており、更に学修対象者の範囲を広げていく。
- ・ 「教職履修カルテ」を活用し、学生が大学生活全体を通して教職に向けて計画的に学ぶことを自覚させる。そのために説明会や研修会では、各学年の学修目標や学修内容、身につけるべき資質・能力等について情報提供していく。

2-4 単位認定、卒業・修了認定等

《2-4の視点》

2-4-① 単位認定、進級及び卒業・修了認定等の基準の明確化とその厳正な適用

(1) 2-4 の自己判定

基準項目 2-4 を満たしている。

(2) 2-4 の自己判定の理由 (事実の説明及び自己評価)

【事実の説明】

①単位の認定

- 本学の授業科目の単位認定については、徳島文理大学履修規程に定め、学生及び教職員に周知している。【資料 2-4-1】【資料 2-4-2】
- 授業科目の単位は、45 時間の学修をもって 1 単位とする。ただし、この学修時間には教室外における自学自習も含めて計算する。その割合は授業形式によって異なり次のように定めている。なお、本学の授業は、90 分をもって 1 講時とする。休講の場合は、必ず補講をする。【資料 2-4-1】

【表 2-4-1】学修時間

授業形式	学修時間
講義及び演習	15 時間から 30 時間までの範囲内で本学が定める時間の授業をもって 1 単位とする。
実験・実習及び実技	30 時間から 45 時間までの範囲内で本学が定める時間の授業をもって 1 単位とする。
芸術等の分野における個人指導による実技	別に定めるところによる。

- 履修規程において、授業科目の単位は、授業時数の 3 分の 2 以上出席履修し、かつ試験に合格したときに認定すると定めている。試験は必ずしも筆記試験によらず、演習成績、出席状況、学習態度、報告書などをもってその全部又は一部に代えることがある。【資料 2-4-1】【資料 2-4-3】
- 試験・成績評価についても履修規程に則って実施し、例えば、各科目の学期末成績は、100 点法によって評価し、60 点以上を合格、59 点以下を不合格とする。学生に通知する成績は素点で示す。さらに、学外に発行する成績証明書では、80 点以上を優、70 点以上を良、60 点以上を可とし、優・良・可を合格として履修単位を認定する。59 点以下は記載しない。【資料 2-4-3】
- 教員は、授業で必ず出席状況を調べ、教職員グループウェアで学生の出欠登録を行い、その結果が新学務システムに反映される。これにより、成績評価に際して学生の出欠状況を参照し、適切に反映させることが容易になっている。【資料 2-4-4】
- 履修登録については、次年度の仮時間割を発表する際に、担任・チューターとよく相談し、履修モデルとシラバスを参考にして履修登録するよう指示をしている。また、平成 25 年度から 1 年間に履修科目として登録することができる単位の上限について履修規程に明記している。【資料 2-4-3】
- 本学は、平成 22(2010)年度より GPA(Grade Point Average)を導入した。

本学の GPA は下記のグレード・ポイントから算出している。【表 2-4-2】

【表 2-4-2】 グレード・ポイント

	評価	得点	グレード・P
合格	優	90～100	4
		80～89	3
	良	70～79	2
	可	60～69	1
不合格	不可	0～59	0
	定期試験受験放棄等		0

- ・ 徳島キャンパスでは、その学期に履修した科目のみについて算出した「当期 GPA」と、入学後全ての学期で履修した科目について算出した「累積 GPA」の 2 種類を成績通知書に記載している。特に、入学生には、新入生オリエンテーションの際に、GPA 制度について詳しく説明している。また、新入生の保護者に対しても前期成績通知書送付の際、GPA 制度についての説明文を同封している。香川キャンパスでは、当面「当期 GPA」を記載している。【資料 2-4-5～資料 2-4-13】
- ・ 受講を取りやめても登録取消の手続きをしないと、グレード・ポイント 0 点となることから自分が選択する科目はシラバス等を参考にし、真剣に取り組ませている。【資料 2-4-6】
- ・ GPA の値から、各学部の定めるところにより、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、40 単位を超えて履修科目の登録することができるとしている。【資料 2-4-3】【資料 2-4-6】
- ・ GPA を学修指導のアドバイスに活用したり、奨学金受給者の校内選考の資料としても使用している。【資料 2-4-6】【資料 2-4-14】【表 2-4-3】

【表 2-4-3】 人間生活学部での GPA 活用状況

学科	活用状況
人間生活学科	学外実習への判断材料として活用
食物栄養学科	全国栄養士養成施設協会会長賞の選定
児童学科	小学校教員採用試験の大学推薦者の選考
メディアデザイン学科	卒業研究の履修資格条件
建築デザイン学科	履修単位登録の加算条件として活用
心理学科	大学院の特別推薦者の決定

- ・ 学生ポータルサイトを通じて履修登録を行うため、履修する際の注意事項等を掲載し、計画的な履修を促している。【資料 2-4-15】
- ・ e-Knowledge コンソーシアム四国 (ek4) で開講している e ラーニングによる教育プログラムを履修した場合、本学では卒業の要件を満たす単位ではなく「その他の

科目」として単位認定している。【資料 2-4-16】

- ・ 平成 25(2013)年度後期より徳島県、徳島大学と農工商連携協定を締結し、それに関わる科目についての単位互換協定が結ばれ、徳島大学で開講されている提供科目を特別聴講学生として受講できることになった。本学では卒業の要件を満たす単位ではなく「その他の科目」として単位認定することとしている。【資料 2-4-17】

②進級要件

- ・ 進級要件は各学部で決められ、各学部の履修ガイドに明記されている。例えば、薬学部では履修認定されなかった科目数が 4 科目以上では進級を認めない等の基準をもとに、学部教授会で進級判定を行っている。

③卒業要件

- ・ 学部生の卒業要件は、学則に定められており、学部教授会の意見を聞き、学長が卒業を認定する。【資料 2-4-1】【資料 2-4-18】
- ・ 専攻科生の修了要件は、学則に定められており、学部教授会の意見を聞き、学長が認定する。【資料 2-4-19】
- ・ 大学院生の修了要件は、学則に定められており、研究科委員会の意見を聞き、学長が修了を認定する。【資料 2-4-2】【資料 2-4-20】
- ・ 各研究科は課程博士及び論文博士の学位授与に関する内規を定め、その規定で学位論文審査を行っている。【資料 2-4-21～資料 2-4-26】
- ・ 審査委員会は主査 1 人、副査 2 人以上から構成される。最終的には論文発表を公開で行い、質疑に答えることも審査の対象となる。その際、語学試験を含むこともある。なお、外部委員による審査も実施している。

【エビデンス集・資料編】

【資料 2-4-1】平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (186-190 頁)

※【資料 F-5】と同じ

【資料 2-4-2】平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (217-219 頁)

※【資料 F-5】と同じ

【資料 2-4-3】平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (34-36 頁)

※【資料 F-5】と同じ

【資料 2-4-4】教職員グループウェア 学生出欠管理

【資料 2-4-5】ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/>]

(徳島文理大学について／教育情報の公表／V. 学修の成果に係る評価及び卒業または修了の認定に当たっての基準)

※【資料 1-3-24】と同じ

【資料 2-4-6】新入学生オリエンテーション (24-25 頁) ※【資料 1-3-18】と同じ

【資料 2-4-7】平成 27 年度保健福祉学部履修ガイド(香川キャンパス) (16 頁)

※【資料 F-5】と同じ

【資料 2-4-8】平成 27 年度文学部履修ガイド (39 頁) ※【資料 F-5】と同じ

【資料 2-4-9】平成 27 年度理工学部履修ガイド (21 頁) ※【資料 F-5】と同じ

【資料 2-4-10】平成 27 年度香川薬学部要覧(平成 27 年度入学生) (15 頁)

※【資料 F-5】と同じ

【資料 2-4-11】成績通知書(文学部)の見方について

【資料 2-4-12】成績通知書の見方について (理工学部・保健福祉学部)

【資料 2-4-13】成績通知書の例示と説明 (香川薬学部)

【資料 2-4-14】平成 27 年度人間生活学部履修ガイド ※【資料 F-5】と同じ

【資料 2-4-15】履修登録について

【資料 2-4-16】e-Knowledge コンソーシアム四国 (ek4)

【資料 2-4-17】単位互換科目の履修について

【資料 2-4-18】徳島文理大学学則 (4 頁) ※【資料 F-3】と同じ

【資料 2-4-19】徳島文理大学専攻科規則 (2 頁) ※【資料 F-3】と同じ

【資料 2-4-20】徳島文理大学大学院学則 (3-6 頁) ※【資料 F-3】と同じ

【資料 2-4-21】平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (239-240 頁)

※【資料 F-5】と同じ

【資料 2-4-22】文学研究科 課程博士の学位授与に関する内規

【資料 2-4-23】文学研究科 学位授与に関する申し合わせ

【資料 2-4-24】文学研究科 論文博士の学位申請の受理及び学位授与の審査に関する申し合わせ

【資料 2-4-25】工学研究科 博士後期課程学位審査内規

【資料 2-4-26】工学研究科 博士後期課程博士論文審査 細則

【自己評価】

- ・ 各学部学科の単位認定、進級及び卒業・修了等の各条件は、学則に定めており、キャンパスガイドにも明記している。また、その判定についても教授会や委員会で厳正な審査を行い、学長に意見を述べ、学長が決定している。
- ・ 学生の学修への取り組みは、学生の授業外の学修についてシラバスに記載し授業の最初にも説明することで、学生の学修を促してきたことが定着しつつある。また、年間の修得単位数の上限を原則 40 単位としての指導は確立し、学生の授業外の学修時間の確保を図っていると判断している。

(3) 2-4 の改善・向上方策 (将来計画)

- ・ GPA の評価比率の指定等、厳密な教育評価を実施するための仕組みを引き続き整備していく。
- ・ 単位認定、進級及び卒業・修了要件を引き続き厳正に適用していく。

2-5 キャリアガイダンス

《2-5 の視点》

2-5-① 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する指導のための体制の整備

(1) 2-5 の自己判定

基準項目 2-5 を満たしている。

(2) 2-5 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

【事実の説明】

- ・ 学生のキャリア形成と就職支援については、就職支援部が早い段階から学生部やそれぞれの学部学科の担任・チューターと連携しながら、学生の個別相談・助言に当たっている。また、就職支援委員会・インターンシップ推進委員会を設置し、全学的な視点から支援を行っている。【資料 2-5-1～資料 2-5-4】
- ・ 特に、キャリア形成については、電子化された学習ポートフォリオを活用し、入学時から支援を行うとともに、1 年次で実施している「文理学」の中にキャリアガイダンスを位置づけ、動機付けの深化を図っている。【資料 2-5-5～資料 2-5-6】
- ・ 就職支援においても、3 年次から就職ガイダンス、学科別説明会、セミナーや対策講座、公開模試、学内合同企業説明会などの取り組みを行っている。また、独自に作成したガイドブック「就職活動の手引き」を学生に配布するとともに、各学科別の説明会を実施し、一人ひとりの学生の要望に応じられるようにきめ細かな支援を行っている。【資料 2-5-4】【資料 2-5-7～資料 2-5-11】
- ・ 国家試験合格を教育目標に含める学部学科では、国家試験対策を各種講座に盛り込むなど、支援体制を整備し合格率の向上を目指す取り組みを行っている。
- ・ 公務員を目指す学生への支援体制については、対策講座を開設し、公務員試験対策委員会が中心となり演習を主体とした指導を行っている。【資料 2-5-12～資料 2-5-14】
- ・ 教員を目指す学生には、全学共通教育センターが中心となり、各自治体情報の提供や、それぞれの試験内容に応じたサポートを行っている。また、教員採用試験対策講座、採用試験説明会、模擬試験などを実施するとともに、教員養成対策委員会を設け改善策を検討している。【資料 2-5-15】
- ・ 就職支援部に求人票や関連資料・冊子を閲覧できるコーナーを設け、学生への就職情報の提供に努めている。一方、求人情報提供の利便性を向上させるため、平成 26(2014)年度から新就職支援システム「求人受付 NAVI」を導入している。このことで、学生・保護者・教職員が、学内はもちろん自宅のパソコンやスマートフォンからの常時検索が可能となった。【資料 2-5-16】
- ・ インターンシップについては、特定の資格取得を目的としている学科では、当該学科が中心になり実施している。教育課程に位置づけている学科においては、その学科が主体となり、就職支援部が協力しながら実施している。
- ・ 音楽学部では、年に 1 回音楽療法士就職フォーラムを開催している。音楽療法士として働いている卒業生や企業の採用担当者等を毎年講師として招聘している。【資料 2-5-17】【資料 2-5-18】

【エビデンス集・資料編】

【資料 2-5-1】 就職支援委員会規程

【資料 2-5-2】 インターンシップ推進委員会規則

【資料 2-5-3】 平成 26 年度インターンシップ参加実績（延べ人数）

【資料 2-5-4】 平成 28 年 3 月卒業生用就職活動の手引き

【資料 2-5-5】平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (37 頁)

※【資料 F-5】と同じ

【資料 2-5-6】新入学生オリエンテーション (32,63-66 頁)

※【資料 1-3-18】と同じ

【資料 2-5-7】2015 年 6 月学内合同企業説明会実施概要

【資料 2-5-8】2015 年 3 月・4 月企業・病院概要一覧 (学内合同企業説明会)

【資料 2-5-9】2015 年 5 月企業概要一覧 (学内合同企業説明会)

【資料 2-5-10】平成 26 年度説明会日程一覧

【資料 2-5-11】平成 26(2014)年度就職支援部実施事業 (実施記録)

【資料 2-5-12】平成 26 年度・平成 27 年度前期学力充実対策講座
(香川：学力向上対策指導講座)

【資料 2-5-13】平成 26 年度・平成 27 年度前期公務員試験対策講座

【資料 2-5-14】平成 26 年度学力充実講座・学習支援アドバイザー一覧

【資料 2-5-15】平成 26 年度・平成 27 年度前期教員養成対策講座
(香川：教職教養講座・教員採用試験対策講座)

【資料 2-5-16】求人情報検索 NAVI

【資料 2-5-17】第 8 回徳島文理大学音楽療法士就職フォーラムチラシ

【資料 2-5-18】第 9 回徳島文理大学音楽療法士就職フォーラムチラシ

【自己評価】

- ・ 組織的な支援の結果、就職支援部が実施した各種事業に約 9,000 人が参加、個別の来談相談者数も約 5,600 人にのびた。集大成となる平成 26(2014)年度の全学部の就職内定率も 97.0%となり、全国平均を上回る成果をあげた。このようなことから、社会的・職業的自立に関する指導体制が整備され適切に運営されていると判断している。

(3) 2-5 の改善・向上方策 (将来計画)

- ・ 就職支援部では就職率 100%を目標にしている。その実現のため、個別の就職相談の一層の充実を図る。また、就職未決定者に対しては、卒業後においても求人情報の提供、個別相談等の支援を継続的に行っていく。
- ・ 学生と企業とのマッチングをより一層図るため、学内合同企業説明会のあり方を改善する。
- ・ これまで以上にインターンシップの充実を図り、就職率 100%を目指す。
- ・ 教員養成対策支援としては、より多くの学生が受講できるように従来から実施している講座や研修の実施方法の見直しを図る。また、対策の効果をあげるため、学外の関係機関とも連携を深める。特に、教員を志望する学生については、早期から希望する自治体の情報を収集して対策ができるよう、きめ細かい支援・相談体制をとる。

2-6 教育目的の達成状況の評価とフィードバック

《2-6の視点》

2-6-① 教育目的の達成状況の点検・評価方法の工夫・開発

2-6-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての評価結果のフィードバック

(1) 2-6の自己判定

基準項目 2-6 を満たしている。

(2) 2-6の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

2-6-① 教育目的の達成状況の点検・評価方法の工夫・開発

【事実の説明】

- ・ 授業成果を把握するため、受講生を対象に全学授業評価アンケートを実施し、学生自身の学修量、理解度、獲得した知識や教員の授業に関する評価結果をホームページで、公表している。【資料 2-6-1】【資料 2-6-2】
- ・ 全学の教員を対象に、授業充実や評価方法改善のための研修会・講演会を実施している。【資料 2-6-1】【資料 2-6-2】
- ・ 学生の学修状況・資格取得状況については、個々の学生について、科目別成績及び取得単位の状況とともに資格取得、特技等自己に関する申告記録及び学年担任、チューター並びに学生部の担当者等による面談記録に関する記録をデータベース化して、チューター、学年担任、学生部等の大学事務の関係者が、ポータルサイトを通して閲覧できる学内 LAN システム（グループウェア）が整備されている。さらに平成 27(2015)年度内には、チューター・担任の学生情報閲覧権限を拡大し、学科の教員全体が学生の指導にあたるように変更する予定である。【資料 2-6-3】
- ・ 総合政策学部では、学生のインターンシップの参加について、事前の講義、派遣先の企業による評価をもとに、インターンシップの成果の把握に努め、成果報告書の作成及び体験発表をもって単位認定を行っている。【資料 2-6-4】
- ・ 音楽専攻科器楽専攻音楽療法コースでは、インターンシップをカリキュラムに含めており、年間を通して実施している。【資料 2-6-5】
- ・ 卒業生の就職状況については、毎年調査し、データを整備し、分析を行っている。【資料 2-6-6】
- ・ 平成 25(2013)年度から電子化した「学習ポートフォリオ」の機能を最大限に活用する中で、学生の自立の促進、学士力の向上を図っている。この「学習ポートフォリオ」は学生が入学時の状況（今までの私、私のよいところ・得意なこと、私の苦手なこと・克服したいこと、入学の動機）、卒業後の将来像（各学期ごと）、学修目標・計画及び達成状況と自己評価（各学期ごと）、単位取得状況などにはチューターがコメントすることになっている。また、ボランティア活動などの活動実績（随時記入、チューターチェック有り）、行動記録（週間スケジュール、チューターチェックとコメント）、カテゴリー別集計一覧（予習・復習の実施時間が表示される）から、学生の状況を把握している。【資料 2-6-7】

【エビデンス集・資料編】

【資料 2-6-1】 2014（平成 26 年度）FD 研究部会活動報告書

※【資料 2-2-21】と同じ

【資料 2-6-2】 ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/>]

（教育・研究支援／授業改善活動（FD 活動））※【資料 2-2-22】と同じ

【資料 2-6-3】 教職員グループウェア [<http://sgt.bunri-u.ac.jp/BunriStaff/>]

【資料 2-6-4】 総合政策学部 シラバス「インターンシップ A・B」

【資料 2-6-5】 平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド（116 頁）

※【資料 F-5】と同じ

【資料 2-6-6】 平成 26 年度就職概況

【資料 2-6-7】 学習ポートフォリオ（学生用）取扱説明書 ※【資料 2-3-3】と同じ

【自己評価】

- ・ 授業終了時、受講生を対象に全学授業評価アンケートが実施され、個々の学生の学修達成状況と授業成果が把握できている。また、その評価結果に対する教員の意見と今後の改善点が示されていることから、各授業の教育目的の達成度の点検・評価及びフィードバックは機能していると判断している。
- ・ FD 研修会・講演会には、授業改善方策に加え評価方法に関する研修も取り入れていることから、評価の工夫・改善の手立ても提供できていると判断している。
- ・ 学習ポートフォリオでは、学生がどれだけ記入し、どう活用するかが重要である。チューターが学習ポートフォリオを介して、学生の日常生活や学修の成果を把握し、適切なアドバイスを与えていると判断している。
- ・ 学習ポートフォリオでは、「1 週間の行動の記録」から「学生の学修時間の実態や学修行動の把握」ができるので、随時集計し、学生の学修時間の増加・確保に努めていると判断している。

2-6-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての評価結果のフィードバック

【事実の説明】

- ・ 授業評価については、教員はアンケート結果に対するコメント及び今後の授業改善点を「アクションプランシート」としてまとめ、評価結果と併せて学内のオンラインシステムにより閲覧できるようにしている。平成 26 年度後期の記載率は 88.7%であった。【資料 2-6-1】【資料 2-6-2】

【エビデンス集・資料編】

【資料 2-6-1】 2014（平成 26 年度）FD 研究部会活動報告書

※【資料 2-2-21】と同じ

【資料 2-6-2】 ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/>]

（教育・研究支援／授業改善活動（FD 活動））※【資料 2-2-22】と同じ

【自己評価】

- ・ 授業評価アンケートの結果及び教員からのフィードバックが公表され、授業の改善意見の収集・提案が公正に行われていると判断している。
- ・ チューター制度と教職員グループウェアの活用により、データ化された学生の個人情報、学修状況、授業出欠状況に基づき学生のきめ細かい指導が実施できていると判断している。

(3) 2-6の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 学生を対象とした各種意識調査の内容は見直され、改善が図られてきているが、これらの調査結果をもとに個々の学生にきめ細かく指導することが重要であり、面談、演習・実習、その他少人数教育の機会を通じて直接に指導する機会の拡充に努めていく。
- ・ 学生の学修状況・資格取得状況について、ポータルサイトを通して閲覧できる学内LANシステム（グループウェア）は担任・チューターのみが閲覧できていたが、学科の教員全体が所属する学科の学生が閲覧できるようにシステムの変更に努める。
- ・ 学習ポートフォリオでは「学生の学修時間の実態や学習行動の把握」の調査を随時行い、学生の学修時間の増加・確保について全学教務委員会で検討していく。

2-7 学生サービス

《2-7の視点》

2-7-① 学生生活の安定のための支援

2-7-② 学生生活全般に関する学生の意見・要望の把握と分析・検討結果の活用

(1) 2-7の自己判定

基準項目 2-7 を満たしている。

(2) 2-7の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

2-7-① 学生生活の安定のための支援

【事実の説明】

- ・ 本学には学生サービス、厚生補導を支援するための組織として、学生部が設置されている。本学には各学部、各部から選出された委員で構成された各種委員会があるが、その中でも学生指導協議会、人権教育推進委員会、セクシュアル・ハラスメント防止委員会では、学生サービス、学生補導、学生の安全確保に直接関与している。

【資料 2-7-1～資料 2-7-4】

- ・ 本学では、演習や実習を通して、教員と学生のふれあいを大切にし、1年次からチューター制を採用しきめの細かい少人数教育を実践している。このチューター制を生かして入学時から将来の進路を見極め、個別の進路指導を行っている。【資料 2-7-5】
- ・ 本学の大学案内にある奨学金のページは、学生に経済的負担を減らす方法として奨学金制度の利用を紹介し、両キャンパスの学生支援グループが相談窓口を努めている。【資料 2-7-6】

- ・ 本学が携わっている外部奨学金として、①日本学生支援機構奨学金、学部関係奨学金、地方公共団体、民間育英団体等、②その他の奨学金、並びに、③本学独自の奨学金がある。【資料2-7-7～資料2-7-10】
- ・ 本学独自の奨学金制度として村崎サイ奨学金や就学支援奨学金制度を、また徳島文理大学提携教育ローンを整備している。
- ・ 平成 20(2008)年度より設置した就学支援奨学金制度は、経済的理由により就学困難な学生の中から、学力、人物がともに優れた人材を選び、本学の教育振興に資する学生を支援している。なお、日本学生支援機構の奨学金の特別控除額の見直しにあわせ、平成 27(2015)年度から就学支援奨学金規程の見直しを行った。【資料 2-7-11】
- ・ 薬学部・香川薬学部では、6年制薬学教育に移行したことによる2年の教育期間の延長が経済的負担を増加させているので、本学は薬学部・香川薬学部の学生に対し、経済的負担の軽減策を講じている。また薬学部・香川薬学部以外の学部の学生に対しても、平成28年度入試から特待生制度を新設した。【資料2-7-9】
- ・ 4月に新入生を対象に1泊2日の宿泊セミナーを実施している。本セミナーは入学後の早い時期に教職員と新入生が適切な関係を築き、また友だちを作ることが目的であり、大変有効であると好評である。【資料2-7-12】
- ・ 学生支援グループは、アルバイト情報の提供を行っている。ただし、大学生活、修学に影響のない職種や内容、時間帯等を考慮し慎重に取り扱っている。特に人材派遣会社からのアルバイトは原則として紹介していない。

①クラブ活動

- ・ 平成 26(2014)年度のクラブ活動（短期大学部も含む）は、体育系 36 部（徳島 21、香川 15）文化系 23 部（徳島 15、香川 8）同好会 19 部（徳島 18、香川 1）郷土芸能 3 部から構成され、学外より専門の指導者を招聘し活動している。特に本年度から女子サッカー部が活動を始めた。また、学則第 42 条の規定に則り、学業その他活動において優れた活動をあげた学生（体育部関係 10 人、文化部関係 9 人）を表彰している。【資料 2-7-13～資料 2-7-15】
- ・ 郷土芸能 3 部は、阿波踊りの「徳島文理大学連」、沖縄県人会エイサー団体の「ニライカナイ」、高知県人会によるよさこい踊りの「TOSAMONO」であり、本学は、特にこれらの活動を支援している。阿波踊りの徳島文理大学連は、徳島市で開催される春の「はな・はる・フェスタ」のコンテストで 10 連覇を達成している。【資料 2-7-13】
【資料 2-7-14】
- ・ 各クラブ活動は施設設備面での支援、経済的支援、人的支援、物的支援等により維持されている。
- ・ クラブ委員会はクラブ委員会規約に基づき、委員長がクラブ活動費を円滑に配分している。【データ編・表 2-14】

②大学祭

- ・ 大学祭は大学のアイデンティティを創造するための活動として学生にとって重要な意義がある。徳島キャンパスの大学祭は山城祭、香川キャンパスの大学祭は杏樹祭と呼ばれ、毎年主として 10 月下旬の日曜日を中心に 3 日間の日程で実施される。大学祭の内容は、野外ステージ、展示、模擬店、芸能人招致の 4 部門から構成され、

平成 26(2014)年度で山城祭は 50 グループ、杏樹祭は 40 グループとなっている。また、山城祭は平成 26(2014)年度で 50 回目の開催を数えている。大学としても山城祭・杏樹祭ともに金銭的支援を行っている。

③その他の課外活動

- ・ 新入生歓迎会及び各学科親睦球技大会や、県人会活動の支援に努めている。
- ・ 安全対策では、実験・実習上の安全、防火・防犯に対する安全、交通事故、さらには、セクシュアル・ハラスメント等の生活相談に対しても各委員会を設置し、対応・対策を講じている。また、セクシュアル・ハラスメント防止委員会を設置しているだけでなく、学部学生からの訴えや相談を汲み上げるために、各学部に相談員も配置している。【資料 2-7-3】【資料 2-7-4】

④健康相談

- ・ 学生の健康状態は入学時の健康調査より把握し、健康診断を年に一回実施している。
- ・ 両キャンパスの保健センターの診察室と休養室には、ベッド、外傷用医薬品等が常備され、学生が負傷、体調不良等を訴えた時に処置する場となっている。
- ・ AED（自動体外式除細動器）を徳島キャンパスに 11 カ所、香川キャンパスに 8 カ所設置し、毎年日本赤十字社指導員あるいは校医の指導のもと、教職員や学生に対し、AED 講習会を開催し、心肺蘇生法を学び救命救急へ対応できる体制を充実している。【資料 2-7-16～資料 2-7-18】
- ・ 近年学生のメンタルヘルスに関する相談が増えていることに対応するため、カウンセリング室を設置し、非常勤のカウンセラーが徳島キャンパスでは毎週 3 回、香川キャンパスも毎週 2 回学生の相談に対応している。
- ・ 保健センターでの業務実施記録としてまとめ、学内部局に配布している。【資料 2-7-19】

【エビデンス集・資料編】

【資料 2-7-1】 学生指導協議会運営規則

【資料 2-7-2】 人権教育推進委員会規則

【資料 2-7-3】 セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規程

【資料 2-7-4】 セクシュアル・ハラスメント相談員に関する細則

【資料 2-7-5】 教職員グループウェア 学生基本情報画面

【資料 2-7-6】 徳島文理大学 2016 大学案内（173 頁） ※【資料 F-2】と同じ

【資料 2-7-7】 平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド（156-157 頁）

※【資料 F-5】と同じ

【資料 2-7-8】 ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/>]

（キャンパスライフ／学生支援／奨学金）

【資料 2-7-9】 徳島文理大学奨学金・特待生制度リーフレット

※【資料 2-1-25】と同じ

【資料 2-7-10】 新入学生オリエンテーション冊子（57 頁）※【資料 1-3-18】と同じ

【資料 2-7-11】 就学支援奨学金規程

【資料 2-7-12】 新入生宿泊セミナー資料

【資料 2-7-13】平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド（170,193 頁）

※【資料 F-5】と同じ

【資料 2-7-14】平成 26 年度体育・文化功労賞受賞者

【資料 2-7-15】徳島文理大学通信（アカンサス）Vol.73（15 頁）

【資料 2-7-16】平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド（12-13 頁）

※【資料 F-5】と同じ

【資料 2-7-17】香川県三大学医療連携大学祭 一次救命処理講習会リーフレット

【資料 2-7-18】赤十字救急法（自動体外式除細動器）講習会について

【資料 2-7-19】保健業務実施記録（平成 26 年度）

【エビデンス集・データ編】

【データ編・表 2-14】学生の課外活動への支援状況（前年度実績）

【自己評価】

- ・ 学生部が学生支援の中心的役割を担っており、学生にとって相談しやすい体制を敷いていると判断している。
- ・ 学生指導協議会等の委員会を設置し、全学的な体制で、学生サービスや厚生補導の充実が図れるよう配慮していると判断している。
- ・ 様々な奨学金の活用や授業料の分納や延納の措置等、様々な経済的支援を適切に行っていると判断している。
- ・ 学生のクラブ活動や大学祭、種々の課外活動に対し積極的な支援を行っていると判断している。
- ・ 健康相談、心的支援には保健センターが、生活相談には学生支援グループが中心となって適切に対応していると判断している。

2-7-② 学生生活全般に関する学生の意見・要望の把握と分析・検討結果の活用

【事実の説明】

- ・ 本学では、学生生活全般について学生からの要望を聞くために、チューターや担任が面接を行い、学生情報として教職員で共有している。また直接、学生部に要望を言ってくる学生については学生部支援グループが話を聞いて対応している。【資料 2-7-5】
- ・ 徳島・香川の両キャンパスの食堂に改善意見箱（目安箱）を設置して、学生の意見を汲み上げている。学生部がこれを管理し、投書には学長が責任を持って応えており、食堂の掲示板に掲示し、学生に周知している。【資料 2-7-20】
- ・ 平成 25(2013)年 4 月入学生を対象に「文理学」の授業を利用し、本学入学後に気付いた点についてのアンケートを実施した。その結果を受け、学生から要望があったトイレの姿見設置と香川キャンパス理工学部実習棟と保健福祉学部実習棟への女性用トイレ増設を行った。また、保護者会・後援会の協力を得て、全学部ロッカーを設置した。【資料 2-7-21】
- ・ 卒業生に対して、本学の教育内容や施設、学園生活などに関する満足度調査「卒業生満足度評価アンケート」を実施し、その結果を教育の充実と改善の参考としている。

【資料 2-7-22】

- ・ 人間生活学部や保健福祉学部では、新入生を対象に入学前と入学後での大学に対するイメージの変化について調査を行っている。【資料2-7-23】【資料2-7-24】
- ・ 学生食堂では、ひとり暮らしや遠距離通学等で朝食を抜きがちな学生に、栄養バランスの良い朝食を提供し、規則的な生活リズムを確立し、勉学への意欲を高めてもらおうと保護者会の協力のもと、平成26(2014)年9月より徳島キャンパスで100食、香川キャンパス50食限定の「100円定食」を実施している。【資料2-7-25】
- ・ 徳島キャンパスは市の中心から少し離れており、車での通学が多いが、学生駐車場を希望者全員に確保できていないのが現状である。また、自転車通学生も多く、駐輪場を確保している。

【エビデンス集・資料編】

【資料 2-7-5】 教職員グループウェア 学生基本情報画面

【資料 2-7-20】 改善意見箱（目安箱）の投函件数と内容について

【資料 2-7-21】 徳島文理大学通信（アカンサス）Vol.70 （2頁）

【資料 2-7-22】 ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/>]

（教育・研究支援／授業改善活動（FD活動））

※【資料 2-2-22】と同じ

【資料 2-7-23】 人間生活学部新入生イメージ調査報告書

【資料 2-7-24】 保健福祉学部新入生イメージ調査報告書

【資料 2-7-25】 ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/>]

（キャンパスライフ／100円朝食）

【自己評価】

- ・ 学生の相談や要望は、担任やチューターによる面談、改善意見箱（目安箱）の設置等、あらゆる機会を通じて汲み上げられるよう、配慮していると判断している。

(3) 2-7の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 学生の経済的な支援については、奨学金制度の門戸が広がったことは大変望ましいことであるが、更に充実した支援を検討する。
- ・ 学生支援の徹底を図るため、掲示板、学生ポータルサイトの充実を図り、意思伝達経路のさらなる強化に努める。
- ・ 課外活動の課題として、体育系活動団体は活動場所の確保（新浜グラウンドの整備）が必要であり、文化系団体は道具置き場の確保を検討する。
- ・ 教員と事務職員との業務分担の明確化を図り、効率的な学生支援業務を遂行する。

2-8 教員の配置・職能開発等

≪2-8の視点≫

2-8-① 教育目的及び教育課程に即した教員の確保と配置

2-8-② 教員の採用・昇任等、教員評価、研修、FD(Faculty Development)をはじめと

する教員の資質・能力向上への取組み

2-8-③ 教養教育実施のための体制の整備

(1) 2-8 の自己判定

基準項目 2-8 を満たしている。

(2) 2-8 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

2-8-① 教育目的及び教育課程に即した教員の確保と配置

【事実の説明】

- 本学の教員組織は、エビデンス集（データ編）【表 F-6】（「全学の教員組織（学部等）」、「大学院の教員組織（大学院等）」）のとおり専任教員数は、学部学科（専攻科・研究所含む）では 322 人（教授数 162 人）で、大学設置基準に定める必要専任教員数 260 人（教授数 133 人）を上回る教員を配置し、各学科においてもそれぞれ基準を満たしている。大学院研究科・専攻の必要専任教員数は、研究指導教員及び研究指導補助教員数を合わせて 94 人であるが、教育研究上特に支障がないことから、すべて学部学科の教員が兼ねている。専門職大学院の専任教員数は設置基準上どおりの 12 人を配置している。【データ編・表 F-6】【表 2-8-1】【表 2-8-2】

【表 2-8-1】 学部学科(専攻科・研究所含む)別教員数 ()は教授数

学 部	学 科	専任教員数	設置基準上必要 専任教員数
人間生活学部	人間生活学科	7(3)	6(3)
	食物栄養学科	12(8)	7(4)
	児童学科	15(4)	8(4)
	メディアデザイン学科	6(3)	5(3)
	建築デザイン学科	6(4)	6(3)
	心理学科	10(8)	10(5)
薬学部	薬学科	58(28)	33(17)
音楽学部	音楽学科	8(4)	8(4)
総合政策学部	総合政策学科	12(8)	12(6)
保健福祉学部	人間福祉学科	12(6)	12(6)
	看護学科	30(17)	12(6)
	理学療法学科	12(5)	8(4)
	診療放射線学科	10(8)	8(4)
	臨床工学科	9(6)	8(4)
文学部	日本文学科	6(3)	5(3)
	英語英米文化学科	8(4)	5(3)
	文化財学科	6(6)	5(3)
理工学部	機械創造工学科	8(5)	8(4)
	電子情報工学科	8(6)	8(4)
	ナノ物質工学科	9(4)	8(4)
香川薬学部	薬学科	48(19)	28(14)
一般総合科目		22(3)	-
大学全体の収容定員に応じた専任教員数		-	50(25)
合 計		322(162)	260(133)

【表 2-8-2】 大学院研究科（専門職大学院含む）別教員数

研究科	専攻・課程	研究指導教員数と研究指導補助教員数	設置基準上研究指導教員数及び研究指導補助教員数
人間生活学 研究科	食物学専攻博士前期課程	6	6
	生活環境情報学専攻博士前期課程	6	6
	児童学専攻博士前期課程	6	6
	心理学専攻博士前期課程	6	6
	人間生活学専攻博士後期課程	13	6
薬学研究科	薬学専攻博士課程	69	14
看護学研究科	看護学専攻修士課程	21	12
文学研究科	地域文化専攻博士前期課程	18	5
	地域文化専攻博士後期課程	7	5
工学研究科	システム制御工学専攻博士前期課程	12	7
	システム制御工学専攻博士後期課程	12	7
	ナノ物質工学専攻博士前期課程	9	7
	ナノ物質工学専攻博士後期課程	8	7
計		193	94
総合政策研究科	地域公共政策専攻専門職学位課程	12	12
合 計		205	106

- ・ 専任・兼任の教員構成は、大学全体で見ると、専任教員数は334人、兼担・兼任教員数は延べ人数で積算すると732人となり、学部学科（専攻科含む）の非常勤依存率は24.7%である。【データ編・表 F-6】
- ・ 専任教員の年齢構成を見ると、学部（専攻科・研究所を含む）は66歳以上の教員が66人（19.8%）、65歳以下が268人（80.2%）であり、61歳～65歳が最も人数の多い層となっているものの、65歳未満における年齢構成の特徴としては、どの年代にも適度に分布している。大学院（専門職大学院を除く）の研究指導教員及び研究指導補助教員は、学部・学科の教員が兼ねているが、その年齢構成を見ると、66歳以上の教員が31人（16.1%）、65歳以下が162人（83.9%）であり、56歳～60歳が最も人数の多い層となっているが、46歳～50歳、61歳～65歳が次に人数の多い層となっている。専門職大学院では、66歳以上教員が4人（33.3%）、65歳以下が8人（66.7%）となっている。71歳以上（3人）が最も人数の多い層となっているが、その分野に卓越した専門的知識・技能を備えた実務家教員を配していることによる。【データ編・表 2-15】

【エビデンス集・データ編】

【データ編・表 F-6】 全学の教員組織（学部等）・全学の教員組織（大学院等）

【データ編・表 2-15】 専任教員の学部、研究科ごとの年齢別の構成

【自己評価】

- ・ 学部学科、大学院研究科、専攻科、研究所等の運営、研究指導、教育課程の遂行等、

学部の種類及び規模、専門分野の専攻に応じ必要な教員数は、大学設置基準、大学院設置基準、専門職大学院設置基準を満たしており、教育研究・研究指導をおこなう上で、十分な教員組織体制となっている。

- ・ 兼任（非常勤）教員数について、その依存率の高い学部学科が見られるが、広く深い専門の知識・技術を教授研究する必要から、その分野の高い専門性を備えたふさわしい教員を配置し、学部学科等の目的・目標の達成に努めているものと判断している。
- ・ 年齢構成については、年齢の高い教員の占める割合が高くなっているが、豊富な経験と熟達した技術が教育上、大きな成果を上げていていると判断している。

2-8-② 教員の採用・昇任等、教員評価、研修、FD(Faculty Development)をはじめとする教員の資質・能力向上への取組み

【事実の説明】

(1) 教員の採用・昇任等

- ・ 教員の採用・昇任に関しては、「徳島文理大学教員等選考規程」と「徳島文理大学教員等資格審査に関する基準」に基づき実施している。【資料 2-8-1】
- ・ 教員の採用に関しては、設置基準を考慮しながら、採用候補者の建学精神への深い理解、人格、履歴・教育研究業績、実務経験、社会活動歴、健康状態、その他私学教育に対する姿勢や熱意等から総合的に判断している。特に、医療・保健・福祉専門職の養成を行っている学科については、教育経験のみならず、臨床（実務）経験の豊富な人材を積極的に採用している。募集に際しては、採用担当部署と関連学部との連携を重視するとともに、学部学科の意向を尊重し、専門分野や採用目的に応じて、公募及び推薦の形を取っている。【資料 2-8-1】
- ・ 教員の昇任に関しては、著書・学術論文、教育上の能力、職務上の実績等から総合的に判断している。特に、現在の職位に就任した以降の教育研究業績や教授研究能力等を重視している。【資料 2-8-1】
- ・ 採用・昇任の手順は、「徳島文理大学教員等選考規程」と「徳島文理大学教員等資格審査に関する基準」に基づき実施している。すなわち、所属長の推薦に基づき、学長は教員選考委員会を実施し、適任候補者を理事長に推薦する。理事長は学長から推薦のあった候補者について採用の可否を決定している。【資料 2-8-1】

(2) 教員評価

- ・ 学部学科の専任教員は「教員活動状況調査（アニュアルレポート）」を作成し自己評価を受けることとしている。「教員活動状況調査（アニュアルレポート）」の内容は、「教育」「研究」「大学運営」「社会貢献」の4領域にわたって、各教員が1年間の実績と各領域のエフォート（%）を記入することとなっている。学部長、学長は、各教員の教育研究活動を総合的に評価し、昇任等の推薦資料としている。【資料 2-8-2】
- ・ 学部ごとに各教員の教育研究業績等をまとめた「教育・研究年報」を発刊することにより、学長・学部長は一人ひとりの教員の1年間の教育研究活動を評価している。【資料 2-8-3～資料 2-8-11】

(3) 研修、FD 活動

- ・ 本学では、教育及び授業の改善、教員の研修など、教員の資質・能力向上をめざして FD 研究部会を組織し、さまざまな活動に取り組んでいる。平成 26(2014)年度の取組については次のとおりである。【資料 2-8-12】 【資料 2-8-13】
 - ① FD 研究部会（各学部代表で組織）を 9 回実施している。本研究部会では、主に、a.教員の研修会・講演会、b.教員に対する学生による授業評価アンケート、c.教員による研究授業（教員相互の研究授業）、d.卒業生による満足度評価アンケートについての点検・評価、改善計画をおこなっている。これらの詳細については、「FD 研究部会活動報告書」としてまとめるとともに、本学ホームページ上にも公表している。
 - ② 研修会・講演会については、本学が主催したもの 2 回、学外主催の研修会に本学教員が参加したもの 22 回に、延べ 310 人が研修会に参加した。
 - ③ 教員に対する学生による授業評価アンケートについては、後期に編成されている 825 科目について実施した。回答率は 82.4%であった。学生による授業評価を「アクションプランシート」でフィードバックするとともに、「学生による授業評価」としてまとめている。
 - ④ 教員による研究授業（教員相互の研究授業）については、アクティブ・ラーニングを導入した授業の実施を推奨し、18 科目にわたって実施した。理工学部・文学部においては、オープンクラスウィークを設定し、一定期間、所属教員担当全科目について自由に聴講できる体制を取った。
 - ⑤ 卒業生による満足度評価アンケートは、大学への満足と改善を図ることを目的として実施している。「卒業生満足度アンケート」の回答率は 95.7%であった。

【エビデンス集・資料編】

【資料 2-8-1】 教員等選考規程・教員等資格審査に関する基準

【資料 2-8-2】 教員活動状況調査（アニュアルレポート）様式

【資料 2-8-3】 人間生活学部教育・研究年報 平成 26 年度

【資料 2-8-4】 音楽学部 2014 年度教育・研究年報

【資料 2-8-5】 薬学部教育・研究年報第 9 号 2014 年

【資料 2-8-6】 総合政策学部平成 26 年度教員活動報告

【資料 2-8-7】 保健福祉学部 2014 年度教育・研究年報

【資料 2-8-8】 文学部 教育・研究年報 2014 年

【資料 2-8-9】 2014 年理工学部年報

【資料 2-8-10】 香川薬学部教育・研究年報 Annual Report 第 9 号 2014 年

【資料 2-8-11】 未来科学研究所 Annual Progress Report2014

【資料 2-8-12】 2014（平成 26 年度）FD 研究部会活動報告書

※【資料 2-2-21】と同じ

【資料 2-8-13】 ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/>]

（教育・研究支援／授業改善活動（FD 活動））

※【資料 2-2-22】と同じ

【自己評価】

- ・ 教員の採用・昇任については、「徳島文理大学教員等選考規程」及び「徳島文理大学教員等審査に関する基準」に則り、本学の建学精神や教育理念を理解し、教員としての資質を十分兼ね備えた人材を採用している。昇任や教員評価については、教育研究業績、「教員活動状況調査（アニュアルレポート）」による自己評価や各学部において発刊している「教育・研究年報」などから、教員の資質・能力を判断し、適性に運用している。
- ・ 研修会・講演会への参加、研究授業の参観、授業評価による改善点の把握、学生の満足度調査などの FD 活動を通して、教育や授業改善などにおいて、教員の資質・能力の向上に効果が現れている。
このようなことから、本基準を満たしていると判断している。

2-8-③ 教養教育実施のための体制の整備

【事実の説明】

- ・ 本学大学学則第一章第一条に「本学は教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、自立協同の建学精神に基づき、広く高い教養と高度の専門的知識技能を教授研究し、人格の陶冶を図り、もって、教育研究の成果を社会に提供するとともに、文化の創造と地域及び世界の発展に貢献することのできる人物を育成することを目的とする。」とあり、教養教育を重要視している。
- ・ 教養教育が適切になされるための組織として、全学教務委員会がある。全学教務委員会は、学長の下に各学部長及び学部代表者、全学共通教育研究部会長、FD 研究部会長、企画部長、教務部長、全学共通教育センター長等、併せて 29 人で構成されている。【資料 2-8-14】
- ・ 全学教務委員会は、専門授業科目や一般総合科目（一般教養科目）のあり方、それに付随する大学の 3 つのポリシーや学習ポートフォリオの検討など、教育課程に関わる全般的な内容について審議検討する組織である。とりわけ、教養教育の実施に関わることについては、全学共通教育研究部会長が全学教務委員会の委員として参画している。全学教務委員会は、毎年度 4～5 回実施している。平成 26 年度は 5 回実施した。
- ・ 豊かな人間形成に係る一般総合科目には、人文系、社会系、自然系、体育・スポーツ科目、外国語科目、基礎ゼミナールの各分野に科目が設けられ、各学部・学科で、履修修得単位数を学則で定め指導している。【資料 2-8-15】
- ・ 新生導入教育として一般総合科目の中に「文理学」を開講し、必修科目（2 単位）として、初年次の教養教育として位置づけている。内容としては、「本学の建学精神と歴史」・「大学とは」という演題による講話、キャリアガイダンス、公開講座への参加、学修方法に係るスキル等を内容としている。【資料 2-8-16】
- ・ 徳島キャンパス全学共通教育センターにおいて、日本語、数学、理科、社会、音楽、簿記等の一般総合科目の支援を目的として、学力充実講座を開講している。また、香川キャンパスでは、数学、物理、化学等の一般総合科目の支援を目的として、学

力向上対策指導・講座を開設し、学生の基礎学力の充実を支援している。教員採用・公務員試験に対応する上で欠かせない基礎学力を全学部共通で向上させることも行っており、これらの支援は、学生の学修意欲向上と人間形成に役立っている。【資料 2-8-17】

- ・ 徳島キャンパスの語学センターでは、英語の教員による「英語ステップアップ講座」を開設し、また、外国人教員による「イングリッシュチャットタイム」「コリアンチャットタイム」「中国語チャットタイム」を開設して、英語以外の外国語の学力向上に努めている。香川キャンパスでも英語の勉強方法や資格試験に関することで親身に相談できる体制が整っている。【資料 2-8-18】
- ・ 早くから本学への入学が内定している高校生に対して、教養科目の教科書、参考書等を配布あるいは課題を与え、レポートを提出させる入学前教育を実施している。このような支援は、入学後、一般総合科目の履修により、教養教育の一層の充実を図るための措置である。【資料 2-8-19】

【エビデンス集・資料編】

【資料 2-8-14】 全学教務委員会要綱 ※【資料 1-3-26】と同じ

【資料 2-8-15】 平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (38-40 頁)

※【資料 F-5】と同じ

【資料 2-8-16】 平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (37 頁)

※【資料 F-5】と同じ

【資料 2-8-17】 ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/>]

(教育・研究支援／全学共通教育センター) ※【資料 2-3-4】と同じ

【資料 2-8-18】 ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/>]

(教育・研究支援／語学センター) ※【資料 2-3-6】と同じ

【資料 2-8-19】 平成 28 年度 AO 入試要項 ※【資料 F-4】と同じ

【自己評価】

- ・ 一般総合科目の履修にとどまらず、入学前教育、新入生導入教育、学修支援を積極的に行っており、教養教育実施のための体制が整備されていると判断している。

(3) 2-8 の改善・向上方策 (将来計画)

- ・ 教員組織の編成について、学部学科等における教育課程の遂行や教育研究指導等の一層の充実を図るために、大学設置基準もさることながら、専門領域、年齢、職位等を考慮しながら適切な配置に取り組んでいく。
- ・ 教員採用・昇任にあたっては、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化を図らなければならないことを考え、年齢構成や専門領域に関わる経歴、業績等に配慮し、更なる教員の充実をめざしていく。
- ・ 教員評価に関して、教員には教育研究情勢を積み重ね、教育研究の向上を目指すことを奨励していく。
- ・ 教員の資質・能力の向上への取り組みについては、アクティブ・ラーニングなど適

時性があり、関心の高いテーマをもった研修会・講演会を実施し、各教員の教育力向上発展に繋がるような機会を設けていく。

- 平成 20(2008)年度から、「一般総合科目」の中に「文理学」を設置し、初年次教育として定着してきたが、さらに内容を充実させるために、地域学としての内容を検討する。

2-9 教育環境の整備

《2-9 の視点》

2-9-① 校地、校舎、設備、実習施設、図書館等の教育環境の整備と適切な運営・管理

2-9-② 授業を行う学生数の適切な管理

(1) 2-9 の自己判定

基準項目 2-9 を満たしている。

(2) 2-9 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

2-9-① 校地、校舎、設備、実習施設、図書館等の教育環境の整備と適切な運営・管理

【事実の説明】

- 本学の校地校舎の面積と大学設置基準との比較は、以下のとおりである。【表 2-9-1】

【表 2-9-1】校地・校舎面積と大学設置基準との比較

	本学	設置基準上の必要面積
校地面積	431,459.1 m ²	57,600.0 m ²
校舎面積	166,363.9 m ²	53,713.6 m ²

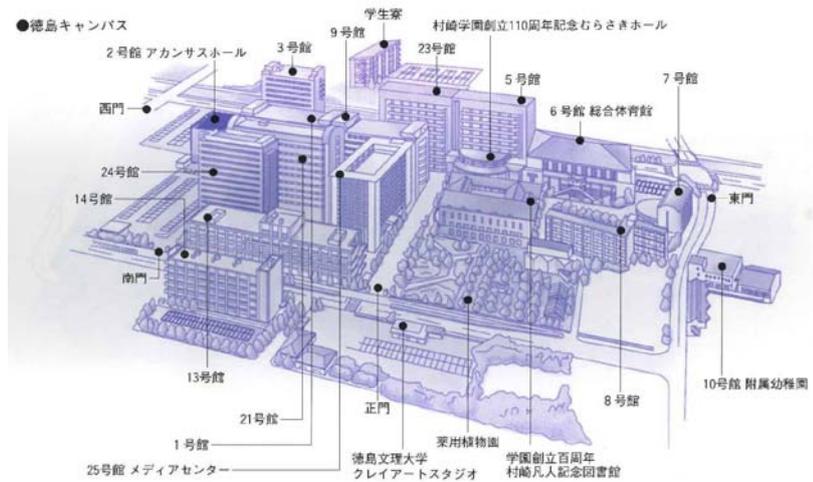
- 本学は徳島県と香川県にキャンパスを展開しており、その各キャンパスについては、大学設置基準第 34 条～第 40 条を満たしている。その概要は以下のとおりである。

教育環境の整備

(1) 徳島キャンパス

- JR 徳島駅から約 3 km 南東の徳島市街地に位置する。ここには、5 学部（薬学部、人間生活学部、保健福祉学部、総合政策学部、音楽学部）と短期大学部、3 大学院研究科（薬学研究科、人間生活学研究科、看護学研究科）と専門職大学院（総合政策研究科）、3 専攻科（人間生活学専攻科、音楽専攻科、助産学専攻科）、それに附属幼稚園が付設されている。【図 2-9-1】
- 校地は 184,473.6 m²、校舎は 96,762.6 m²、うち運動場は至近の校外に 120,482 m² 有している。
- 校舎には、学長室、会議室、事務室、研究室、教室等の施設を含んでおり、原則として全専任教員に研究室を配分している。
- 講義室は大教室（200 席超）10 室、中教室（100～200 席）20 室、小教室（100 席未満）21 室がある。
- 主要な施設設備の概要は、以下のとおりである。【表 2-9-2】

【図 2-9-1】 徳島キャンパスの施設略図



*JR 徳島駅からのアクセス：市営バス 山城町（ふれあい健康館）行き 10分「文理大学前」下車

【表 2-9-2】 徳島キャンパスの主要施設概要

施設名・号館	総床面積 (m ²)	階数	主要用途
1号館	10,059	11	管理棟、人間生活学部研究棟、健康科学研究所
2号館	2,795	3	アカンサスホール（大講義堂、保健・地域連携センター）
3号館	8,163	12	保健福祉学部棟（看護学科実習支援室、共同研究室）
5号館	11,728	12 (地下1)	音楽学部棟、学園創立 110 周年記念むらさきホール（音楽ホール）、児童ピアノレッスン室
6号館	5,666	3	総合体育館（卓球場、柔・剣道場、トレーニングルーム、アリーナ）
7号館	1,675 1,188	1～2 3～5	研修センター、学生食堂、レストランパウゼ、売店 部室
8号館	2,353	4	倉庫
9号館	8,163	12	人間生活学部棟
10号館	888 (1,681)	3	附属幼稚園、教育実習室
13号館	5,875	5	薬学部実験棟
14号館	2,754	6	文芸棟、給食経営管理実習室、保育ピアノレッスン室
21号館	10,894	11	薬学研究棟(NMR測定室、国際会議室、生薬研究所、 ハイテク・リサーチ・センター、情報処理センター、 生物工学センター)
23号館	8,638	12	総合政策学部棟、理学療法学科棟
24号館	7,351	11	薬学研究棟(機器分析センター、R I 実験センター、 電子顕微鏡室、共焦点レーザー顕微鏡室)、動物舎

25号館	9,663	11	メディアセンター (情報センター、学生サポートセンター、全学共通教育センター、メディアラボ、語学センター、コンビニエンスストア)
図書館	7,050	6	村崎凡人記念室、AVコーナー、語学学習ラウンジ、ブラウジングコーナー、コンピュータールーム、グループ学習室、書庫、茶室
学生寮	2,092	6	寄宿舎
エネルギーセンター	777	2	省エネルギー発電装置
弓道場	114	1	弓道練習場
運動場	120,482	—	野球場、サッカー場
テニスコート	2,565	4面	オムニコート
実習支援センター	376	2	臨地実習施設

①教育研究施設

- ・ 講義室、実習室、実験室等の施設及び教育用機器備品は、必要数を十分に満たしている。
- ・ 研究用機器装置については、誘導結合プラズマ質量分析装置（平成 24(2012)年導入）・超臨界解析装置・COMS 搭載高輝度単結晶 X 線構造解析装置（平成 26(2014)年導入）等の導入を行うなど最新の整備を図っている。
- ・ 看護、薬学、助産および臨床工学科等に関する病院実習の推進を目的に、平成 21(2009)年徳島赤十字病院の隣接地に開設した学習室や宿泊施設を有する実習支援センターを利用し、より実践的な現場実習を行っている。

②図書館

- ・ 村崎凡人（前理事長）記念図書館として設立、その内部に設置された村崎凡人記念室では、訪れる者すべてが建学の精神「自立協同」を実感することができる。図書蔵書は 38 万冊、学術雑誌 1,500 種で全て開架方式、瞬時に蔵書の情報を調べられる検索システム OPAC がある。
- ・ 併設施設としては、40 台の最新鋭パソコンを設置し自主研究やグループ学修が可能なマルチメディアコーナー・ラーニングcommons、DVD・CD・ビデオ等あらゆる視聴覚資料を自由に利用できる AV コーナー、全国紙や各都道府県の地方紙等 50 以上の新聞を読むことができるブラウジングコーナー、6,000 冊の外国絵本を原書で楽しめる絵本ライブラリー等がある。最近の学術情報の多様化・増加に伴い、電子ジャーナルやデータベースにも積極的に対応している。
- ・ 座席数は 688 席あり平成 26 年度の開館日数は年間 294 日、開館時間は平日(月～金) 9:00～20:00、土曜日 9:00～13:00 で、利用実績は学内利用者が 9 万 3,116 人、学外利用者は 114 人であった。【資料 2-9-1】

③体育施設

- ・ 総合体育館は 3 階建て、総床面積は 5,666 m²である。1 階は卓球場、柔・剣道場、

トレーニングルームで、授業や部活動に利用されている。2階は大ホール兼用のアリーナ、3階は360席の観客席になっている。

- ・ 運動場は、徳島キャンパスから2 kmの場所にあり、部室及び器具庫等必要施設を備えている。野球、サッカー、ラグビー、陸上競技の練習、及び学生のレクリエーション等に活用されている。
- ・ テニスコートは夜間照明を設備したオムニコートが4面あり、学生・教職員の福利厚生に寄与している。

④情報施設（メディアセンター）

- ・ メディアセンター（25号館）は平成19(2007)年4月に設置された11階建て総床面積9,663 m²の建物である。学内ICT（情報通信技術）化の推進と、学生のための学修支援やキャンパスライフをサポートする拠点としている。
- ・ メディアセンターの4階にある情報センターは、最新鋭のバーチャルスタジオ等のメディア教育設備や装置を備え、学内ICT化の拠点として設置されている。本学では、高精度セキュリティネットワーク、学内情報統合データベース等のICTインフラ投資を終えて、学生情報共有システムと事務情報共有システムを有している。
- ・ 両キャンパス内にセキュリティ対応無線LANを構築して、随所から学内ネットワークにログインできるようにしている。
- ・ メディアセンターには、CS放送が常時放送され、学生がeラーニングにより自主学修できる語学センターや、基礎学力の向上を図ることを目的とした全学共通の教育設備が配置されている。

⑤むらさきホール（5号館）

- ・ 総床面積6,080 m²、客席数1,314席の音楽ホールで、世界で4番目の設置となった大型キャノピー（可動式音響反射板）を持ち音響効果等において最高レベルの技術が駆使されている。ここでは、音楽学部の定期演奏会、国際的な演奏家や指揮者のコンサート、さらには、各界トップレベルの人物を講師に招聘した公開講座等が開催され、地域の文化・芸術の発展にも貢献している。

⑥アカンサスホール（2号館）

- ・ アカンサスホール（2号館）は平成27(2015)年3月に耐震改築し、3階建て総床面積2,795 m²である。保健センター、地域連携センター、大講義室などの施設が設置されている。
- ・ 大講義室は450席の階段教室となっており、講義での利用の他コンサート、演劇、講演会・講義等、多目的利用が可能な施設となっており、地域連携事業の一層の振興を図っている。
- ・ 身障者への対策として玄関入口スロープ・専用トイレ・階段手摺の他、玄関を自動扉とし点字ブロックを備えたバリアフリーの構造としている。
- ・ 省エネ及び環境配慮対策として、屋上に49 kWの太陽光発電・地中約100mの地下水を利用した地中熱ヒートポンプ装置を導入し、電力の低減を図るとともに、利用者の快適性を向上させている。

(2) 香川キャンパス

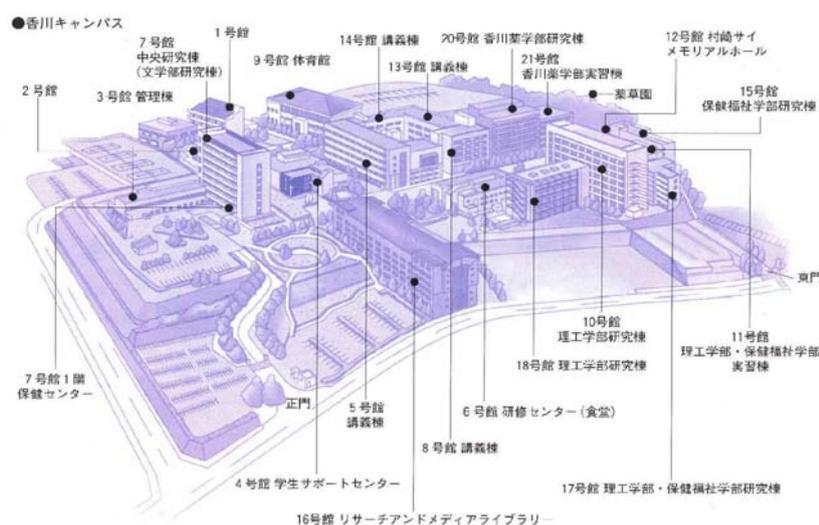
- ・ 香川県東部のさぬき市（JR志度駅から約2 km北東）に位置する。香川県の強い要請

徳島文理大学

により開設された本キャンパスは、さぬき市の行政や市民に広く親しまれ、地元コミュニティバス路線の停留所がキャンパス内に設置されている。ここには4学部(香川薬学部、保健福祉学部、理工学部、文学部)、さらに、2大学院研究科(工学研究科、文学研究科)が配置されている(図2-9-2)。

- 校地は246,985.5 m²、校舎は69,601.3 m²うち運動場は校外に195,224 m²を有している。
- 校舎には、学長室、会議室、事務室、研究室、教室等の施設を含んでおり、原則として全専任教員に研究室を配分している。
- 講義室は大教室(200席超)14室、中教室(100~200席)9室、小教室(100席未満)20室がある。
- 主要な施設設備の概要は、以下のとおりである。【表2-9-3】

【図2-9-2】 香川キャンパスの施設略図



*JR 高松駅からのアクセス： JR 高徳線 志度駅下車 さぬき市コミュニティバス「徳島文理大学」下車

【表2-9-3】 香川キャンパスの主要施設概要

施設名・号館	総床面積 (m ²)	階数	主要用途
3号館	1,004	2	管理棟
4号館	1,829 479	1~3 2	学生サポートセンター(茶室、コンビニエンスストア、部室)
5号館	5,792	6	講義棟
6号館	1,962	3	研修センター(学生食堂)
7号館	4,976	9	中央研究棟(文学研究棟、比較文化研究所、保健センター、国際会議室)
8号館	2,486	6	講義棟(実習室)
9号館	3,933	2	体育館

10号館	6,566	8	理工学部研究棟（中央機器室、未来科学研究所）
11号館	2,190	5	理工学部・保健福祉学部実習棟（実習工場、コンピュータ室、医工学シミュレーションセンター）
12号館	1,313	2	村崎サイメモリアルホール（音楽ホール）
13号館	1,733	5	講義棟
14号館	3,062	5	講義棟
15号館	2,709	5	保健福祉学部研究棟（X線CT室、MRI、メディカルシミュレーション室）
16号館	12,935	6 (地下2)	リサーチ アンド メディア ライブラリー(図書館、メディアセンター、語学センター、エネルギーセンター、110周年記念室)
17号館	1,985	5	理工学部・保健福祉学部研究棟
18号館	4,225	6	理工学研究棟（チャレンジラボ・中央機器室）
20号館	10,103	8	香川薬学部研究棟（中央機器室、実習室、神経科学研究所）
21号館	4,285	5	香川薬学部実習棟(実験動物研究施設、RI 実験施設、実習室)
16号館	12,935	6 (地下2)	リサーチ アンド メディア ライブラリー(図書館、メディアセンター、語学センター、エネルギーセンター、110周年記念室)
運動場	195,224	—	野球場、サッカー場
テニスコート	2,891	4面	オムニコート

①教育研究施設

- 理工学部研究棟 10号館と、ナノ物質工学科棟 18号館は、最新機器が導入されインテリジェント化されている。18号館の1階には、24時間対応のチャレンジラボが設置され、学生達と与えられた課題に創意工夫を凝らしてチャレンジしている。
- 香川薬学部研究棟 20号館と、同実習棟 21号館には、NMR等最新の高性能な機器類が装備され、学生達の貴重な実習体験はもとより、ここでの研究成果は広く学外（海外を含む）からも高い評価を受けている。

②図書館

- 図書館は、書籍と電子メディアの特性を融合させることに留意して、リサーチ・アンド・メディアライブラリーと称する。蔵書は約33万冊、学術雑誌3,500種、視聴覚・コンピュータメディア10,000点など、資料数は豊富である。また、電子メディアによるデジタル情報を学修研究に活用できるよう環境を完備している。
- 併設施設として、建学の精神「自立協同」に理解を深め、本学の歴史を再認識できる110周年記念室、8,500本以上のDVDやビデオなどで映画・音楽資料が自由に視聴できるAVコーナー、BS放送やeラーニングなど豊富な教材により各自の語学力にあった自主学修ができる語学学習ラウンジ、各都道府県の地方新聞等を閲覧で

きるブラウジングコーナー、初級者から上級者まで各レベルのステーションを配置したコンピュータールーム等がある。

- ・ 座席数は 805 席で、収容定員 1,206 人である。開館日と開館時間は、徳島キャンパスと同様で、平成 26 年度利用実績は学内利用者が 8 万 4,533 人、学外利用者は 153 人であった。香川キャンパスが位置するさぬき市の要請を受けて、市民にも利用を開放している。【資料 2-9-1】

③体育施設

- ・ 体育館は 2 階建てで、総床面積は 3,933 m²である。1 階は卓球場、柔・剣道場、トレーニングルームで、2 階はバレーボール、バスケットボール、バトミントンのコートがある。いずれも授業や部活動で活発に利用されている。
- ・ 運動場はキャンパス外にあり、同市内合計 2 ヲ所に 195,224 m²の総合運動場で、十分な面積を確保している。ここでは、主にサッカー、ラグビー、野球、陸上等の練習が行われ、利用頻度は高い。
- ・ テニスコートはキャンパス内にオムニコートをも 4 面設けている。

④村崎サイメモリアルホール

- ・ このホールは、学園創立者村崎サイが理想とする教育の集大成を象徴したもので、全 896 席の多目的ホールである。学内の卒業式や入学式だけでなく、一般のコンサートや演奏会、公開講座や発表会などにも利用され、地域のホールとして親しまれている。

運営・管理

- ・ 両キャンパスともに、事務部門の施設・用度グループが、施設設備の維持運営を担当し、関係法令を遵守し安全管理に努めている。維持作業は原則として専門業者に委託する方針をとっている。建物・構築物、電気設備、水まわり、空調設備等の各担当業者が、本学専担部署として本学近隣に常駐して万全の体制をとっている。【資料 2-9-2】【資料 2-9-3】
- ・ 学内清掃、消防設備保守、エレベーター保守等は専門業者と委託契約を締結して実施している。施設設備の運営は、庶務・渉外グループ、施設・用度グループ、学部事務グループが範囲を定めて担当している。【資料 2-9-2】【資料 2-9-4】【資料 2-9-5】
- ・ 情報関係設備等の維持管理は、情報センターが担当し、ハードウェアの保守・更新、ライセンスの期限管理、ネットワークの点検、情報教育の企画等を実施している。この領域は、年々変化の激しい分野であり、専門業者との協力関係を密接にし、より万全の体制がとれるように配慮している。
- ・ 法人事務局の経理部内に管財担当部署を置き、本学を含む各学校の施設設備、維持管理・運営について常に状況を把握し、指導・支援の体制を確立している。
- ・ バリアフリー化については、スロープ・階段手摺については徳島・香川キャンパスの各建物に整備されている。【資料 2-9-6】

【エビデンス集・資料編】

【資料 2-9-1】 図書館利用規程

【資料 2-9-2】平成 27 年度学校法人村崎学園組織（事務関係）

【資料 2-9-3】耐震実施状況

【資料 2-9-4】施設・設備等使用規程

【資料 2-9-5】学内施設使用規程

【資料 2-9-6】バリアフリー管理表

【自己評価】

- ・ 校地及び校舎は大学設置基準を上回る面積を有しており、施設設備は質・量ともに本学の教育研究活動の目的を達成するために充分であり、大学設置基準第 34 条～第 40 条を満たしている。
- ・ 図書館については収容定員に比べ十分な規模を有し、学生や教員の要望に添っている。
- ・ 施設設備の維持は、担当部署の管理と委託業者の協力により円滑に運営されている。
- ・ 徳島キャンパスのむらさきホールは、音響効果に技術の粋を尽くした世界トップクラスの設備を有した音楽ホールであり、四国における音楽教育の拠点として重要な役割を果たしている。また、市民に開放されたコンサートや公開講座は、本学学生のみならず、地域の人々への文化・芸術の発信地として評価されている。
- ・ メディアセンター（25 号館）は、最新鋭のメディア教育設備を有し、学生にコンピュータールームを 20 時まで開放する等、教育効果の向上と学生への利便性を図っている。
- ・ 保健センターには診察室の他、相談室、静養室を設け快適な環境で学生たちの健康管理の一層の充実を図っている。
- ・ バリアフリー化を促進しており、施設や設備も利便性に配慮をしている。

2-9-② 授業を行う学生数の適切な管理

【事実の説明】

- ・ 平成 26(2014)年度の調査では、40 人以下のクラスサイズの割合が徳島キャンパスで 58.4%、香川キャンパスで 66.3%、100 人以上の割合が徳島キャンパスで 7.0%、香川キャンパスで 3.7%であった。【資料 2-9-7】
- ・ 国家資格の取得を目的とする学科は、法に定めるところによるクラスサイズで授業を行っている。

【エビデンス集・資料編】

【資料 2-9-7】平成 26 年度クラスサイズ一覧表

【自己評価】

- ・ 各学部・学科の特性や授業科目により、適切なクラスサイズは違ってくるが、実際に学修する学生にとって最適な人数となるよう配慮していると判断している。

(3) 2-9 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 時代の要請に応じ、科学技術の進歩に対応した施設設備の管理・更新を図るとともに、学生のアメニティにも、より一層の配慮を図りたい。
- ・ 施設設備の維持管理は、環境問題も加わり、省エネルギー推進委員会と討議する等、多方面から検討を加える必要がある。各種有資格の技術者を養成し、維持運営管理の質的向上を図って万全の体制を築く。
- ・ 学生・教職員の安全確保のため、平成 27(2015)年度中に耐震化できていなかった徳島キャンパスの 8 号館を取壊し、建物の 100%耐震化（未使用物件を除く）を達成する予定である。
- ・ バリアフリー化についても一層の充実を目指す。
- ・ クラスサイズは、各学部・学科の教育研究上の目的や教育方針に照らして適切なクラスサイズとなっているか常に留意し、学生が学びやすい環境になるよう配慮していく。

【基準 2 の自己評価】

- ・ 建学の精神のもと、教育研究上の目的や教育方針を掲げ、それに応じた入学者受入れの方針や教育課程の編成方針を明確に定めていると判断している。
- ・ 本学は教育目的達成を目指し、高い教育効果が得られるよう、施設を有効活用し、教育内容・方法に工夫を加え、学生自らが将来の目標を見出しそれに進む積極性を教職員協働で支援していく体制が整備されていると判断している。

基準 3. 経営・管理と財務

3-1 経営の規律と誠実性

《3-1 の視点》

3-1-① 経営の規律と誠実性の維持の表明

3-1-② 使命・目的の実現への継続的努力

3-1-③ 学校教育法、私立学校法、大学設置基準をはじめとする大学の設置、運営に関連する法令の遵守

3-1-④ 環境保全、人権、安全への配慮

3-1-⑤ 教育情報・財務情報の公表

(1) 3-1 の自己判定

基準項目 3-1 を満たしている。

(2) 3-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

3-1-① 経営の規律と誠実性の維持の表明

3-1-② 使命・目的の実現への継続的努力

【事実の説明】

- ・ 学校法人村崎学園「寄附行為」第 3 条に、法人の目的を「この法人は、自立協同の建学精神を尊重し、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行うことを目的とする」と定めている。この目的を達成するために必要な組織を設置し、組織を適切に運営するための諸規程を定め、堅実な経営を行っている。【資料 3-1-1】
- ・ 法人組織は「寄附行為」第 5 条に基づき、理事 7 人、監事 2 人の役員で構成され、業務決定の理事会と執行機関としての理事長（理事）、業務及び財産の状況等の監査機関としての監事、及び 15 人の評議員会から成る。【資料 3-1-2】
- ・ 会計処理は「学校法人会計基準」に則ってなされている。法人事務局には、「経理規程及び同施行細則」、「物件の調達管理取扱規程」、「支出決裁権限規程」、「学費等収納事務取扱規程」、「教職員給与規程及び同施行細則」等、詳細に定められた諸規程がそれぞれ整備され、適切な会計処理が行われている。また、会計処理に疑義が生じた時はその都度、公認会計士に指導を仰ぎ、適切に処理している。【資料 3-1-3～資料 3-1-7】
- ・ 就業規則第 4 条第 2 項第 2 号に、教職員は「学園の教育目的達成のため誠意をもって職務に専念すること」と定められており、教職員協働で実現に努めている。【資料 3-1-8】

【エビデンス集・資料編】

【資料 3-1-1】 学校法人村崎学園寄附行為 ※【資料 F-1】と同じ

【資料 3-1-2】 理事・監事・評議員名簿 ※【資料 F-10】と同じ

【資料 3-1-3】 学校法人村崎学園経理規程及び同施行細則

【資料 3-1-4】 学校法人村崎学園物件の調達管理取扱規程

【資料 3-1-5】 徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部支出決裁権限規程

【資料 3-1-6】 学校法人村崎学園学費等収納事務取扱規程

【資料 3-1-7】 学校法人村崎学園教職員給与規程及び同施行細則

【資料 3-1-8】 学校法人村崎学園就業規則

【自己評価】

- ・ 法人の管理運営体制は、「寄附行為」に基づき、適切に運営され、職員協働で使命・目的の実現のために継続的に努力していると判断している。
- ・ 建学の精神に基づく教育研究の目的を達成するために、安定した収入を確保し、かつ学校運営の充実のため、適正に支出することを財政の方針として、円滑に運営できている。

3-1-③ 学校教育法、私立学校法、大学設置基準をはじめとする大学の設置、運営に関連する法令の遵守

【事実の説明】

- ・ 学校法人村崎学園「寄附行為」第3条において、教育基本法及び学校教育法の遵守を掲げている。また、私立学校法、大学設置基準をはじめとする大学の設置、運営に関する法令を遵守し、関係官公署への申請や手続きを適切に行っている。【資料 3-1-1】
- ・ 個人情報保護については、本学が保有する個人情報の適正な保護を目的に平成17(2005)年に「個人情報保護規程」を定めている。【資料 3-1-8】【資料 3-1-9】
- ・ また、法令違反行為の防止と公益通報者の保護を図るため「公益通報者保護規程」を定めている。【資料 3-1-11】
- ・ 公的研究費の適正な運営管理と不正使用防止等を徹底するため、「教育研究助成金取扱規程」「公的研究費の取扱いに関する規程」「研究活動における不正行為への対応に関する規程」「厚生労働科学研究費に係る利益相反に関する要項」を定め、責任体制の明確化、研究費の管理・運営体制の整備を推進している。【資料 3-1-12～資料 3-1-15】
- ・ 学園の法人事務局は、「私立学校法」に基づき、「財務情報公開資料閲覧請求取扱要領」を定め、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、財産目録、事業報告書及び監査報告書を法人事務局に備えている。学生、保護者、職員、その他利害関係者からの閲覧請求に、常時対応している。【資料 3-1-16】

【エビデンス集・資料編】

【資料 3-1-1】 学校法人村崎学園寄附行為 ※【資料 F-1】と同じ

【資料 3-1-9】 学校法人村崎学園個人情報保護規程

【資料 3-1-10】 新入学生オリエンテーション冊子(9頁) ※【資料 1-3-18】と同じ

【資料 3-1-11】 学校法人村崎学園公益通報者保護規程

【資料 3-1-12】 教育研究助成金取扱規程

【資料 3-1-13】 徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部公的研究費の取扱いに関する規程

【資料 3-1-14】 徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部研究活動における不正行為

への対応に関する規程

【資料 3-1-15】厚生労働科学研究費に係る利益相反に関する要項

【資料 3-1-16】財務情報公開資料閲覧請求取扱要領

【自己評価】

- ・ 学校教育法、私立学校法、大学設置基準等の法令を遵守した運営を行っているとは判断している。

3-1-④ 環境保全、人権、安全への配慮

【事実の説明】

- ・ 省エネや分煙の徹底、廃棄物の選別徹底等を全学で取り組んでいる。徳島・香川両キャンパスの一部施設において太陽光発電システムを設置し、運用している。
- ・ 徳島キャンパスでは、空調一括監視システムを導入し、エアコンの温度を夏 28℃、冬 20℃に設定している。また、職員に対して本年は5月11日から10月31日にクールビズを実施する。【資料 3-1-17】
- ・ 人権教育については、本学の教育方針に基づき、全ての人の人権が尊重される社会の実現に向け、本学における人権教育を推進することを目的として、人権教育推進委員会が設置されている。この運営は、「人権教育推進委員会規則」に従い、学生部が担い、学生指導や職員の研修会等を実施している。【資料 3-1-18】
- ・ 本学におけるセクシュアル・ハラスメントを防止するとともに、セクシュアル・ハラスメントが生じた場合に適切な対応を行い、本学の公正な環境における修学、就労、教育及び研究を維持することを目的として「セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規程」を定めている。それに従い設置されたセクシュアル・ハラスメント防止委員会の運営は各キャンパスの総務部が担っており、職員の研究会も実施している。【資料 3-1-19】
- ・ 平成 22(2010)年度に、諸般の事象に伴う危機に迅速かつ的確に対処するため、危機管理体制並びに対処方法を定めることにより、学生、職員並びに近隣住民等の安全確保を図るとともに、学園の社会的な責任を果たすことを目的に「学校法人村崎学園危機管理規程」を定めている。【資料 3-1-20】
- ・ 本学では、火災・震災その他の災害の予及び人命の安全並びに災害の防止をはかることを目的に「防災規程」を定め、防火・防災管理委員会を置き、自衛消防隊を組織している。また、毎年、両キャンパス内の全職員と学生を対象とした防災避難訓練を実施している。【資料 3-1-21～資料 3-1-27】
- ・ 今後予測される南海・東南海地震の発生に備え、学生に対しても防災避難訓練のほか、防災マニュアルを学生ポータルサイトやキャンパスガイドに記載し周知を図っている。また、防災教育にも力を入れ、普通救命講習や防災教育講座を開講し、被害防止のための事前対策と災害時に適切な行動をとるための知識・技能の習得に努めている。【資料 3-1-28～資料 3-1-30】
- ・ 大学の建物の耐震化はほぼ完了しており、建築基準法の定める基準を満たしている。予測される南海・東南海地震の発生時には、建物倒壊は最小限になるよう対応して

いる。【資料 3-1-31】

- ・ 本学は、学校保健法並びに労働安全衛生法に基づき、学生及び職員の安全と健康の保持増進を図るため「安全保健衛生管理規程」を定め、それに基づき衛生委員会を設置している。また、インフルエンザ等の感染症予防の呼びかけやその対応について周知を行い、感染拡大防止に努めている。【資料 3-1-32】【資料 3-1-33】
- ・ メンタルヘルスケア推進のため、「職場における心の健康づくり計画」を策定するとともに、職員に対する「職場アンケート調査」を実施した。【資料 3-1-34】

【エビデンス集・資料編】

【資料 3-1-17】 クールビズについて

【資料 3-1-18】 人権・ハラスメント講演会について

【資料 3-1-19】 セクシュアル・ハラスメント防止等に関する規程・職場におけるセクシュアル・ハラスメント ※【資料 2-7-3】と同じ

【資料 3-1-20】 学校法人村崎学園危機管理規程

【資料 3-1-21】 防災規程

【資料 3-1-22】 平成 27 年度防火・防災管理委員会組織表

【資料 3-1-23】 平成 27 年度各棟防火・防災、火元責任者表

【資料 3-1-24】 自衛消防隊の編成と任務

【資料 3-1-25】 平成 27 年度自衛消防隊組織役割表

【資料 3-1-26】 防災訓練：実施記録

【資料 3-1-27】 夜間・休日の地震に伴う津波注意報・津波警報等発令時の初期対応について

【資料 3-1-28】 学生ポータルサイト・地震（津波）対応マニュアル（防災マニュアル含む）

【資料 3-1-29】 平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド（163-164 頁）
※【資料 F-5】と同じ

【資料 3-1-30】 「災害に負けない『生きる力』を養う防災教育の展開

【資料 3-1-31】 耐震実施状況 ※【資料 2-9-3】と同じ

【資料 3-1-32】 学校法人村崎学園安全保健衛生管理規程（衛生委員会会則含む）

【資料 3-1-33】 インフルエンザ感染の対応

【資料 3-1-34】 職場における心の健康づくり計画

【自己評価】

- ・ エネルギー節約等環境保全に力点を置くことと、学修環境の向上とは相互に関係することであると認識しており、全学で取り組んでいる。
- ・ 今後予測される南海・東南海地震の発生に備え、施設の整備並びに防災教育を充実させ、被害を最小限にするように努めている。
- ・ セクシュアル・ハラスメントや人権に対しては、規程等で明確に定められ、相談するための体制も整っており、適切であると判断している。
- ・ メンタルヘルスケアの推進については、衛生委員会の審議を踏まえ、適宜対応して

いる。

3-1-⑤ 教育情報・財務情報の公表

【事実の説明】

- ・ 学校教育法施行規則の一部改正に伴う教育情報の公表については、本学ホームページに掲載している。【資料 3-1-35】
- ・ 財務情報は私立学校法に則り、法人本部に備え置き閲覧に供するとともに、ホームページに掲載し公表している。また、学内通信「徳島文理大学通信（アカンサス）8月号」にも掲載している。【資料 3-1-36】【資料 3-1-37】

【エビデンス集・資料編】

【資料 3-1-35】 ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/>]

（徳島文理大学について／教育情報の公表）

【資料 3-1-36】 徳島文理大学通信（アカンサス）Vol.73 （17 頁）

※【資料 2-7-15】と同じ

【資料 3-1-37】 ホームページ [<https://www.bunri-u.ac.jp/>]

（徳島文理大学について／情報公開／平成 26 年度学園の事業報告）

※【資料 F-7】と同じ

【自己評価】

- ・ 学校教育法施行規則改正により、平成 23(2011)年 4 月 1 日より実施している教育情報の公表については、本学ホームページに掲載している。
- ・ 財務情報の公表では用語説明、グラフなどを表示し、わかりやすい説明に努めている。

(3) 3-1 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 大学の持つ公共性に鑑み、教育情報・財務情報の公表について、関係法の遵守と組織倫理に基づく適正な運営の継続に努める。
- ・ 財務情報の公開については、引き続きわかりやすい説明に努めるとともに、平成 27(2015)年度から施行の新会計基準への対応を図る。

3-2 理事会の機能

≪3-2 の視点≫

3-2-① 使命・目的の達成に向けて戦略的意思決定ができる体制の整備とその機能性

(1) 3-2 の自己判定

基準項目 3-2 を満たしている。

(2) 3-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

3-2-① 使命・目的の達成に向けて戦略的意思決定ができる体制の整備とその機能性

【事実の説明】

- ・ 法人組織は「寄附行為」に基づき、理事 7 人、監事 2 人の役員で構成され、業務決定の理事会と執行機関としての理事長（理事）、業務及び財産の状況等の監査機関としての監事、及び 15 人の評議員会から成る。次に法人組織の管理運営体制を示す。

【資料 3-2-1】

法人組織の管理運営体制

- ・ 法人組織：役員－理事 7 人・監事 2 人 理事会・常任理事会（業務決定機関）及び監事（業務・財産状況等の監査機関）【資料 3-2-2】
- ・ 評議員会：評議員－15 人【資料 3-2-2】
- ・ 法人事務局－事務局長（総務部、企画部、経理部）【資料 3-2-3】
- ・ 法人の管理運営は、「寄附行為」に定められている。【資料 3-2-1】
- ・ 法人は、幼稚園、小学校、中学校・高等学校、短期大学部、大学・専攻科及び大学院を設置している。
- ・ 理事会は、定例開催（平成 26(2014)年度は、10 回開催）し、「理事会規則」により運営され、法人の業務に関わる事項を決定する。【資料 3-2-4】【資料 3-2-5】
- ・ 常任理事会（平成 26(2014)年度は、3 回開催）は、理事のうち 5 人の常任理事で構成し、「常任理事会規則」により運営され、理事会審議事項をあらかじめ審議するとともに、その他委任された事項を審議・決定している。【資料 3-2-6】【資料 3-2-7】
- ・ 評議員会は、「寄附行為」に定める機関として「評議員会規程」に基づき、予算や事業計画等の重要事項について、理事会の開催前に意見を述べる役割を担っている。【資料 3-2-8】【資料 3-2-9】
- ・ 監事は、財務・経理の監査のほか、理事会・評議員会・部局長会等の重要な会議に出席し、監査機関としての役割を担っている。【資料 3-2-10】【資料 3-2-11】
- ・ 法人の管理運営に関わる役員及び評議員の選任は、「寄附行為」の規定に基づき行われている。【資料 3-2-1】

【エビデンス集・資料編】

【資料 3-2-1】 学校法人村崎学園寄附行為 ※【資料 F-1】と同じ

【資料 3-2-2】 理事・監事・評議員名簿 ※【資料 F-10】と同じ

【資料 3-2-3】 平成 27 年度学校法人村崎学園組織（事務関係）
※【資料 2-9-2】と同じ

【資料 3-2-4】 学校法人村崎学園理事会規則

【資料 3-2-5】 理事会開催状況（平成 26 年度） ※【資料 F-10】と同じ

【資料 3-2-6】 学校法人村崎学園常任理事会規則

【資料 3-2-7】 常任理事会開催状況（平成 26 年度） ※【資料 F-10】と同じ

【資料 3-2-8】 学校法人村崎学園評議員会規程

【資料 3-2-9】 評議員会開催状況（平成 26 年度） ※【資料 F-10】と同じ

【資料 3-2-10】 学校法人村崎学園監事監査規則、同実施要領

【資料 3-2-11】 平成 27 年度部局長会名簿

【自己評価】

- ・ 法人の管理運営体制は、「寄附行為」に基づき、適切に運営されている。
- ・ 理事会・常任理事会及び評議員会は、「寄附行為」「理事会規則」「常任理事会規則」「評議員会規程」に基づき、適切に運営されている。
- ・ 理事長は法人の職務を総理し、重要事項について、評議員会に諮り、意見を聴取し、寄附行為に定められた業務を適切に行っている。
- ・ 監事は定期的な監査だけでなく、部局長会等にも出席し、業務を適切に行っている。

(3) 3-2 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 私立学校法の改正に伴いガバナンスの強化が図られたが、平成 20(2008)年 1 月には「常任理事会」を設けて、法人の管理運営をより適切に行うようにしている。さらに、事務部長等懇談会、学部長懇談会を定例的に開催し、理事長、学長に報告・連絡・相談がスムーズにできるようになった。これからも、これらの懇談会を活用し、諸問題に適切に対応できるように、理事長・理事会と学長との連携が円滑に進むよう努める。

3-3 大学の意思決定の仕組み及び学長のリーダーシップ

《3-3 の視点》

3-3-① 大学の意思決定組織の整備、権限と責任の明確性及びその機能性

3-3-② 大学の意思決定と業務執行における学長の適切なリーダーシップの発揮

(1) 3-3 の自己判定

基準項目 3-3 を満たしている。

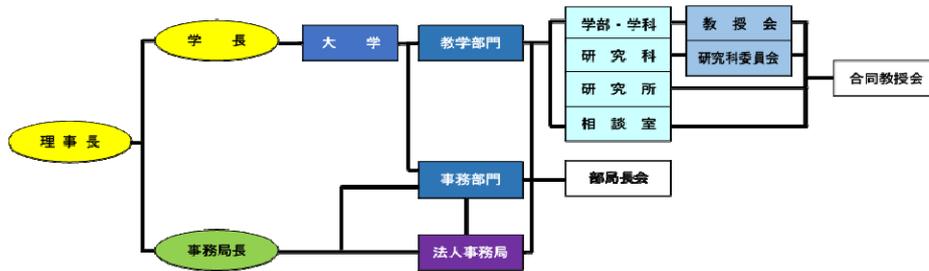
(2) 3-3 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

3-3-① 大学の意思決定組織の整備、権限と責任の明確性及びその機能性

【事実の説明】

- ・ 大学の円滑な運営を図るため、学園本部、大学の教学部門及び事務部門の連絡調整機関として「部局長会」がある。部局長会は、学長が招集し議長を務め、理事長、学長の諮問に応じて、大学の運営に関する重要事項の審議及び連絡調整を行っている。【資料 3-3-1】
- ・ 教育研究に関する重要事項を審議する場として、学長が招集し、議長を務める「合同教授会」があり、また、各学部において学部長が招集して議長を務める「学部教授会」がある。学部教授会では、学生の入学及び卒業、並びに学位の授与について学長に意見を述べるとともに、教育研究に関する事項を審議している。さらに教育研究活動を円滑に行うことを目的に各種委員会が設置されており、教育や研究に関する広汎な問題に対応している。【資料 3-3-2】【資料 3-3-3】【図 3-3-1】

【図 3-3-1】 教育研究組織図



【エビデンス集・資料編】

- 【資料 3-3-1】 部局長会規程 ※【資料 1-3-31】と同じ
- 【資料 3-3-2】 合同教授会規程 ※【資料 1-3-32】と同じ
- 【資料 3-3-3】 学部教授会規程 ※【資料 1-3-33】と同じ

【自己評価】

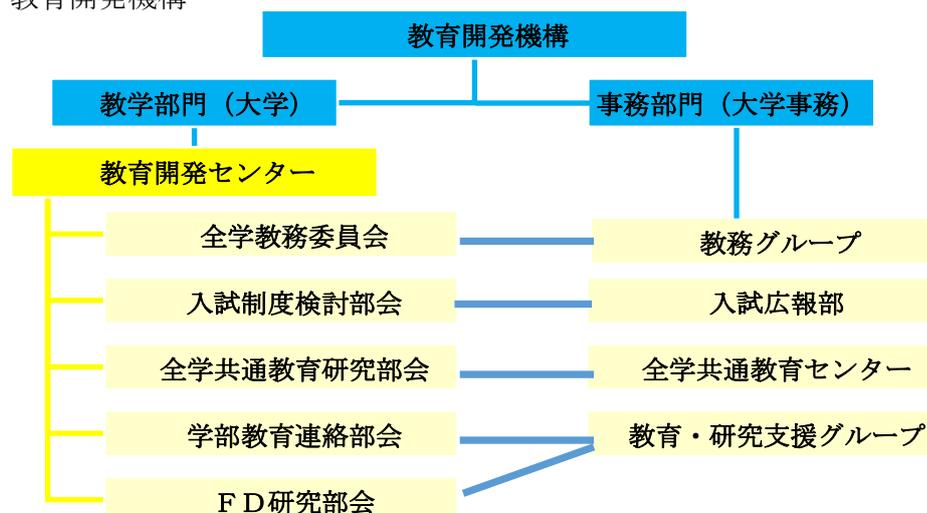
- ・ 本学の円滑な運営を図るため、学園本部、大学の教学部門及び事務部門の連絡調整機関として、学長が主宰する「部局長会」があり、また、各学部の教育研究に係る事項を審議する場として「学部教授会」が設置され、学生の入学及び卒業並びに学位の授与について学長に意見を述べるとともに、学部の課題に対して活発な意見交換が行われ、その内容は各学部の教員に周知徹底されている。
- ・ さらに、教育研究に関する重要事項等について最終審議する場として、全学部教員（講師以上）が参加する「合同教授会」があり、学長のリーダーシップのもと適切に運営されていることから、大学の教育研究に関する意思決定機関が整備されかつ機能していると判断している。

3-3-② 大学の意思決定と業務執行における学長の適切なリーダーシップの発揮

【事実の説明】

- ・ インフォーマルな意見交換の場として、「事務部長等懇談会」（メンバーは学長と事務局長、徳島・香川の事務部長等）及び、「学部長懇談会」（メンバーは学長、副学長、8 学部長と短期大学部長）が適宜運営され、意見交換を活発に行っているとともに、合同教授会等の補完的な役割を果たし、教育研究体制の改善に役立っている。
- ・ 学長の諮問に応え、学部横断的な活動を推進している教育開発機構があり、同機構は教員組織と事務組織が協力しあって討議・運営していることから、活発な討議が行われている。学長の意思決定にあたって、上述のように多様なルートを通じて関係者の疎通が図られており、学長のリーダーシップは適格に発揮できる体制が整っており、各機関が一体となって機能している。【資料 3-3-4】【図 3-3-2】

【図 3-3-2】 教育開発機構



- ・ 学生の要望に対応するため、学生部、就職支援部、総務部、教務部、図書館を含む事務組織が設置されており、これらの機関から状況が適宜、部局長会、学部教授会（研究科委員会）、合同教授会に報告され、必要に応じ、対応を審議している。さらに、学生の要望は教員を通じて、学部教授会に汲み上げられ、さらに重要なものは合同教授会で討議し、承認を得るシステムが確立されている。このほか、学生の要望については、学生と接する機会の多い大学事務部門においても対応している。

【エビデンス集・資料編】

【資料 3-3-4】 教育開発機構設置要綱

【自己評価】

- ・ 教育研究に関する重要課題の解決策や新規プロジェクトについて、フリーに意見交換ができる各種懇談会が定期的で開催され、学長のリーダーシップのもと、教育研究の継続的な改善が図られていると判断している。

(3) 3-3 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 大学の質の向上や教育ニーズの多様化に対応できるよう、教員と事務職員との意見交換を一層活発化し、効率的な運営を目指し、本学の教育開発機構のさらなる活性化により組織体制を強化し、高等教育機関としての教育・研究支援体制の充実を図る。

3-4 コミュニケーションとガバナンス

≪3-4 の視点≫

- 3-4-① 法人及び大学の各管理運営機関並びに各部門間のコミュニケーションによる意思決定の円滑化
- 3-4-② 法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックによるガバナンスの機能性
- 3-4-③ リーダーシップとボトムアップのバランスのとれた運営

(1) 3-4 の自己判定

基準項目 3-4 を満たしている。

(2) 3-4 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

3-4-① 法人及び大学の各管理運営機関並びに各部門間のコミュニケーションによる意思決定の円滑化

【事実の説明】

- ・ 理事長は、寄附行為第 7 条にその職務が定められているとおり、本学の管理運営に関わる基本事項、財政、人事、将来計画、施設管理等について責任と権限を有し、全ての業務を総理する。一方、学長は大学学則第 3 章第 6 条にある「校務を掌り所属職員を統督する」のとおり、大学全体の教育、授業計画、入試、学生支援、研究活動、教職員の人事等を統括し、管理部門と教学部門の連携が適切になるよう努めている。【資料 3-4-1】【資料 3-4-2】
- ・ 理事会は、学園全体の業務に関わる重要事項を審議・決定し、常任理事会は、理事会審議事項をあらかじめ審議するとともに、その他委任された事項を審議・決定する。常任理事会は、理事のうち 5 人の常任理事で構成している。【資料 3-4-3】【資料 3-4-4】
- ・ 評議員会は、「寄附行為」に定めるとおり、予算や事業計画等の重要事項について、理事会の開催前に意見を述べる役割を担っている。【資料 3-4-5】
- ・ 部局長会は、「部局長会規程」に従い学長が招集し、議長を務める。本会は、理事長、学長、副学長、監事、事務局長のほか、法人事務局、大学事務の部長だけでなく、教学部門の各学部長を含め組織されている。部局長会には、徳島・香川の両キャンパスから管理部門と教学部門の役職者が出席しており、重要な伝達事項は、両キャンパスに速やかに伝わる体制が構築されている。【資料 3-4-6】
- ・ 学長が議長を務める合同教授会は、部局長会の審議事項、報告・連絡事項を受けて教育研究に関する重要事項を審議する機関としての役割を担っている。【資料 3-4-7】
- ・ 法人事務局と徳島・香川両キャンパスにある大学事務は、事務局長によって統括されている。【資料 3-4-8】

【エビデンス集・資料編】

【資料 3-4-1】 学校法人村崎学園寄附行為 ※【資料 F-1】と同じ

【資料 3-4-2】 徳島文理大学学則 ※【資料 F-3】と同じ

【資料 3-4-3】 学校法人村崎学園理事会規則 ※【資料 3-2-4】と同じ

【資料 3-4-4】 学校法人村崎学園常任理事会規則 ※【資料 3-2-6】と同じ

【資料 3-4-5】 学校法人村崎学園評議員会規程 ※【資料 3-2-8】と同じ

【資料 3-4-6】 部局長会規程 ※【資料 1-3-31】と同じ

【資料 3-4-7】 合同教授会規程 ※【資料 1-3-32】と同じ

【資料 3-4-8】 平成 27 年度学校法人村崎学園組織（事務関係）

※【資料 2-9-2】と同じ

【自己評価】

- ・ 部局長会は、定例的に開催されており、法人の管理部門と大学の教学部門及び事務部門との意思疎通が緊密に図られていると判断している。
- ・ 地理的に離れた徳島・香川両キャンパスの運営を円滑に行うため、部局長会には、両キャンパスから役職者が出席することで、重要な伝達事項が、両キャンパスに速やかに伝わる体制が構築できている。

3-4-② 法人及び大学の各管理運営機関の相互チェックによるガバナンスの機能性

【事実の説明】

- ・ 監事による監査は、「私立学校法」及び「寄附行為」に基づき行われている。監事は、理事会、評議員会に出席し、業務内容を聴取するとともに、部局長会等重要な会議にも出席し、監査機関としての役割を担っている。【資料 3-4-1】【資料 3-4-9】
- ・ 評議員会は、「寄附行為」に定めるとおり「評議員会規程」に基づき、予算や事業計画等の重要事項について、理事会の開催前に意見を述べる役割を担っている。【資料 3-4-5】

【エビデンス集・資料編】

【資料 3-4-1】 学校法人村崎学園寄附行為 ※【資料 F-1】と同じ

【資料 3-4-5】 学校法人村崎学園評議員会規程 ※【資料 3-2-8】と同じ

【資料 3-4-9】 平成 27 年度部局長会名簿 ※【資料 3-2-11】と同じ

【自己評価】

- ・ 監事は定期的な監査だけでなく、部局長会等にも出席し、業務を適切に行っている。
- ・ 理事長は法人の職務を総理し、重要事項について、評議員会に諮り、意見を聴取している。評議員会は法令並びに寄附行為に定められた業務を適切に行っており、ガバナンスの機能確保に努めている。

3-4-③ リーダーシップとボトムアップのバランスのとれた運営

【事実の説明】

- ・ 理事長は、自ら新入生対象の講義「文理学」において「徳島文理大学の建学精神と歴史」を担当し、建学の精神の理解を促し、本学学生としてのアイデンティティの確立を図っている。また、学内行事や会議にも積極的に出席し、リーダーシップを発揮している。【資料 3-4-10】
- ・ 教授会や各種委員会等は規程に基づき、学長のリーダーシップのもとで運営されている。学長主宰の「事務部長等懇談会」及び、「学部長懇談会」が適宜開催され、意見交換を活発に行うとともに、合同教授会等の補完的な役割を果たしている。
- ・ 学長は理事として、理事会や常任理事会にも出席し、大学を代表して教育研究部門について法人との連携に努めている。【資料 3-4-11】
- ・ 本学には、教育研究活動を円滑に行うことを目的に各種委員会が設置されている。その中でも教育開発機構は、教員組織と事務組織が協力しあって討議・運営してい

ることから、活発な討議とともに結果が共有できる。【資料 3-4-12】

- ・ 委員会等で立案された施策は、所定の手続きを経て、決裁権限者の承認を受け、執行することとなっている。

【エビデンス集・資料編】

【資料 3-4-10】平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド（37 頁）

※【資料 F-5】と同じ

【資料 3-4-11】理事、監事、評議員名簿 ※【資料 F-10】と同じ

【資料 3-4-12】教育開発機構設置要綱 ※【資料 3-3-4】と同じ

【自己評価】

- ・ 使命・目的及び教育目的の達成のために理事長、学長はリーダーシップを発揮している。また、教学部門と事務部門の連携が取りやすい体制となっており、円滑に運営されていると判断している。

(3) 3-4 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 部局長会の定例的開催等、管理部門と教学部門・事務部門の連携が適切に行われているので、今後も引き続きこの体制を維持発展させていきたい。

3-5 業務執行体制の機能性

《3-5 の視点》

3-5-① 権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した組織編制及び職員の配置による業務の効果的な執行体制の確保

3-5-② 業務執行の管理体制の構築とその機能性

3-5-③ 職員の資質・能力向上の機会の用意

(1) 3-5 の自己判定

基準項目 3-5 を満たしている。

(2) 3-5 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

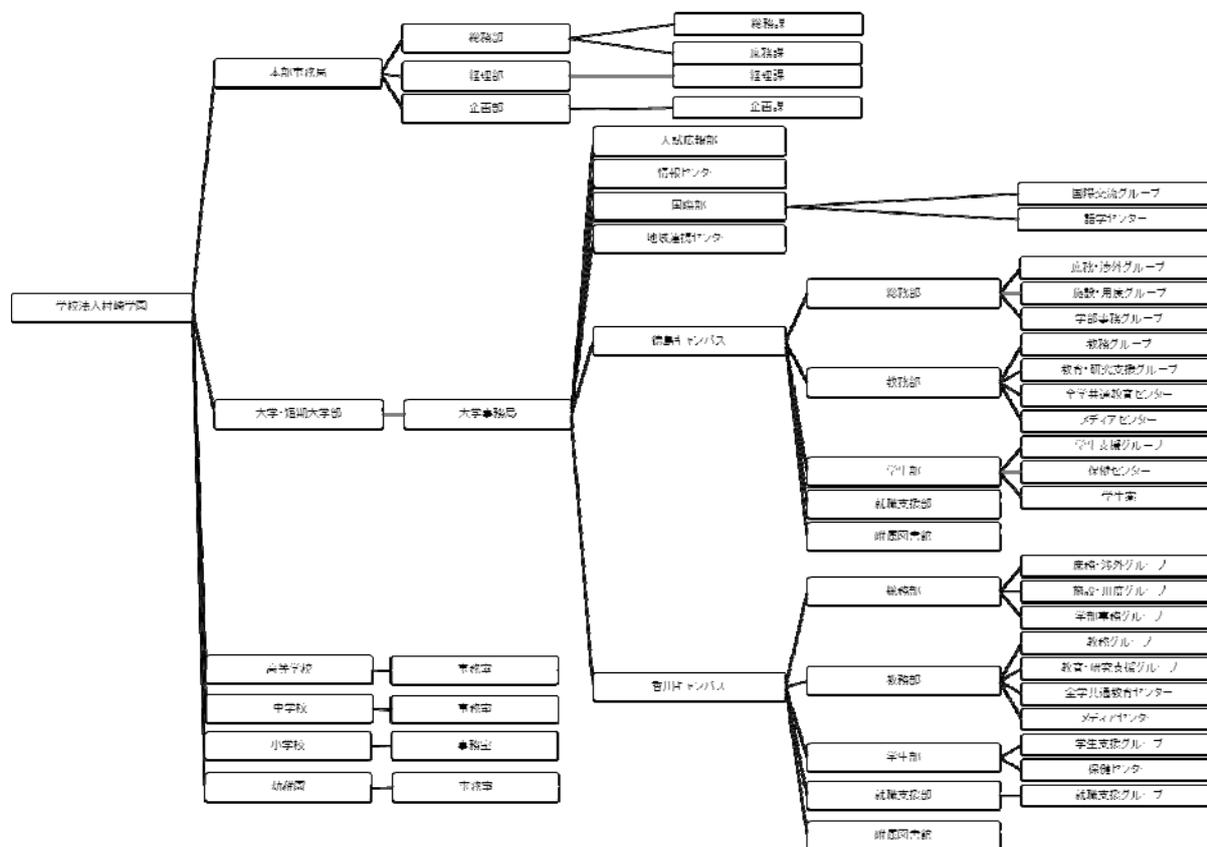
3-5-① 権限の適切な分散と責任の明確化に配慮した組織編制及び職員の配置による業務の効果的な執行体制の確保

【事実の説明】

- ・ 法人の事務組織は、法人事務局、大学・短期大学部の大学事務と幼稚園、小学校、中学校・高等学校の各事務室とに大別される。【資料 3-5-1】【図 3-5-1】
- ・ 本学の事務は、徳島キャンパスと香川キャンパスで同様の組織編成をとっており、「事務組織・事務分掌規程」に基づき、必要な職員が配置されている。【資料 3-5-2】
- ・ 教育・研究支援及び学生支援の充実を目的とし、事務の機能を集約した組織編成をとっている。
- ・ 事務職員数（平成 27(2015)年 5 月 1 日現在）は、130 人であり、そのうち 125 人が正職員である。正職員の内訳は法人事務局 23 人、徳島キャンパス 61 人、香川キャンパス

ンパス 41 人の 112 人である。【データ編・表 3-1】

【図 3-5-1】 事務組織図



【エビデンス集・資料編】

【資料 3-5-1】平成 27 年度学校法人村崎学園組織（事務関係）

※【資料 2-9-2】と同じ

【資料 3-5-2】学校法人村崎学園事務組織・事務分掌規程

【エビデンス集・データ編】

【データ編・表 3-1】職員数と職員構成（正職員・嘱託・パート・派遣別、男女別、年齢別）

【自己評価】

- ・ 大学の目的を達成するために、必要な職員を確保し、適切に配置している。
- ・ 職員には大学の管理運営に係わる専門家としての高い能力と自覚を持つことを求めており、業務の効率的な分担が図られていると判断している。

3-5-② 業務執行の管理体制の構築とその機能性

【事実の説明】

- ・ 事務職員の採用・昇任・異動は、「職員資格審査基準」及び、法人事務局と大学の各事務部長との情報交換を基にこれを行っている。【資料 3-5-3】
- ・ 事務職員の新規採用については、主に本学の新卒者を採用してきたが、平成

25(2013)年から、公募方式による試験採用を実施し、優秀な人材の確保に努めている。

- ・ 人事異動は、本人の希望と各事務部長からの推薦に基づき、本人の能力・職務経歴の評価と適材適所を基本方針として、人事を担当する総務部長が人事異動案を作成し、事務局長、理事長の決裁を得て発令している。
- ・ 学長主宰の「事務部長等懇談会」が適宜開催されている。学長と事務局長、徳島・香川両キャンパスの事務部長等で構成されており、組織運営に関するよりきめの細かい情報交換と共通の理解を得られる場となっている。

【エビデンス集・資料編】

【資料 3-5-3】 職員資格審査基準

【自己評価】

- ・ 業務執行の管理体制は適切に構築され、機能的に運営されていると判断している。

3-5-③ 職員の資質・能力向上の機会の用意

【事実の説明】

- ・ 学外の各種研修会、セミナーに積極的に参加させることにより、業務に関する最新の動向や大学を取り巻く環境の変化に対応できるよう努めている。
- ・ SD 活動では、SD 推進委員会を設置し、本学独自に行う研修を企画・運営し、本学の実情に応じたきめ細かい研修の機会を設けるとともに、学外の SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）での研修会にも積極的に参加し、指導的立場を担う職員の養成にも取り組んでいる。【資料 3-5-4～資料 3-5-6】
- ・ 新規採用者に対しては、新任職員研修会を実施し、業務内容のオリエンテーションや学内システムの研修を行っている。【資料 3-5-7】

【エビデンス集・資料編】

【資料 3-5-4】 2014（平成 26 年度）FD 研究部会活動報告書（18-19 頁）

SD 研修について 【資料 2-2-21】 と同じ

【資料 3-5-5】 平成 27 年度特色ある教育・研究

要支援学生（精神・身体・発達段階において問題を抱える学生）の
現状調査と支援のあり方について

【資料 3-5-6】 徳島文理大学 SD 推進委員会設置要領

【資料 3-5-7】 新任教職員研修・学内システム研修会資料

【自己評価】

- ・ 学内の SD 活動や学外の SPOD の研修会に職員が参加することができ、指導的立場を担う本学職員の養成が図られている。
- ・ 学内外の各種研修会、セミナーに積極的に参加させ、業務に関する最新の動向や大学を取り巻く環境の変化に対応できるような職員の資質・向上の機会を提供してい

る。

(3) 3-5 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ SD 推進委員会を中心にした SD 活動の充実と活性化に努める。また、SPOD 等の学外機関との連携を強化する。
- ・ 事務の効率的運営、学生へのサービスの充実のため、大学キャンパス組織と事務分掌の見直しを適宜行う。
- ・ 大学における教育の質の向上や教育ニーズの多様化に対応するため、教員だけでなく職員にも、教育研究に関連する多彩な業務が増加してきている。これらに対応できるように、職員のさらなる能力向上を図る。

3-6 財務基盤と収支

《3-6 の視点》

3-6-① 中長期的な計画に基づく適切な財務運営の確立

3-6-② 安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保

(1) 3-6 の自己判定

基準項目 3-6 を満たしている。

(2) 3-6 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

3-6-① 中長期的な計画に基づく適切な財務運営の確立

【事実の説明】

- ・ 財務運営にあたっては中期財務計画書を策定の上、適切に実施している。【資料 3-6-1】
- ・ 重要な事業計画については実施主要事業計画書を策定し、評議員会に諮り、理事会の承認を得た上で執行している。【資料 3-6-2】
- ・ 年度予算の編成にあたっては、各部署から法人本部経理部に対して予算要望書の提出をもとめ、経理部において各部署からの予算要求内容を精査、整理し収支バランスを勘案の上、翌年度予算案を立案し評議員会に諮り、理事会の承認を得て学園全体の予算を決定している。【資料 3-6-3】

【エビデンス集・資料編】

【資料 3-6-1】 学校法人村崎学園中期財務計画

【資料 3-6-2】 平成 27 年度実施主要事業計画書（案） ※【資料 F-6】と同じ

【資料 3-6-3】 平成 27 年度予算要望総括表・予算要望書

【自己評価】

- ・ 中長期的な計画に基づき適切な財務運営が確立されているものと判断している。

3-6-② 安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保

【事実の説明】

- ・ 過去5年間の自己資金構成比率は96.8%から97.0%で推移している。また、外部負債はなく総負債比率、負債比率ともに平均値に比し良好であり、財務基盤は安定している。【データ編・表3-7】【表3-6-1】

【表3-6-1】過去5年間の自己資金構成比率と負債比率

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
自己資金構成比率	96.9%	97.0%	96.8%	96.8%	96.9%
総負債比率	3.1%	3.0%	3.2%	3.2%	3.1%
負債比率	3.2%	3.1%	3.3%	3.3%	3.2%

- ・ 帰属収入は100億円程度を確保しつつ、教育研究環境の整備、充実を図るとともに、経費の圧縮に努めている。平成26(2014)年度の教育研究経費率は40.6%、管理経費比率は6.2%といずれも平均値を上回っている。【データ編・表3-5】【表3-6-2】

【表3-6-2】過去5年間の教育研究経費率と管理経費比率（法人全体）

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
教育研究経費率	44.9%	44.7%	44.5%	41.8%	40.6%
管理経費比率	6.9%	6.8%	6.5%	6.5%	6.2%

- ・ 帰属収支差額は平成22(2010)年度、平成24(2012)年度にマイナスとなったものの直近の2か年はプラスとなり安定的に推移している。【資料3-6-4】【表3-6-3】

【表3-6-3】過去5年間の帰属収入と帰属収支差額（法人全体） 百万円

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
帰属収入	10,237	10,131	9,914	10,336	11,258
帰属収支差額	△160	102	△96	401	790

- ・ 補助金収入、資産運用収入等の外部資金の導入に努め、収入の多様化を図っている。なお、資産運用は「資産運用内規」に則ってリスクを極力排除した運用を行っている。【資料3-6-4～資料3-6-6】【表3-6-4】

【表3-6-4】過去5年間の外部研究費受入

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
金額（千円）	180,693	210,077	232,932	209,734	164,196
件数（件）	90	108	106	99	111

【エビデンス集・資料編】

【資料3-6-4】決算書（平成22年度～平成26年度）

【資料 3-6-5】 学校法人村崎学園資産運用内規

【資料 3-6-6】 外部資金一覧表

【エビデンス集・データ編】

【データ編・表 3-5】 消費収支計算書関係比率（法人全体のもの）（過去 5 年間）

【データ編・表 3-7】 貸借対照表関係比率（法人全体のもの）（過去 5 年間）

【自己評価】

- ・ 自己資本構成比率は高く、外部負債もないことから安定した財務基盤を確立している。
- ・ 教育研究経費率、管理経費比率ともに平均値に比し良好である。
- ・ 帰属収支差額はプラス推移しており収支バランスは確保できている。
- ・ 積極的な外部資金の導入に努めている。

(3) 3-6 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 少子化、学生の中央指向に伴い、地方の大学は入学者の減少傾向にあり、社会及び地域のニーズに対応した学科編成並びに学生募集の強化、学生満足度の向上を図り、学生生徒等納付金収入の確保に努める。
- ・ 引き続き科研費などの公的資金並びに受託研究等の外部資金の積極的な取り入れにより、帰属収入の安定化を図る。

3-7 会計

《3-7 の視点》

3-7-① 会計処理の適正な実施

3-7-② 会計監査の体制整備と厳正な実施

(1) 3-7 の自己判定

基準項目 3-7 を満たしている。

(2) 3-7 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

3-7-① 会計処理の適正な実施

【事実の説明】

- ・ 会計処理は学校法人会計基準に基づき、学校法人村崎学園経理規程等の規程を整備し、適正な会計処理を行っている。【資料 3-7-1】
- ・ 会計処理上、判断が困難なものについては、会計士に随時、相談、質問を行うなど適切な会計処理に努めている。
- ・ 予算とかい離が発生した場合には、補正予算を編成し理事会の承認を得ている。【資料 3-7-2】
- ・ 各種セミナーや研修会に参加し、職員の会計知識の向上に努めている。
- ・ 予算執行にあたっては、経理部において各部署の担当者を定め、予算科目等の申請内容の確認並びに予算管理を行い、適正な会計処理を実施している。【資料 3-7-3】

【エビデンス集・資料編】

- 【資料 3-7-1】 学校法人村崎学園経理規程・同施行細則 ※【資料 3-1-3】と同じ
- 【資料 3-7-2】 平成 26 年度 補正予算書
- 【資料 3-7-3】 平成 27 年度 経理部担当者一覧

【自己評価】

- ・ 会計処理は、「学校法人会計基準」「私立学校法」「私立学校振興助成法」等に則り、適切に実施していると判断している。

3-7-② 会計監査の体制整備と厳正な実施

【事実の説明】

- ・ 会計監査の体制を整備し、厳正に実施している。
- ・ 会計士監査は監査計画書に基づき、月次決算、期末、決算報告書監査、実査及び意見審査のうえ監査報告書を提出しており、適切な監査を実施している。【資料 3-7-4】
- ・ 監事監査は監事監査規則に則り、監査計画を策定の上、監査を実施し、会計年度終了後、監査報告書を理事会及び評議員会に提出している。【資料 3-7-5～資料 3-7-7】
- ・ 監事は会計士監査には必ず立会い、意見交換を行い報告を受けるなど会計士と連携して適正な会計処理に取り組んでいる。
- ・ 物件の調達管理取扱規程に基づき、本部職員による購入に係る証憑及び現品調査を実施し、報告書を法人本部事務局長に提出し、理事長に報告している。【資料 3-7-8】
【資料 3-7-9】

【エビデンス集・資料編】

- 【資料 3-7-4】 学校法人村崎学園監査計画書
- 【資料 3-7-5】 学校法人村崎学園監事監査規則・学校法人村崎学園監事監査実施要領
※【資料 3-2-10】と同じ
- 【資料 3-7-6】 平成 27 年度 監査計画
- 【資料 3-7-7】 平成 26 年度 監事監査報告書（理事会・評議員会）
- 【資料 3-7-8】 学校法人村崎学園物件の調達管理取扱規程 ※【資料 3-1-4】と同じ
- 【資料 3-7-9】 現品調査報告書

【自己評価】

- ・ 規則に基づいた会計監査の体制が整えられており、厳正な監査が実施されていると判断している。
- ・ 会計監査の体制は整備されており、厳正な監査が実施されていると判断している。

(3) 3-7 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 学校法人会計基準の改正に伴う、会計システムの変更並びに各種セミナーや研修会に参加し、改正に係る会計処理のスキルアップを図る。
- ・ 会計処理は適切に行われており、引き続き学校法人会計基準及び学校法人村崎学園

経理規程等に基づき、適正な会計処理を行っていく。

- ・ 会計士監査、監事監査ともに適切に行われており、一層の連携強化に努める。

[基準3の自己評価]

- ・ 管理運営体制は「寄附行為」及び諸規程に明確に定められ、それに則り適切に運営されている。
- ・ 管理部門と教学部門は、部局長会等の機能を通じて、緊密な連携を保っている。
- ・ 機能的に業務を執行するためには、職員のさらなる資質能力の向上が必要であると認識しており、文部科学省や私学協会等の学外での研修会等への積極的な参加を促し、人材の育成に努めている。
- ・ 中期財務計画に基づき適切な財務運営を行っており、財務基盤は安定している。
- ・ 会計処理は学校法人会計基準に則り厳正に行われており、監査体制も整備している。

基準 4. 自己点検・評価

4-1 自己点検・評価の適切性

《4-1 の視点》

4-1-① 大学の使命・目的に即した自主的・自律的な自己点検・評価

4-1-② 自己点検・評価体制の適切性

4-1-③ 自己点検・評価の周期等の適切性

(1) 4-1 の自己判定

基準項目 4-1 を満たしている。

(2) 4-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

4-1-① 大学の使命・目的に即した自主的・自律的な自己点検・評価

4-1-② 自己点検・評価体制の適切性

【事実の説明】

- ・ 徳島文理大学「学則」第 1 章第 1 条に「本学は教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、自立協同の建学精神に基づき、広く高い教養と高度の専門的知識技能を教授研究し、人格の陶冶を図り、もって、教育研究の成果を社会に提供するとともに、文化の創造と地域及び世界の発展に貢献することのできる人物を育成することを目的とする」とし、学校教育法第 109 条の第 1 項に則り、教育研究水準の向上に資するため、本学の教育・研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について、自ら点検及び評価を行うことを学則第 59 条に定め、実施している。【資料 4-1-1】
- ・ 平成 4(1992)年 7 月、大学設置基準第 2 条（情報の積極的な提供）に基づき、自己点検・評価委員会を設置し、部門別自己点検委員会と「自己点検・自己評価に関する規程」を設けた。
- ・ 平成 19(2007)年 10 月、「自己点検・評価に関する規程」を改正し、平成 22(2010)年度に自己点検・評価委員会を改組した。【資料 4-1-2】
- ・ 自己点検・評価委員会は、自己点検・評価の基本方針及び実施計画の決定に関する事項や自己点検報告書の作成並びに公表、自己点検・評価の結果に基づく改善に関する事項等について、協議決定を行っている。また、具体的な点検・評価項目を立案し、自己点検・評価委員会の承認を得て、点検・評価項目を定め、報告書を作成する専門部会があり、6 部会に分かれて作業を行っている。【資料 4-1-3】【資料 4-1-4】
【図 4-1-1】
- ・ 薬学系大学院は、平成 24(2012)年度に自己点検・評価を行い、その内容を文部科学省に報告、ホームページに公開している。本大学院は、6 年制の上の博士課程 4 年制であり、医療との繋がりが一つの重要な課題である。高知大学病院や徳島赤十字病院との連携などを重要な評価事項としている。さらに本大学院を含む四国の薬学部の大学間連携を通して、外部評価として評価委員会 A、B、C と 3 種類の評価委員により外部評価を受けている。【資料 4-1-5】【資料 4-1-6】
- ・ 専門部会の委員構成は自己点検・評価に関する規程細則に定められているが、構成人数が多すぎ、まとまりに欠けるとの指摘がある。現在学内の自己点検・評価体制について検討中である。

【図 4-1-1】 自己点検・評価体制



【エビデンス集・資料編】

- 【資料 4-1-1】 徳島文理大学学則 ※【資料 F-3】と同じ
- 【資料 4-1-2】 徳島文理大学自己点検・評価に関する規程
- 【資料 4-1-3】 徳島文理大学自己点検・評価に関する規程細則
- 【資料 4-1-4】 自己点検・評価委員会組織図
- 【資料 4-1-5】 平成 24 年度自己点検・評価の内容（徳島文理大学大学院薬学研究科）
- 【資料 4-1-6】 四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革評価委員会議事

【自己評価】

- ・ 本学の自己点検・評価は、自己点検・評価委員会と専門部会が中心となり行われている。委員会並びに専門部会の委員は教学部門、法人事務局、大学事務局からそれぞれ選出され、連携して活動を行っており、自己点検・評価体制の適切性は担保されているものと判断している。

4-1-③ 自己点検・評価の周期等の適切性

【事実の説明】

- ・ 平成 22(2010)年度に、大学機関別認証評価を受け、大学評価基準を満たしていると認定された。
- ・ 平成 24(2012)年度及び平成 25(2013)年度に、平成 24 年度認証評価から適用された大学評価基準を元に点検評価を実施し、今後の自己点検・評価のための資料としての報告書を作成し、自己点検・評価委員会に提出した。【資料 4-1-7】
- ・ 自己点検・評価の周期等は、規程では定められていないが、自己点検・評価委員会において、報告書作成及び公表等についての協議を行っている。【資料 4-1-2】

【エビデンス集・資料編】

【資料 4-1-2】 徳島文理大学自己点検・評価に関する規程

【資料 4-1-7】 平成 25 年度自己点検評価書

【自己評価】

- ・ 使命・目的に即した自己点検・評価を自己点検・評価委員会で協議した上で計画的に行っており、平成 25 年度自己点検評価書を作成することにより、周期の適切性は担保するよう努めている。

(3) 4-1 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 複数の専門部会が、教学部門、法人事務局、大学事務局部会からの委員で構成されるため、構成人数が多くなり、まとまりに欠けることが指摘されている。指摘を受け、部会の責任者と委員の役割を規定するなど改善を試みている。今後、現在 6 部会に分かれて活動している専門部会の体制自体についても検討し、更に円滑な自己点検・評価体制が築けるよう努めていく。

4-2 自己点検・評価の誠実性

《4-2 の視点》

4-2-① エビデンスに基づいた透明性の高い自己点検・評価

4-2-② 現状把握のための十分な調査・データの収集と分析

4-2-③ 自己点検・評価の結果の学内共有と社会への公表

(1) 4-2 の自己判定

基準項目 4-2 を満たしている。

(2) 4-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

4-2-① エビデンスに基づいた透明性の高い自己点検・評価

【事実の説明】

- ・ 平成 24 年度自己点検評価報告書作成の際には、日本高等教育評価機構の大学評価基準を参考に自己点検・評価を行ったが、その自己点検・評価に必要な基礎となるデータは、エビデンス集（データ編）の様式に基づき、教育・研究支援グループから各事務局にデータ作成を依頼し作成している。【資料 4-2-1】

【エビデンス集・資料編】

【資料 4-2-1】 データ・資料収集依頼文

【自己評価】

- ・ 自己点検・評価に必要なデータや資料の収集は、事務局である教育・研究支援グループが中心となっており、その収集されたデータ等に各専門部会が独自に収集した資料を加えて、点検・評価を行う体制をとっていることからエビデンスに基づいた自己点検・評価を行っている判断している。

4-2-② 現状把握のための十分な調査・データの収集と分析

【事実の説明】

- ・ 現状把握のためのデータや資料の収集は前述のとおり、事務局である教育・研究支援グループが中心となって行っている。データや資料は、日本高等教育評価機構の大学評価基準やエビデンス集（データ編）の様式に基づき、継続して収集しており、データ等も専門部会において比較検討されている。
- ・ 保護者会において、総会や面談で出された保護者からの要望や意見を教職員は所属長並びに総務部に報告する体制を取っている。総務部はそれに対する回答を関係部署と協議し、まとめて、教職員グループウェアに掲載し、情報の共有を図り、大学の運営に反映させている。【資料 4-2-2】【資料 4-2-3】

【エビデンス集・資料編】

【資料 4-2-2】 2014 年度保護者会支部会開催のご案内 ※【資料 2-3-11】と同じ
【資料 4-2-3】 保護者会支部会を終えて

【自己評価】

- ・ 資料・データの収集やアンケートを継続的に行い、その蓄積されたデータに基づいた分析も行っているため、本学並びに学生の現状把握に努めていると判断している。

4-2-③ 自己点検・評価の結果の学内共有と社会への公表

【事実の説明】

- ・ 平成 22(2010)年度に受審した大学機関別認証評価の結果は本学ホームページ上に公開している。自己点検・評価委員会での協議の結果、平成 25 年度の本学の自己点検評価書を作成した。【資料 4-2-4】
- ・ 平成 27(2015)年 3 月には、平成 25 年度自己点検評価書の内容を踏まえた全学的な自己点検・評価に関する研修会を開催し、学内共有に努めた。【資料 4-2-5】

【エビデンス集・資料編】

【資料 4-2-4】 平成 25 年度自己点検評価書 ※【資料 4-1-7】と同じ
【資料 4-2-5】 自己点検評価研修会次第

【自己評価】

- ・ 認証評価の評価結果や自己点検・評価委員会において承認を受けた自己点検評価書をホームページ上に公表することとしている。
- ・ 自己点検評価書の教職員グループウェアへの掲載や、学内研修会を通じて、学内での共有が図られていると判断している。

(3) 4-2 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 本学では、現時点では IR（インスティテューショナル・リサーチ）の専門部署を置いていない。入試広報部を中心に入学志願状況等の動向を継続的に把握し、データ

を収集して学生募集にどう生かしていくか、今後体制の構築も含め検討していく。

- ・ 社会への説明責任を果たすため、今後もエビデンスに基づいた自己点検・評価の周知・徹底を図る。

4-3 自己点検・評価の有効性

《4-3の視点》

4-3-① 自己点検・評価の結果の活用のためのPDCAサイクルの仕組みの確立と機能性

(1) 4-3の自己判定

基準項目 4-3 を満たしている。

(2) 4-3の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

4-3-① 自己点検・評価の結果の活用のためのPDCAサイクルの仕組みの確立と機能性

【事実の説明】

- ・ 本学の自己点検・評価の結果については、自己点検・評価委員会で検討し、改善を要する点があれば、その改善する内容により関係部署並びに各種委員会で協議するような体制をとっている。
- ・ 各学部は、教員の教育研究業績や教育活動等や学部の委員会活動をまとめた「教育研究年報」を発刊している。また、各教員は、「教員活動状況調査」（エフォートの評価）を作成し、学長に提出する。「教育研究年報」や「教員活動状況調査」の作成を通して、教員は1年間の教育研究活動を総括し、今後の改善に資している。【資料 4-3-1～資料 4-3-10】

【エビデンス集・資料編】

【資料 4-3-1】人間生活学部教育・研究年報 平成 26 年度 ※【資料 2-8-3】と同じ

【資料 4-3-2】音楽学部 2014 年度教育・研究年報 ※【資料 2-8-4】と同じ

【資料 4-3-3】薬学部教育・研究年報第 9 号 2014 年 ※【資料 2-8-5】と同じ

【資料 4-3-4】総合政策学部平成 26 年度教員活動報告 ※【資料 2-8-6】と同じ

【資料 4-3-5】保健福祉学部 2014 年度教育・研究年報 ※【資料 2-8-7】と同じ

【資料 4-3-6】文学部 教育・研究年報 2014 年 ※【資料 2-8-8】と同じ

【資料 4-3-7】2014 年理工学部年報 ※【資料 2-8-9】と同じ

【資料 4-3-8】香川薬学部教育・研究年報 Annual Report 第 9 号 2014 年

※【資料 2-8-10】と同じ

【資料 4-3-9】未来科学研究所 Annual Progress Report2014

※【資料 2-8-11】と同じ

【資料 4-3-10】教員活動状況調査（アニュアルレポート）様式

※【資料 2-8-2】と同じ

【自己評価】

- ・ 自己点検・評価の結果を活用するための仕組みは確立されており、機能的に運営されていると判断している。

(3) 4-3 の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 情報や意見を交換し、よりよい大学運営を行うことができる体制を構築していく。
- ・ 両キャンパスにおける教育改善活動の PDCA サイクルが一層機能するように「自己点検・評価委員会」が中心となって働きかける。

【基準 4 の自己評価】

- ・ 大学運営における自己点検・評価は、自己点検・評価委員会と専門部会が中心となり、現状把握に必要な資料やデータを元に活動を行っており、教育研究や大学運営の改善に貢献していると判断している。
- ・ 保護者会役員会・地区別保護者会における、保護者から出された要望や意見は教職員グループウェアに掲載し情報を共有し、大学運営に活かしていると判断している。
- ・ 自己点検・評価を行うことにより、各教員個人での教育・研究活動は改善されていると判断している。

Ⅳ. 大学が使命・目的に基づいて独自に設定した基準による自己評価

基準 A. 地域貢献・地域連携

A-1 徳島文理大学における地域貢献・地域連携

《A-1 の視点》

A-1-① 大学が持っている物的・人的資源を社会に提供する努力がなされていること

A-1-② 教育研究上において、企業や他大学との適切な関係が構築されていること

A-1-③ 大学と地域社会との協力関係が構築されていること

(1) A-1 の自己判定

基準項目 A-1 を満たしている。

(2) A-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

A-1-① 大学が持っている物的・人的資源を社会に提供する努力がなされていること

【事実の説明】

- ・ 本学では、平成 27(2015)年 4 月地域連携センターを地域貢献・地域連携を担う中核として徳島キャンパスに設立した。センターは、地域と大学をつなぐ窓口として積極的に自治体等の課題・ニーズを把握するとともに大学教職員が学部・学科横断的に協力しその課題解決に取り組むことを支援する部署と位置付け、本学の人的・物的資源を駆使し地域貢献を実践している。なお、香川キャンパスにおいては、副センター長を置き、主として香川県に特化した活動を行っている。【資料 A-1-1】

①公開講座・セミナー

(1) 公開講座

- ・ 本学では、平成 19(2007)年より各界で活躍するリーダーを招き、徳島と香川両キャンパスで公開講座を無料で実施している。平成 26(2014)年度は下記の通り実施した。【資料 A-1-2】【表 A-1-1】

【表 A-1-1】平成 26 年度公開講座

開催月日	講師	演題	参加者	キャンパス
5月16日	中西 幹育氏 株式会社事業創造研究所 代表取締役、株式会社タイカ テクニカルアドバイザー、静岡大学イノベーション社会連携推進機構 客員教授、アース研究会 会長	自然エネルギーの活用	420	香川
6月11日	押田 茂實氏 日本大学名誉教授(法医学)、神楽坂法医学研究所所長	科学の進歩と真相究明 －DNA型鑑定と具体的な再審事件－	450	徳島
6月13日	村山 昇作氏 iPSアカデミアジャパン株式会社代表取締役社長、百十四銀行顧問	事業家の視点から見た I P S細胞テクノロジー	420	香川
6月26日 27日	小菅 正夫氏 北海道大学客員教授、旭山動物園前園長	命の輝き－動物の生態（生と死）から学ぶこと－	650	徳島 香川
7月2日	寺田 親弘氏 Sansan 株式会社 代表取締役社長	新しい「あたりまえ」を創る ～ビジネスの出会いを資産に変え、働き方を革新する～	300	徳島

(2) 公開セミナー

- ・ 地域連携センターを開設後、第1回セミナーとして、地域養護教諭等を対象に「生活習慣病予防に身長・体重成長曲線を活用して」を開催した。【資料 A-1-3】

②出張講義

- ・ この事業は、徳島文理大学教員が高等学校等からの要請に応じて幅広い専門分野の講義を行い、高校生等が大学の教育・研究の成果に触れることにより、学問に対する関心を高め探究心をもつことを目的として設立された。平成26(2014)年度は、全学で176のプログラムを用意した。その結果、95の高校等から依頼があり、出張講義を実施した。【資料 A-1-4】

③大学施設の開放等

- ・ 平成18(2006)年度から、12月上旬から2月14日の間の夜間に徳島県の主要工業産品であるLEDによるイルミネーションでキャンパスをライトアップしている。この企画は地域の住民が大学に親しみを覚え、地域とともに発展する大学となることを目的としている。



- ・ 附属図書館を一般開放している。来館時、身分証明書等の提示により入館・閲覧・コピー等が可能である。
- ・ 公的機関から各種試験会場として使用する要請があった場合、可能な限り施設を開放している。実際には、薬剤師国家試験（厚生労働省）、大学入試センター試験、保育士試験、秘書技能検定試験（実務技能検定協会）、さぬき市等の職員採用試験等の試験会場として本学施設を提供している。
- ・ 地域連携センターでは、ランチコンサート等で新2号館の一部を一般公開している。

④「特色ある教育・研究」における地域活性社会貢献枠

- ・ 本学は、平成7(1995)年度から特色ある教育改善への取り組み、及び学内外との共同研究を奨励する目的で、「特色ある教育・研究」の助成金を学内の競争的資金として教職員に支給している。その中に、地域の発展に寄与、地域文化の向上等、地域に役立つ取り組みを主体的に実践する事業「地域における社会貢献事業、学生と地域の協働企画等」枠を設けている。平成26(2014)年度、新規採用事業として、「薬学部、保健福祉学部が連携した地域住民の健康増進プロジェクト」が採択された。

【資料 A-1-5】

【エビデンス集・資料編】

- 【資料 A-1-1】 徳島文理大学地域連携センター規程
- 【資料 A-1-2】 徳島文理大学公開講座 2015 ※【資料 1-3-22】と同じ
- 【資料 A-1-3】 第 1 回地域連携センター開催セミナー
- 【資料 A-1-4】 出張講義プログラム 高校生向け「知の資源」の開放 2014
- 【資料 A-1-5】 第 7 回「特色ある教育・研究」全学発表会抄録集 (37 頁)

【自己評価】

- ・ 地域の発展に貢献するという本学の教育理念のひとつに基づき、さまざまな公開講座・セミナーそして出張講義等を行っており、本学の人的・物的資産の提供は充分に行われていると評価できる。

A-1-② 教育研究上において、企業や他大学との適切な関係が構築されていること

【事実の説明】

- ・ 特に、薬学部、香川薬学部を中心として、医療系学部学科が積極的に企業・他大学との連携に取り組んできた。

企業・他大学との連携

- ・ 四国のすべての薬学部（徳島文理大学薬学部と香川薬学部、徳島大学薬学部、松山大学薬学部の 3 大学 4 薬学部）が合同で提案していた取組「四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革」が平成 24(2012)年度大学間連携共同教育推進事業として採択された。四国の全薬学部が戦略的連携関係を持ち、薬剤師養成教育・大学院教育と研究を共同して推進し、臨床薬学分野の研究者や高度な専門知識を有する臨床薬剤師を養成することを目指している。本事業は 5 年間の事業で、現在も継続して取り組んでいる。【資料 A-1-6】
- ・ 香川県内の医療系学部を有する国公私の 3 大学の連携により、香川県の医療に関する知の拠点を形成し、地域に密着したチーム医療を実践できる高度な医療人を養成する「香川総合医療教育研究コンソーシアム」を構築し、医療環境の強化や香川県民の健康意識の向上を図っている。高度な医療人育成のための地域連携型総合医療教育研究に基づき、共同授業、大学院合同授業並びに社会人教育、共同研究等の 6 項目について具体的に取り組んでいる。また同交流会では公開講座を開設しており、平成 26(2014)年度は、「考えよう、うどん県の暮らしと健康」を開催した。【資料 A-1-7】
- ・ 薬学部は、平成 24(2012)年 8 月、高知大学医学部と徳島赤十字病院と連携協定を結び、地域医療に貢献する高度な専門知識を有する薬剤師の養成と臨床課題の基礎研究を協働して取り組んでいる。【資料 A-1-8】
- ・ 教員は県、市町村、各種団体の審議会等での委員として就任しており、その活動は「教育研究年報」や「教員活動状況調査」等に記載している。【資料 A-1-9～資料 A-1-18】

【エビデンス集・資料編】

- 【資料 A-1-6】 ホームページ [<http://www.bunri-u.ac.jp/shikoku-yaku/>]
(薬学部／四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革)
- 【資料 A-1-7】 考えよう、うどん県の暮らしと健康パンフレット
- 【資料 A-1-8】 徳島文理大学通信 (アカンサス) Vol.68 (8 頁)
- 【資料 A-1-9】 人間生活学部教育・研究年報 平成 26 年度 ※【資料 2-8-3】と同じ
- 【資料 A-1-10】 音楽学部 2014 年度教育・研究年報 ※【資料 2-8-4】と同じ
- 【資料 A-1-11】 薬学部教育・研究年報第 9 号 2014 年 ※【資料 2-8-5】と同じ
- 【資料 A-1-12】 総合政策学部平成 26 年度教員活動報告 ※【資料 2-8-6】と同じ
- 【資料 A-1-13】 保健福祉学部 2014 年度教育・研究年報 ※【資料 2-8-7】と同じ
- 【資料 A-1-14】 文学部 教育・研究年報 2014 年 ※【資料 2-8-8】と同じ
- 【資料 A-1-15】 2014 年理工学部年報 ※【資料 2-8-9】と同じ
- 【資料 A-1-16】 香川薬学部教育・研究年報 Annual Report 第 9 号 2014 年
※【資料 2-8-10】と同じ
- 【資料 A-1-17】 未来科学研究所 Annual Progress Report2014
※【資料 2-8-11】と同じ
- 【資料 A-1-18】 教員活動状況調査 (アニュアルレポート) 様式
※【資料 2-8-2】と同じ

【自己評価】

- ・ 企業・他大学等の外部組織と、整備された遠隔授業システム等を使用して交流することにより、学生の学修範囲が広がり学修意欲が向上している。また、教員の相互派遣、学生の臨床実習、大学院生の受け入れ及び共同研究の推進が順調に遂行され、地域医療に貢献できる人材養成と臨床課題の基礎研究の成果が挙げられている。

A-1-③ 大学と地域社会との協力関係が構築されていること

【事実の説明】

- ・ 本学では、地元自治体等との連結協定を締結し、お互いの共通認識のもとで課題解決に取り組んでいる。自治体との協定は下記の通りである。
 - 1.徳島県と包括連携協定締結 (平成 26 年 2 月 20 日) 【資料 A-1-19】
 - 2.徳島市と包括連携協定締結 (平成 26 年 3 月 4 日) 【資料 A-1-20】
 - 3.香川県と包括連携協定締結 (平成 26 年 3 月 26 日) 【資料 A-1-21】
 - 4.さぬき市と包括連携協定締結 (平成 25 年 11 月 25 日) 【資料 A-1-22】
 - 5.高松市と包括連携協定締結 (平成 26 年 2 月 6 日) 【資料 A-1-23】

具体的連携事業

①人間生活学部

- ・ 児童学科では、平成 13(2001)年度より、0 歳児から未就学児とその家族を対象とした子育て支援事業である徳島県次世代育成支援イベント「おぎゃっと 21」の運営に参加・協力しており、徳島県内 4 大学の児童のボランティア活動に従事している学

生が中心となりイベントブースを担当する等の取り組みを継続して行っている。【資料 A-1-24】

- ・メディアデザイン学科では、大津波が予想される東南海・南海地震において、津波減災教育の一環として、絵本作家の梅田俊作氏が作成した防災絵本「よりたかくよりはやく」や本学飯原一夫名誉教授の書いた徳島の民話や風景画等の作品を幅広い年代層の方に発信するため、アニメーションやデジタル化およびインターネットでの情報発信に取り組んでいる。【資料 A-1-25】【資料 A-1-26】
- ・メディアデザイン学科では、徳島県警察との間に「情報発信ウォッチャー」事業の連携を結び委嘱式を行った。メディアデザイン学科では、「情報セキュリティ論」の授業の中で徳島県警察が開設しているホームページのモニタリングや効果的に情報発信を行うための提言を行う。【資料 A-1-27】
- ・メディアデザイン学科では、徳島県およびとくしま産業振興機構との連携により、「効果的なウェブメディアの活用について」のテーマで、デジタルコンテンツビジネス入門セミナー【デザイン編】を開催した。企業の担当者とメディアデザイン学科3年生がチームを組み、2日間にわたる講義とワークショップに取り組み、成果発表を行った。【資料 A-1-28】
- ・メディアデザイン学科で習得した ICT 技術を生かし、徳島の活性化に貢献することを設立の目的とした NPO 法人 AwatterLab は、学生が自主的に事業の企画運営を行う NPO 法人である。平成 25(2013)年度には、徳島県立総合大学校ととくしま政策研究センターと連携し、「中山間地域における持続可能なコミュニティづくりに関する調査研究」を実施した。【資料 A-1-29】【資料 A-1-30】

②薬学部

- ・薬学部では、薬学部卒業後教育講座を開催している。遠隔講義システムにより香川薬学部、徳島大学、松山大学でも聴講できる。【資料 A-1-31】
- ・平成 24(2012)年 9 月に薬学部は第 1 回徳島県薬草フェスティバルを徳島県薬草協会と共催し、薬草や薬木等の展示や本学の薬用植物園の見学会を行った。平成 26 年 9 月に第 3 回を実施した。【資料 A-1-32】

③保健福祉学部

- ・徳島市との連携協定に基づき、平成 26(2014)年 7 月 23 日、徳島市民病院新人看護師研修を実施した。なお、一部研修には 4 年生学生も参加した。【資料 A-1-33】

④総合政策学部

- ・平成 21(2009)年から、「四国八十八カ所遍路道の清掃活動」に取り組んでおり、毎年秋に継続して実施している。【資料 A-1-34】
- ・徳島県や徳島県議会との包括連携協定を結び、各種行事を実施している。【資料 A-1-35】

⑤理工学部

- ・さぬき市と連携し、各種イベントへの参加やこども科学教室を開催するなどし、地域住民との交流を図っている。平成 26(2014)年度は平賀源内先生こども科学教室を公募したところ定員 40 人のところに 59 人の応募があった。【資料 A-1-36】
- ・ナノ物質工学科の教員・学生とさぬき市にある「さぬきワイナリー」が共同開発し

た香川発のノンアルコールワインが完成し、平成 27(2015)年 3 月 27 日より発売された。【資料 A-1-37】

- ・ 香川県教育委員会からの委託を受け、「かがわ子ども大学」を開催した。理工学部・香川薬学部・保健福祉学部・文学部が、計 7 講座を開催した。【資料 A-1-38】

⑥文学部・比較文化研究所

- ・ 文化財学科では、高松市教育委員会との連携協力に関する協定を締結し、連携事業として、船岡山古墳群や鶴羽神社境内遺跡調査を行った。また比較文化研究所と共催で、平成 27(2015)年 2 月 28 日には「屋島 1934 -国立公園法と史蹟名勝天然記念物保存法-」と題した公開講演会を開催した。【資料 A-1-39～資料 A-1-41】
- ・ 文化財学科では、小豆島町より古文書等調査保存事業への協力依頼を受け、平成 25(2013)年度より 5 年計画で調査研究を実施している。その研究成果の一端を平成 28(2016)年 2 月～3 月に高松市「石の民俗資料館」において展覧会を開催し、公表する予定である。【資料 A-1-42】【資料 A-1-43】【資料 A-1-44】
- ・ 英語英米文化学科がさぬき市健康福祉部福祉事務所からの依頼を受け、志度放課後児童クラブでの英語アクティビティを実施予定である。【資料 A-1-45】
- ・ 日本文学科が、さぬき市教育委員会・三木町教育委員会の後援を得て、朗読コンテストを開催した。【資料 A-1-46】

【エビデンス集・資料編】

【資料 A-1-19】 徳島県と徳島文理大学との地域貢献に関する包括連携協定書

【資料 A-1-20】 徳島市と徳島文意大学との地域貢献に関する包括連携協定書

【資料 A-1-21】 包括連携・協力に関する協定書（香川県）

【資料 A-1-22】 さぬき市と徳島文理大学との連携に関する協定書

【資料 A-1-23】 徳島文理大学と高松市との連携協力に関する協定書

【資料 A-1-24】 ホームページ

[<http://wwwt.bunri-u.ac.jp/human/jidou/index.php?e=118>]

（人間生活学部児童学科／学科紹介／おぎゃっと 21 に参加します）

【資料 A-1-25】 ホームページ

[<http://wwwt.bunri-u.ac.jp/human/media/files/tokushin.jpg>]

（人間生活学部メディアデザイン学科／プロジェクト／防災アニメよりたかくよりはやく）

【資料 A-1-26】 徳島文理大学通信（アカンサス）Vol.69（13 頁）

【資料 A-1-27】 ホームページ

[<http://wwwt.bunri-u.ac.jp/human/media/index.php?e=349>]

（人間生活学部メディアデザイン学科／学科からのお知らせ／地域貢献／徳島県警察「情報発信ウォッチャー」委嘱式 2014/12/11）

【資料 A-1-28】 ホームページ

[<http://wwwt.bunri-u.ac.jp/human/media/index.php?e=342>]

（人間生活学部メディアデザイン学科／学科からのお知らせ／産学官協定／デジタルコンテンツビジネス入門セミナー 2014/09/24）

- 【資料 A-1-29】 ホームページ
〔<http://www.bunri-u.ac.jp/human/media/index.php?c=7-46&page=3>〕
(人間生活学部メディアデザイン学科／プロジェクト／
Awatter Lab.)
- 【資料 A-1-30】 中山間地域における持続可能なコミュニティづくりに関する調査
研究～美馬市木屋平地区を対象とした大学と地域との連携による魅力
発信事業～
- 【資料 A-1-31】 第 31 回徳島文理大学薬学部卒業後教育講座
- 【資料 A-1-32】 第三回徳島県薬草フェスティバル
- 【資料 A-1-33】 ホームページ
〔<http://www.bunri-u.ac.jp/hokenfukushi/blog/kango/index.php?e=162>〕
(保健福祉学部／ブログ／看護学科／徳島市民病院新人看護師研修
の一環として来学 2014/07/23)
- 【資料 A-1-34】 徳島文理大学通信 (アカンサス) Vol.69 (10 頁)
※【資料 A-1-26】 と同じ
- 【資料 A-1-35】 ホームページ 徳島県議会
〔<http://www.pref.tokushima.jp/gikai/gikaigaiyou/bunri/index2.html>〕
- 【資料 A-1-36】 第 7 回「特色ある教育・研究」全学発表会抄録集 (31 頁)
※【資料 A-1-5】 と同じ
- 【資料 A-1-37】 ホームページ 〔<http://se.bunri-u.ac.jp/nb/2015/04/01/>〕
(理工学部ナノ物質工学科／News／ノンアルコールワインが完成
しました)
- 【資料 A-1-38】 ホームページ 〔<https://www.bunri-u.ac.jp/info/events/eschool.html>〕
(イベント情報／2014 年 7 月 4 日 【香川県内小学生対象】かがわ
子ども大学を開催します！)
- 【資料 A-1-39】 文化財学科・高松市教育委員会連携協定書
- 【資料 A-1-40】 2014 年度文化財学科公開講演会
- 【資料 A-1-41】 比較文化研究所 2014 年度公開講演会「屋島 1934」
- 【資料 A-1-42】 小豆島町からの調査協力依頼文
- 【資料 A-1-43】 小豆島町からの依頼に対する本学の回答
- 【資料 A-1-44】 小豆島史料調査概報No.2 (平成 27 年 3 月発行)
- 【資料 A-1-45】 さぬき市健康福祉部福祉事務所からの依頼文書
- 【資料 A-1-46】 第 5 回朗読コンテスト

【自己評価】

- ・ キャンパスのある徳島並びに香川の地方公共団体等と連携し、各種イベント等の開催や地域住民の交流等を通じ、本学と地域社会との協力体制は構築されていると判断している。

(3) A-1 の改善・向上方策 (将来計画)

- ・ 地域貢献に関する取り組みは、現在のところ学部・学科間で温度差がみられるので、

今後、地域貢献事業を全学的な取り組みとして拡大する方向で改善する。

- 学内での地域貢献事業の要となる部署として設立した地域連携センターの活動を充実させていく。

【基準 A の自己評価】

- 近年、地域の発展を図る上で、「知の拠点」としての大学による地域貢献に期待が寄せられている。本学が位置する四国は、人口の減少や少子高齢化の進行、将来発生が予測されている東南海・南海地震や自然環境の喪失の進行等、様々な課題を抱えている。今後も本学が持つ物的・人的資源を企業や他大学、地方公共団体等と連携しながら、地域社会に還元できるよう努めていく。

基準 B. 国際交流

B-1 徳島文理大学における国際交流

《B-1 の視点》

B-1-① 学術交流協定

B-1-② 高大連携協定

B-1-③ 交換留学生の受入

B-1-④ 交換留学生派遣

B-1-⑤ 短期留学等の実施

(1) B-1 の自己判定

基準項目 B-1 を満たしている。

(2) B-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

B-1-① 学術交流協定

B-1-② 高大連携協定

【事実の説明】

- ・ 本学は、昭和 63(1988)年にバンクーバーコミュニティカレッジとの学術交流協定の締結をはじめに、留学生の派遣や受け入れ、客員教授の招待や共同研究を通して国際交流を深めてきた。近年、中国、台湾及び韓国の各大学との交流を推進しており、平成 25(2013)年 5 月に中国厦門大学と、同 10 月に韓国の水原大学校及び水原科学大学校と、平成 26(2014)年 10 月には台湾の淡交大学と学術交流協定を締結した。
【資料 B-1-1～資料 B-1-3】
- ・ 高大連携協定については、平成 21(2009)年に台湾の新民高級中学との連携協定を結び、平成 27(2015)年 5 月末現在、台湾 6 校及び韓国 1 校と協定を結び交流を深めている。【資料 B-1-4】
- ・ 学術交流協定校及び高大連携協定校からの各種研修等を受け入れている。平成 25(2013)年度は、夏季日本語日本文化研修について、従来の香港城市大学に加え大仁科技大学からの研修を受け入れた。また、平成 26(2014)年度には、同研修に高大連携校である新民高級中学からの研修生を受け入れたほか、樹徳高級家事商業学校及び康橋双語学校の教員・生徒の大学訪問を受け入れ交流機会の拡大を図った。【資料 B-1-5】
- ・ 音楽学部では、協定校であるウィーン国立音楽大学の教授陣および本学名誉博士元シェナンドー大学マイケル・ローバッカ博士（アメリカ）を迎え特別講座を毎年開講しており、直接指導が受けられる。【資料 B-1-5】【資料 B-1-6】

【エビデンス集・資料編】

【資料 B-1-1】 徳島文理大学学術交流協定校一覧

【資料 B-1-2】 徳島文理大学大学通信（アカンサス）Vol.71（3 頁）

【資料 B-1-3】 徳島文理大学 2016 年大学案内（146 頁） ※【資料 F-2】と同じ

【資料 B-1-4】 徳島文理大学高大連携協定校一覧

【資料 B-1-5】 平成 25 年度以降提携校等受入一覧

【資料 B-1-6】 徳島文理大学通信（アカンサス） Vol.73（9 頁）

※【資料 2-7-15】と同じ

【自己評価】

- ・ 本学は、若い世代の「内向き志向」を克服し、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を図るべく、アジア、オセアニアやヨーロッパ、北米各地に協定校を持ち、交流を図ってきた。
- ・ 近年推進している台湾の各大学等の交流が、中華民国教育部でも高く評価されている。【資料 B-1-7】

【エビデンス集・資料編】

【資料 B-1-7】 徳島文理大学大学通信（アカンサス） Vol.68（5 頁）

※【資料 A-1-8】と同じ

B-1-③ 交換留学生の受入

B-1-④ 交換留学生派遣

【事実の説明】

- ・ 平成 25(2013)年度の交換留学生受け入れは、台湾の大仁科技大学、中山医学大学、義守大学、関南大学、台中教育大学から総合政策学部へ 12 人、嘉南薬理大学から薬学部へ 1 人、台南応用科技大学から音楽学部へ 1 人、韓国の檀国大学校から文学部へ 10 人の計 24 人であった。（うち、7 人は平成 24(2012)年度からの継続、12 人は平成 26(2014)年度へ継続）【資料 B-1-8】
- ・ 平成 26(2014)年度の交換留学生の受け入れは、台湾の中山医学大学、義守大学、関南大学、台中教育大学から総合政策学部へ 13 人、台南応用科技大学から音楽学部へ 1 人、韓国の檀国大学校から文学部へ 9 人の計 23 人であった。（うち、12 人は平成 25(2013)年度からの継続、7 人は平成 27(2015)年度へ継続）【資料 B-1-8】
- ・ 平成 27(2015)年度初頭における交換留学生の受け入れは、台湾の中山医学大学、義守大学、関南大学から総合政策学部へ 5 人、逢甲大学から理工学部へ 1 人、韓国の檀国大学校から文学部へ 4 人の計 10 人であった。（うち、7 人が 26 年度からの継続）
- ・ 本学からの交換留学生派遣については、平成 25(2013)年度、総合政策学部の学生 1 人が台湾の関南大学に約 1 年間、平成 26(2014)年度、文学部の学生 1 人が、韓国の檀国大学校に 9 か月間、薬学部の学生 1 人が台湾の嘉南薬理科技大学に 1 か月間留学し、平成 27(2015)年度には、文学部の学生 1 人が韓国の檀国大学校に留学中である。【資料 B-1-8】
- ・ 交換留学生の受け入れや派遣については、キャンパスガイドや新入生オリエンテーションで配布する冊子に記載している他、国際交流グループが窓口となり、随時学生の相談に応じている。【資料 B-1-9～資料 B-1-11】

【エビデンス集・資料編】

【資料 B-1-8】 交換留学及び短期留学・研修の実績（平成 25 年 5 月～27 年 5 月）

【資料 B-1-9】平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド（102-103 頁）

※【資料 F-5】と同じ

【資料 B-1-10】新入学生オリエンテーション（14 頁） ※【資料 1-3-18】と同じ

【資料 B-1-11】香川キャンパス 国際交流グループからのお知らせ

【自己評価】

- ・ 受入に関しては毎年、多くの学生が参加しており、学生の国際感覚の体得及び異文化理解の一助となっているものと判断している。一方、本学からの交換留学生が少ないのが課題であると考え。

B-1-⑤ 短期留学等の実施

【事実の説明】

- ・ 本学では、協定校における語学短期留学とヨーロッパ芸術研修の参加希望者を募り、実施している。募集に関しては、学生ポータルサイト等を通じて、学生に随時連絡している。平成 25(2013)年度及び平成 26(2014)年度の参加者は下欄の通りである。なお、平成 26(2014)年度は、香港城市大学専上学院への短期語学留学を計画していたが、当該国内デモの関係で催行を中止した。【資料 B-1-8】【表 B-1-1】【表 B-1-2】

【表 B-1-1】平成 25(2013)年度参加者

プログラム	人数	期間	留学先
カナダ短期留学	3	8/4～8/25	ランガラ大学
韓国短期留学	14	8/2～8/24	檀国大学校
ヨーロッパ芸術研修	8	12/16～12/27	パヴィア大学、他イタリア
オーストラリア短期留学	4	2/8～3/2	グリフィス大学
台湾短期留学	14	2/24～3/6	大仁科技大学

【表 B-1-2】平成 26(2014)年度参加者

プログラム	人数	期間	留学先
韓国短期留学	23	8/2～8/23	檀国大学校
カナダ短期留学	5	8/4～8/25	ランガラ大学
ヨーロッパ芸術研修	10	12/14～12/22	パヴィア大学、他イタリア
オーストラリア短期留学	5	2/10～3/8	グリフィス大学
台湾短期留学	13	2/26～3/7	大仁科技大学

【エビデンス集・資料編】

【資料 B-1-8】交換留学及び短期留学・研修の実績（平成 25 年 5 月～27 年 5 月）

【自己評価】

- ・ 本学からの短期留学生の人数はますますの状況であり、留学した全員が留学プログ

ラムによる異文化理解や国際感覚の体得などを経験し成果をあげていることから、期待した教育効果を得ていると判断している。

(3) B-1 の改善・向上方策（将来計画）

- 学生の異文化理解と国際感覚の体得には、実際に海外に渡航するか外国人と接触することが極めて重要である。このため、既存の海外研修・留学プログラムを推進することはもとより、これの一層の多様化を進め機会の拡大を進めていく。
- 協定校の拡大を図り、留学生や協定校を対象とした、短期研修をより制度的に確立したものとし、学生の異文化理解の機会拡大を図っていく。
- 交換留学については、本学からの派遣が少ないことが問題であるが、その最大の障壁は語学力にある。そのため、即効性のある対策をとり難いが、短期語学留学の機会を多様化するなどし、留学希望者の語学力の底上げに努める。また、従来の留学の枠組みに加え、「トビダテ！留学ジャパン」のような枠組みを学生に周知し応募を促進していく。

[基準 B の自己評価]

- 本学は現在、30校との学術交流協定を締結し、高大連携協定も7校と拡充している。また、学生が海外で学ぶ機会の多様化と交換留学生や短期の研修を含め海外からの学生の受け入れを進めており、国際交流の目的を達成するための取り組みを積極的に行っていると判断している。

V. エビデンス集一覧

エビデンス集（データ編）一覧

コード	タイトル	備考
【表 F-1】	大学名・所在地等	
【表 F-2】	設置学部・学科・大学院研究科等／開設予定の学部・学科・大学院研究科等	
【表 F-3】	学部構成（大学・大学院）	
【表 F-4】	学部・学科の学生定員及び在籍学生数	
【表 F-5】	大学院研究科の学生定員及び在籍学生数	
【表 F-6】	全学の教員組織（学部等）	
	全学の教員組織（大学院等）	
【表 F-7】	附属校及び併設校、附属機関の概要	
【表 F-8】	外部評価の実施概要	
【表 2-1】	学部、学科別の志願者数、合格者数、入学者数の推移（過去 5 年間）	
【表 2-2】	学部、学科別の在籍者数（過去 5 年間）	
【表 2-3】	大学院研究科の入学者数の内訳（過去 3 年間）	
【表 2-4】	学部、学科別の退学者数の推移（過去 3 年間）	
【表 2-5】	授業科目の概要	
【表 2-6】	成績評価基準	
【表 2-7】	修得単位状況（前年度実績）	
【表 2-8】	年間履修登録単位数の上限と進級、卒業（修了）要件（単位数）	
【表 2-9】	就職相談室等の利用状況	
【表 2-10】	就職の状況（過去 3 年間）	
【表 2-11】	卒業後の進路先の状況（前年度実績）	
【表 2-12】	学生相談室、医務室等の利用状況	
【表 2-13】	大学独自の奨学金給付・貸与状況（授業料免除制度）（前年度実績）	
【表 2-14】	学生の課外活動への支援状況（前年度実績）	
【表 2-15】	専任教員の学部、研究科ごとの年齢別の構成	
【表 2-16】	学部の専任教員の 1 週当たりの担当授業時間数（最高、最低、平均授業時間数）	
【表 2-17】	学部、学科の開設授業科目における専兼比率	
【表 2-18】	校地、校舎等の面積	
【表 2-19】	教員研究室の概要	
【表 2-20】	講義室、演習室、学生自習室等の概要	
【表 2-21】	学部の学生用実験・実習室の面積・規模	
【表 2-22】	附属施設の概要（図書館除く）	
【表 2-23】	その他の施設の概要	
【表 2-24】	図書、資料の所蔵数	
【表 2-25】	学生閲覧室等	
【表 2-26】	情報センター等の状況	

徳島文理大学

【表 2-27】	学生寮等の状況	
【表 3-1】	職員数と職員構成（正職員・嘱託・パート・派遣別、男女別、年齢別）	
【表 3-2】	大学の運営及び質保証に関する法令等の遵守状況	
【表 3-3】	教育研究活動等の情報の公表状況	
【表 3-4】	財務情報の公表（前年度実績）	
【表 3-5】	消費収支計算書関係比率（法人全体のもの）（過去 5 年間）	
【表 3-6】	消費収支計算書関係比率（大学単独）（過去 5 年間）	
【表 3-7】	貸借対照表関係比率（法人全体のもの）（過去 5 年間）	
【表 3-8】	要積立額に対する金融資産の状況（法人全体のもの）（過去 5 年間）	

エビデンス集（資料編）一覧

基礎資料

コード	タイトル	備考
	該当する資料名及び該当ページ	
【資料 F-1】	寄附行為	
	学校法人村崎学園寄附行為	
【資料 F-2】	大学案内（最新のもの）	
	徳島文理大学 2016 年大学案内	
【資料 F-3】	大学学則、大学院学則	
	・徳島文理大学学則	
	・徳島文理大学専攻科規則	
	・徳島文理大学大学院学則	
【資料 F-4】	学生募集要項、入学者選抜要綱（最新のもの）	
	・平成 28 年度徳島文理大学入学試験要項	
	・平成 28 年度徳島文理大学指定校制推薦入学試験要項	
	・平成 28 年度スポーツ・芸術（音楽）推薦入学試験要項	
	・平成 28 年度編入学試験要項	
	・平成 27 年秋季編入学試験要項	
	・2015 年 9 月編入学 2016 年 4 月編入学 外国人留学生のための編入学試験要項	
	・平成 28 年度春季 薬学研究科（4 年制）学生募集要項	
	・平成 28 年度人間生活学研究科博士前期課程学生募集要項	
	・平成 27 年度人間生活学研究科博士後期課程学生募集要項	
	・平成 28 年度文学研究科博士前期課程・後期課程学生募集要項	
	・平成 28 年度工学研究科学生募集要項	
	・平成 27 年度総合政策研究科募集要項（一般入試・社会人特別入試）	
	・平成 27 年度総合政策研究科募集要項（外国人留学生のための入試）	
	・平成 28 年度看護学研究科修士課程（一般入学試験・社会人入学試験）	
・平成 28 年度専攻科入学試験要項（人間生活学・音楽）		

徳島文理大学

	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度助産学専攻科入学試験要項 ・平成 28 年度 AO 入試要項 ・2016 年度外国人留学生のための入学試験要項 ・2016 年 4 月入学 2016 年 9 月入学 外国人留学生のための指定校制推薦入試要項 	
【資料 F-5】	<p>学生便覧、履修要項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド ・平成 27 年度人間生活学部履修ガイド ・平成 27 年度音楽学部履修ガイド ・平成 27 年度薬学部要覧(平成 27 年度入学生) ・平成 27 年度薬学部要覧(平成 26 年度以前入学生) ・平成 27 年度総合政策学部履修ガイド ・平成 27 年度保健福祉学部履修ガイド(徳島キャンパス) ・平成 27 年度保健福祉学部履修ガイド(香川キャンパス) ・平成 27 年度文学部履修ガイド ・平成 27 年度理工学部履修ガイド ・平成 27 年度香川薬学部要覧(平成 27 年度入学生) ・平成 27 年度香川薬学部要覧(平成 26 年度以前入学生) ・2015 年度薬学研究科要覧 	
【資料 F-6】	<p>事業計画書（最新のもの）</p> <p>平成 27 年度実施主要事業計画書(案)</p>	
【資料 F-7】	<p>事業報告書（最新のもの）</p> <p>ホームページ [https://www.bunri-u.ac.jp/] 徳島文理大学について／情報公開／平成 26 年度学園の事業報告</p>	
【資料 F-8】	<p>アクセスマップ、キャンパスマップなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徳島文理大学 2016 年大学案内（152,162,176-177 頁） ・平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド（253-254 頁） 	<p>※【資料 F-2】と同じ</p> <p>※【資料 F-5】と同じ</p>
【資料 F-9】	<p>法人及び大学の規程一覧（規程集目次など）</p> <p>学校法人村崎学園規程集目次</p>	
【資料 F-10】	<p>理事、監事、評議員などの名簿（外部役員・内部役員）及び理事会、評議員会の開催状況（開催日、開催回数、出席状況など） がわかる資料（前年度分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理事、監事、評議員名簿 ・理事会開催状況（平成 26 年度） ・常任理事会開催状況（平成 26 年度） ・評議員会開催状況（平成 26 年度） 	

徳島文理大学

基準 1. 使命・目的等

基準項目		備考
コード	該当する資料名及び該当ページ	
1-1. 使命・目的及び教育目的の明確性		
【資料 1-1-1】	徳島文理大学学則	※【資料 F-3】と同じ
【資料 1-1-2】	平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (180-183 頁)	※【資料 F-5】と同じ
【資料 1-1-3】	徳島文理大学専攻科規則	※【資料 F-3】と同じ
【資料 1-1-4】	徳島文理大学大学院学則	※【資料 F-3】と同じ
【資料 1-1-5】	平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (208,215-216 頁)	※【資料 F-5】と同じ
【資料 1-1-6】	平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (37 頁)	※【資料 F-5】と同じ
【資料 1-1-7】	ホームページ [https://www.bunri-u.ac.jp/] (徳島文理大学について/教育情報の公表/II. 教育研究の概要/名称及び教育研究上の目的)	
【資料 1-1-8】	徳島文理大学通信 (アカンサス) Vol.75 (3 頁)	
1-2. 使命・目的及び教育目的の適切性		
【資料 1-2-1】	ホームページ [https://www.bunri-u.ac.jp/] (徳島文理大学について/教育情報の公表/I. 学校法人の概要/建学の精神、使命・目的)	
【資料 1-2-2】	ホームページ [https://www.bunri-u.ac.jp/] (徳島文理大学について/教育情報の公表/I. 学校法人の概要/めざす大学像)	
【資料 1-2-3】	徳島文理大学学則	※【資料 F-3】と同じ
【資料 1-2-4】	平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (180-183 頁)	※【資料 F-5】と同じ
【資料 1-2-5】	徳島文理大学 2016 年大学案内 (174-175 頁)	※【資料 F-2】と同じ
1-3. 使命・目的及び教育目的の有効性		
【資料 1-3-1】	ホームページ [https://www.bunri-u.ac.jp/] (徳島文理大学について/教育情報の公表/I. 学校法人の概要/建学の精神、使命・目的)	※【資料 1-2-1】と同じ
【資料 1-3-2】	ホームページ [https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/] (徳島文理大学について/教育理念と方針)	
【資料 1-3-3】	平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (見開き)	※【資料 F-5】と同じ
【資料 1-3-4】	徳島文理大学通信 (アカンサス) Vol.75 (3 頁)	※【資料 1-1-8】と同じ
【資料 1-3-5】	平成 27 年度人間生活学部履修ガイド	※【資料 F-5】と同じ
【資料 1-3-6】	平成 27 年度音楽学部履修ガイド	※【資料 F-5】と同じ
【資料 1-3-7】	平成 27 年度薬学部要覧 (平成 27 年度入学生)	※【資料 F-5】と同じ
【資料 1-3-8】	平成 27 年度薬学部要覧 (平成 26 年度以前入学生)	※【資料 F-5】と同じ
【資料 1-3-9】	平成 27 年度総合政策学部履修ガイド	※【資料 F-5】と同じ
【資料 1-3-10】	平成 27 年度保健福祉学部履修ガイド (徳島キャンパス)	※【資料 F-5】と同じ
【資料 1-3-11】	平成 27 年度保健福祉学部履修ガイド (香川キャンパス)	※【資料 F-5】と同じ
【資料 1-3-12】	平成 27 年度文学部履修ガイド	※【資料 F-5】と同じ
【資料 1-3-13】	平成 27 年度理工学部履修ガイド	※【資料 F-5】と同じ
【資料 1-3-14】	平成 27 年度香川薬学部要覧 (平成 27 年度入学生)	※【資料 F-5】と同じ

徳島文理大学

【資料 1-3-15】	平成 27 年度香川薬学部要覧（平成 26 年度以前入学生）	※【資料 F-5】と同じ
【資料 1-3-16】	2015 年度薬学研究科要覧	※【資料 F-5】と同じ
【資料 1-3-17】	平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド（37 頁）	※【資料 F-5】と同じ
【資料 1-3-18】	新入学生オリエンテーション（32 頁）	
【資料 1-3-19】	徳島文理大学「文理学（地域学を含む）」について	
【資料 1-3-20】	徳島文理大学 2016 年大学案内（175 頁）	※【資料 F-2】と同じ
【資料 1-3-21】	ホームページ〔 https://www.bunri-u.ac.jp/ 〕 （徳島文理大学について／情報公開／平成 26 年度学園の事業報告）	※【資料 F-7】と同じ
【資料 1-3-22】	徳島文理大学公開講座 2015	
【資料 1-3-23】	ホームページ〔 https://www.bunri-u.ac.jp/ 〕 （徳島文理大学について／教育情報の公表／Ⅲ．学生に関する情報／受入方針（アドミッション・ポリシー））	
【資料 1-3-24】	ホームページ〔 https://www.bunri-u.ac.jp/ 〕 （徳島文理大学について／教育情報の公表／Ⅴ．学修の成果に係る評価及び卒業または修了の認定に当たっての基準）	
【資料 1-3-25】	ホームページ〔 https://www.bunri-u.ac.jp/ 〕 （徳島文理大学について／教育情報の公表／Ⅳ．教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関すること）	
【資料 1-3-26】	全学教務委員会要綱	
【資料 1-3-27】	ホームページ〔 https://www.bunri-u.ac.jp/ 〕 （徳島文理大学について／教育情報の公表／Ⅱ．教育研究の概要／学部、学科、研究科、課程、専攻の名称）	
【資料 1-3-28】	平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド（180・181 頁）	※【資料 F-5】と同じ
【資料 1-3-29】	平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド（215・216 頁）	※【資料 F-5】と同じ
【資料 1-3-30】	平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド（193・194 頁）	※【資料 F-5】と同じ
【資料 1-3-31】	徳島文理大学部局長会規程	
【資料 1-3-32】	徳島文理大学合同教授会規程	
【資料 1-3-33】	徳島文理大学学部教授会規程	
【資料 1-3-34】	徳島文理大学研究科委員会規程	

基準 2. 学修と教授

基準項目		備考
コード	該当する資料名及び該当ページ	
2-1. 学生の受入れ		
【資料 2-1-1】	平成 28 年度徳島文理大学入学試験要項	※【資料 F-4】と同じ
【資料 2-1-2】	平成 28 年度徳島文理大学指定校制推薦入学試験要項	※【資料 F-4】と同じ
【資料 2-1-3】	平成 28 年度スポーツ・芸術（音楽）推薦入学試験要項	※【資料 F-4】と同じ
【資料 2-1-4】	平成 28 年度編入学試験要項	※【資料 F-4】と同じ
【資料 2-1-5】	平成 27 年秋季編入学試験要項	※【資料 F-4】と同じ
【資料 2-1-6】	2015 年 9 月編入学 2016 年 4 月編入学外国人留学生のための編入学試験要項	※【資料 F-4】と同じ
【資料 2-1-7】	平成 28 年度春季 薬学研究科（4 年制）学生募集要項	※【資料 F-4】と同じ
【資料 2-1-8】	平成 28 年度人間生活学研究科博士前期課程学生募集要項	※【資料 F-4】と同じ
【資料 2-1-9】	平成 27 年度人間生活学研究科博士後期課程学生募集要項	※【資料 F-4】と同じ
【資料 2-1-10】	平成 28 年度文学研究科博士前期課程・後期課程学生募集要項	※【資料 F-4】と同じ

徳島文理大学

【資料 2-1-11】	平成 28 年度工学研究科学生募集要項	※【資料 F-4】と同じ
【資料 2-1-12】	平成 27 年度総合政策研究科募集要項（一般入試・社会人特別入試）	※【資料 F-4】と同じ
【資料 2-1-13】	平成 27 年度総合政策研究科募集要項（外国人留学生のための入試）	※【資料 F-4】と同じ
【資料 2-1-14】	平成 28 年度看護学研究科修士課程（一般入学試験・社会人入学試験）	※【資料 F-4】と同じ
【資料 2-1-15】	平成 28 年度専攻科入学試験要項（人間生活学・音楽）	※【資料 F-4】と同じ
【資料 2-1-16】	平成 28 年度助産学専攻科入学試験要項	※【資料 F-4】と同じ
【資料 2-1-17】	平成 28 年度 AO 入試要項	※【資料 F-4】と同じ
【資料 2-1-18】	2016 年度外国人留学生のための入学試験要項	※【資料 F-4】と同じ
【資料 2-1-19】	2016 年 4 月入学 2016 年 9 月入学外国人留学生のための指定校制推薦入試要項	※【資料 F-4】と同じ
【資料 2-1-20】	ホームページ [https://www.bunri-u.ac.jp/] (徳島文理大学について/教育情報の公表/Ⅲ. 学生に関する情報/受入方針 (アドミッション・ポリシー))	※【資料 1-3-23】と同じ
【資料 2-1-21】	ホームページ [https://www.bunri-u.ac.jp/] (入試情報)	
【資料 2-1-22】	2015 年オープンキャンパスリーフレット	
【資料 2-1-23】	2014 オープンキャンパス参加者数	
【資料 2-1-24】	平成 27 年度進学説明会・ブロック進学説明会予定表	
【資料 2-1-25】	徳島文理大学奨学金・特待生制度リーフレット	
【資料 2-1-26】	全学入試委員会規程	
【資料 2-1-27】	平成 26 年度 e ラーニングシステムを使った入学前教育実施について	
2-2. 教育課程及び教授方法		
【資料 2-2-1】	平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-2-2】	ホームページ [https://www.bunri-u.ac.jp/about/policy/] (徳島文理大学について/教育理念と方針)	※【資料 1-3-2】と同じ
【資料 2-2-3】	全学教務委員会要綱	※【資料 1-3-26】と同じ
【資料 2-2-4】	第 2 回・第 4 回全学教務委員会議事	
【資料 2-2-5】	平成 27 年度人間生活学部履修ガイド	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-2-6】	平成 27 年度音楽学部履修ガイド	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-2-7】	平成 27 年度薬学部要覧（平成 27 年度入学生）	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-2-8】	平成 27 年度薬学部要覧（平成 26 年度以前入学生）	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-2-9】	平成 27 年度総合政策学部履修ガイド	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-2-10】	平成 27 年度保健福祉学部履修ガイド（徳島キャンパス）	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-2-11】	平成 27 年度保健福祉学部履修ガイド（香川キャンパス）	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-2-12】	平成 27 年度文学部履修ガイド	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-2-13】	平成 27 年度理工学部履修ガイド	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-2-14】	平成 27 年度香川薬学部要覧（平成 27 年度入学生）	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-2-15】	平成 27 年度香川薬学部要覧（平成 26 年度以前入学生）	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-2-16】	2015 年度薬学研究科要覧	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-2-17】	徳島文理大学専攻科規則	※【資料 F-3】と同じ
【資料 2-2-18】	Web シラバスについて	

徳島文理大学

【資料 2-2-19】	平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (35-36 頁)	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-2-20】	平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (2-5 頁)	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-2-21】	2014 (平成 26 年度) FD 研究部会活動報告書	
【資料 2-2-22】	ホームページ [https://www.bunri-u.ac.jp/] (教育・研究支援/授業改善活動 (FD 活動))	
2-3. 学修及び授業の支援		
【資料 2-3-1】	平成 28 年度 AO 入試要項	※【資料 F-4】と同じ
【資料 2-3-2】	新入学生オリエンテーション (32 頁)	※【資料 1-3-18】と同じ
【資料 2-3-3】	学習ポートフォリオ (学生用) 取扱説明書	
【資料 2-3-4】	ホームページ [https://www.bunri-u.ac.jp/] (教育・研究支援/全学共通教育センター)	
【資料 2-3-5】	新入学生オリエンテーション (27-30 頁)	※【資料 1-3-18】と同じ
【資料 2-3-6】	ホームページ [https://www.bunri-u.ac.jp/] (教育・研究支援/語学センター)	
【資料 2-3-7】	新入学生オリエンテーション (15-22 頁)	※【資料 1-3-18】と同じ
【資料 2-3-8】	H26 年度全学共通教育センター利用状況	
【資料 2-3-9】	ティーチング・アシスタント規程	
【資料 2-3-10】	オフィスアワーについてのお願い	
【資料 2-3-11】	2014 年度保護者会支部会開催のご案内	
【資料 2-3-12】	退学防止対策検討委員会設置要領	
【資料 2-3-13】	平成 26 年度 e ラーニングシステムを使った入学前教育実施について	※【資料 2-1-27】と同じ
【資料 2-3-14】	平成 26 年度教職履修カルテ説明会資料	
【資料 2-3-15】	教職履修カルテ (学生用・教員用) 取扱説明書	
2-4. 単位認定、卒業・修了認定等		
【資料 2-4-1】	平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (186-190 頁)	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-4-2】	平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (217-219 頁)	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-4-3】	平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (34-36 頁)	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-4-4】	教職員グループウェア 学生出欠管理	
【資料 2-4-5】	ホームページ [https://www.bunri-u.ac.jp/] (徳島文理大学について/教育情報の公表/V. 学修の成果に係る評価及び卒業または修了の認定に当たっての基準)	※【資料 1-3-24】と同じ
【資料 2-4-6】	新入学生オリエンテーション (24-25 頁)	※【資料 1-3-18】と同じ
【資料 2-4-7】	平成 27 年度保健福祉学部履修ガイド(香川キャンパス) (16 頁)	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-4-8】	平成 27 年度文学部履修ガイド (39 頁)	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-4-9】	平成 27 年度理工学部履修ガイド (21 頁)	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-4-10】	平成 27 年度香川薬学部要覧(平成 27 年度入学生) (15 頁)	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-4-11】	成績通知書(文学部) の見方について	
【資料 2-4-12】	成績通知書の見方について (理工学部・保健福祉学部)	
【資料 2-4-13】	成績通知書の例示と説明 (香川薬学部)	
【資料 2-4-14】	平成 27 年度人間生活学部履修ガイド	※【資料 F-5】と同じ

徳島文理大学

【資料 2-4-15】	履修登録について	
【資料 2-4-16】	e-Knowledge コンソーシアム四国 (ek4)	
【資料 2-4-17】	単位互換科目の履修について	
【資料 2-4-18】	徳島文理大学学則 (4 頁)	※【資料 F-3】と同じ
【資料 2-4-19】	徳島文理大学専攻科規則 (2 頁)	※【資料 F-3】と同じ
【資料 2-4-20】	徳島文理大学大学院学則 (3-6 頁)	※【資料 F-3】と同じ
【資料 2-4-21】	平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (239-240 頁)	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-4-22】	文学研究科 課程博士の学位授与に関する内規	
【資料 2-4-23】	文学研究科 学位授与に関する申し合わせ	
【資料 2-4-24】	文学研究科 論文博士の学位申請の受理及び学位授与の審査に関する申し合わせ	
【資料 2-4-25】	工学研究科 博士後期課程学位審査内規	
【資料 2-4-26】	工学研究科 博士後期課程博士論文審査 細則	
2-5. キャリアガイダンス		
【資料 2-5-1】	就職支援委員会規程	
【資料 2-5-2】	インターンシップ推進委員会規則	
【資料 2-5-3】	平成 26 年度インターンシップ参加実績 (延べ人数)	
【資料 2-5-4】	平成 28 年 3 月卒業生用就職活動の手引き	
【資料 2-5-5】	平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (37 頁)	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-5-6】	新入学生オリエンテーション (32,63-66 頁)	※【資料 1-3-18】と同じ
【資料 2-5-7】	2015 年 6 月学内合同企業説明会実施概要	
【資料 2-5-8】	2015 年 3 月・4 月企業・病院概要一覧 (学内合同企業説明会)	
【資料 2-5-9】	2015 年 5 月企業概要一覧 (学内合同企業説明会)	
【資料 2-5-10】	平成 26 年度説明会日程一覧	
【資料 2-5-11】	平成 26(2014)年度就職支援部実施事業 (実施記録)	
【資料 2-5-12】	平成 26 年度・平成 27 年度前期学力充実対策講座 (香川：学力向上対策指導講座)	
【資料 2-5-13】	平成 26 年度・平成 27 年度前期公務員試験対策講座	
【資料 2-5-14】	平成 26 年度学力充実講座・学習支援アドバイザー一覧	
【資料 2-5-15】	平成 26 年度・平成 27 年度前期教員養成対策講座 (香川：教職教養講座・教員採用試験対策講座)	
【資料 2-5-16】	求人情報検索 NAVI	
【資料 2-5-17】	第 8 回徳島文理大学音楽療法士就職フォーラムチラシ	
【資料 2-5-18】	第 9 回徳島文理大学音楽療法士就職フォーラムチラシ	
2-6. 教育目的の達成状況の評価とフィードバック		
【資料 2-6-1】	2014 (平成 26 年度) FD 研究部会活動報告書	※【資料 2-2-21】と同じ
【資料 2-6-2】	ホームページ [https://www.bunri-u.ac.jp/] (教育・研究支援/授業改善活動 (FD 活動))	※【資料 2-2-22】と同じ
【資料 2-6-3】	教職員グループウェア [http://sgt.bunri-u.ac.jp/BunriStaff/]	

徳島文理大学

【資料 2-6-4】	総合政策学部 シラバス「インターンシップ A・B」	
【資料 2-6-5】	平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (116 頁)	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-6-6】	平成 26 年度就職概況	
【資料 2-6-7】	学習ポートフォリオ (学生用) 取扱説明書	※【資料 2-3-3】と同じ
2-7. 学生サービス		
【資料 2-7-1】	学生指導協議会運営規則	
【資料 2-7-2】	人権教育推進委員会規則	
【資料 2-7-3】	セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規程	
【資料 2-7-4】	セクシュアル・ハラスメント相談員に関する細則	
【資料 2-7-5】	教職員グループウェア 学生基本情報画面	
【資料 2-7-6】	徳島文理大学 2016 大学案内 (172-173 頁)	※【資料 F-2】と同じ
【資料 2-7-7】	平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (156-157 頁)	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-7-8】	ホームページ [https://www.bunri-u.ac.jp/] (キャンパスライフ/学生支援/奨学金)	
【資料 2-7-9】	徳島文理大学奨学金・特待生制度リーフレット	※【資料 2-1-25】と同じ
【資料 2-7-10】	新入学生オリエンテーション冊子 (57 頁)	※【資料 1-3-18】と同じ
【資料 2-7-11】	就学支援奨学金規程	
【資料 2-7-12】	新入生宿泊セミナー資料	
【資料 2-7-13】	平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (170,193 頁)	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-7-14】	平成 26 年度体育・文化功労賞受賞者	
【資料 2-7-15】	徳島文理大学通信 (アカンサス) Vol.73 (15 頁)	
【資料 2-7-16】	平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (12-13 頁)	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-7-17】	香川県三大学医療連携大学祭 一次救命処理講習会リーフレット	
【資料 2-7-18】	赤十字救急法 (自動体外式除細動器) 講習会について	
【資料 2-7-19】	保健業務実施記録 (平成 26 年度)	
【資料 2-7-20】	改善意見箱 (目安箱) の投函件数と内容について	
【資料 2-7-21】	徳島文理大学通信 (アカンサス) Vol.70 (2 頁)	
【資料 2-7-22】	ホームページ [https://www.bunri-u.ac.jp/] (教育・研究支援/授業改善活動 (FD 活動))	※【資料 2-2-22】と同じ
【資料 2-7-23】	人間生活学部新入生イメージ調査報告書	
【資料 2-7-24】	保健福祉学部新入生イメージ調査報告書	
【資料 2-7-25】	ホームページ [https://www.bunri-u.ac.jp/] (キャンパスライフ/100 円朝食)	
2-8. 教員の配置・職能開発等		
【資料 2-8-1】	教員等選考規程・教員等資格審査に関する基準	
【資料 2-8-2】	教員活動状況調査 (アニュアルレポート) 様式	
【資料 2-8-3】	人間生活学部教育・研究年報 平成 26 年度	
【資料 2-8-4】	音楽学部 2014 年度教育・研究年報	

徳島文理大学

【資料 2-8-5】	薬学部教育・研究年報第 9 号 2014 年	
【資料 2-8-6】	総合政策学部平成 26 年度教員活動報告	
【資料 2-8-7】	保健福祉学部 2014 年度教育・研究年報	
【資料 2-8-8】	文学部 教育・研究年報 2014 年	
【資料 2-8-9】	2014 年理工学部年報	
【資料 2-8-10】	香川薬学部教育・研究年報 Annual Report 第 9 号 2014 年	
【資料 2-8-11】	未来科学研究所 Annual Progress Report2014	
【資料 2-8-12】	2014（平成 26 年度）FD 研究会活動報告書	※【資料 2-2-21】と同じ
【資料 2-8-13】	ホームページ [https://www.bunri-u.ac.jp/] (教育・研究支援/授業改善活動 (FD 活動))	※【資料 2-2-22】と同じ
【資料 2-8-14】	全学教務委員会要綱	※【資料 1-3-26】と同じ
【資料 2-8-15】	平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (38-40 頁)	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-8-16】	平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド (37 頁)	※【資料 F-5】と同じ
【資料 2-8-17】	ホームページ [https://www.bunri-u.ac.jp/] (教育・研究支援/全学共通教育センター)	※【資料 2-3-4】と同じ
【資料 2-8-18】	ホームページ [https://www.bunri-u.ac.jp/] (教育・研究支援/語学センター)	※【資料 2-3-6】と同じ
【資料 2-8-19】	平成 28 年度 AO 入試要項	※【資料 F-4】と同じ
2-9. 教育環境の整備		
【資料 2-9-1】	図書館利用規程	
【資料 2-9-2】	平成 27 年度学校法人村崎学園組織 (事務関係)	
【資料 2-9-3】	耐震実施状況	
【資料 2-9-4】	施設・設備等使用規程	
【資料 2-9-5】	学内施設使用規程	
【資料 2-9-6】	バリアフリー管理表	
【資料 2-9-7】	平成 26 年度クラスサイズ一覧表	

基準 3. 経営・管理と財務

基準項目		備考
コード	該当する資料名及び該当ページ	
3-1. 経営の規律と誠実性		
【資料 3-1-1】	学校法人村崎学園寄附行為	※【資料 F-1】と同じ
【資料 3-1-2】	理事・監事・評議員名簿	※【資料 F-10】と同じ
【資料 3-1-3】	学校法人村崎学園経理規程及び同施行細則	
【資料 3-1-4】	学校法人村崎学園物件の調達管理取扱規程	
【資料 3-1-5】	徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部支出決裁権限規程	
【資料 3-1-6】	学校法人村崎学園学費等収納事務取扱規程	
【資料 3-1-7】	学校法人村崎学園教職員給与規程及び同施行細則	
【資料 3-1-8】	学校法人村崎学園就業規則	
【資料 3-1-9】	学校法人村崎学園個人情報保護規程	

徳島文理大学

【資料 3-1-10】	新入学生オリエンテーション冊子 (9 頁)	※【資料 1-3-18】と同じ
【資料 3-1-11】	学校法人村崎学園公益通報者保護規程	
【資料 3-1-12】	教育研究助成金取扱規程	
【資料 3-1-13】	徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部公的研究費の取扱いに関する規程	
【資料 3-1-14】	徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部研究活動における不正行為への対応に関する規程	
【資料 3-1-15】	厚生労働科学研究費に係る利益相反に関する要項	
【資料 3-1-16】	財務情報公開資料閲覧請求取扱要領	
【資料 3-1-17】	クールビズについて	
【資料 3-1-18】	人権・ハラスメント講演会について	
【資料 3-1-19】	セクシュアル・ハラスメント防止等に関する規程 ・職場におけるセクシュアル・ハラスメント	※【資料 2-7-3】と同じ
【資料 3-1-20】	学校法人村崎学園危機管理規程	
【資料 3-1-21】	防災規程	
【資料 3-1-22】	平成 27 年度防火・防災管理委員会組織表	
【資料 3-1-23】	平成 27 年度各棟防火・防災、火元責任者表	
【資料 3-1-24】	自衛消防隊の編成と任務	
【資料 3-1-25】	平成 27 年度自衛消防隊組織役割表	
【資料 3-1-26】	防災訓練：実施記録	
【資料 3-1-27】	夜間・休日の地震に伴う津波注意報・津波警報等発令時の初期対応について	
【資料 3-1-28】	学生ポータルサイト・地震（津波）対応マニュアル （防災マニュアル含む）	
【資料 3-1-29】	平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド（163-164 頁）	※【資料 F-5】と同じ
【資料 3-1-30】	「災害に負けない『生きる力』を養う防災教育の展開	
【資料 3-1-31】	耐震実施状況	※【資料 2-9-3】と同じ
【資料 3-1-32】	学校法人村崎学園安全保健衛生管理規程（衛生委員会会則含む）	
【資料 3-1-33】	インフルエンザ感染の対応	
【資料 3-1-34】	職場における心の健康づくり計画	
【資料 3-1-35】	ホームページ [https://www.bunri-u.ac.jp/] （徳島文理大学について／教育情報の公表）	
【資料 3-1-36】	徳島文理大学通信（アカンサス）Vol.73（17 頁）	※【資料 2-7-15】と同じ
【資料 3-1-37】	ホームページ [https://www.bunri-u.ac.jp/] （徳島文理大学について／情報公開／平成 26 年度学園の事業報告）	※【資料 F-7】と同じ
3-2. 理事会の機能		
【資料 3-2-1】	学校法人村崎学園寄附行為	※【資料 F-1】と同じ
【資料 3-2-2】	理事・監事・評議員名簿	※【資料 F-10】と同じ
【資料 3-2-3】	平成 27 年度学校法人村崎学園組織（事務関係）	※【資料 2-9-2】と同じ
【資料 3-2-4】	学校法人村崎学園理事会規則	
【資料 3-2-5】	理事会開催状況（平成 26 年度）	※【資料 F-10】と同じ
【資料 3-2-6】	学校法人村崎学園常任理事会規則	

徳島文理大学

【資料 3-2-7】	常任理事会開催状況（平成 26 年度）	※【資料 F-10】と同じ
【資料 3-2-8】	学校法人村崎学園評議員会規程	
【資料 3-2-9】	評議員会開催状況（平成 26 年度）	※【資料 F-10】と同じ
【資料 3-2-10】	学校法人村崎学園監事監査規則、同実施要領	
【資料 3-2-11】	平成 27 年度部局長会名簿	
3-3. 大学の意思決定の仕組み及び学長のリーダーシップ		
【資料 3-3-1】	部局長会規程	※【資料 1-3-31】と同じ
【資料 3-3-2】	合同教授会規程	※【資料 1-3-32】と同じ
【資料 3-3-3】	学部教授会規程	※【資料 1-3-33】と同じ
【資料 3-3-4】	教育開発機構設置要綱	
3-4. コミュニケーションとガバナンス		
【資料 3-4-1】	学校法人村崎学園寄附行為	※【資料 F-1】と同じ
【資料 3-4-2】	徳島文理大学学則	※【資料 F-3】と同じ
【資料 3-4-3】	学校法人村崎学園理事会規則	※【資料 3-2-4】と同じ
【資料 3-4-4】	学校法人村崎学園常任理事会規則	※【資料 3-2-6】と同じ
【資料 3-4-5】	学校法人村崎学園評議員会規程	※【資料 3-2-8】と同じ
【資料 3-4-6】	部局長会規程	※【資料 1-3-31】と同じ
【資料 3-4-7】	合同教授会規程	※【資料 1-3-32】と同じ
【資料 3-4-8】	平成 27 年度学校法人村崎学園組織（事務関係）	※【資料 2-9-2】と同じ
【資料 3-4-9】	平成 27 年度部局長会名簿	※【資料 3-2-11】と同じ
【資料 3-4-10】	平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド（37 頁）	※【資料 F-5】と同じ
【資料 3-4-11】	理事、監事、評議員名簿	※【資料 F-10】と同じ
【資料 3-4-12】	教育開発機構設置要綱	※【資料 3-3-4】と同じ
3-5. 業務執行体制の機能性		
【資料 3-5-1】	平成 27 年度学校法人村崎学園組織（事務関係）	※【資料 2-9-2】と同じ
【資料 3-5-2】	学校法人村崎学園事務組織・事務分掌規程	
【資料 3-5-3】	職員資格審査基準	
【資料 3-5-4】	2014（平成 26 年度）FD 研究部会活動報告書（18-19 頁） SD 研修について	※【資料 2-2-21】と同じ
【資料 3-5-5】	平成 27 年度特色ある教育・研究 要支援学生（精神・身体・発達段階において問題を抱える学生） の現状調査と支援のあり方について	
【資料 3-5-6】	徳島文理大学 SD 推進委員会設置要領	
【資料 3-5-7】	新任教職員研修・学内システム研修会資料	
3-6. 財務基盤と収支		
【資料 3-6-1】	学校法人村崎学園中期財務計画	
【資料 3-6-2】	平成 27 年度実施主要事業計画書（案）	※【資料 F-6】と同じ
【資料 3-6-3】	平成 27 年度予算要望総括表・予算要望書	
【資料 3-6-4】	決算書（平成 22 年度～平成 26 年度）	

徳島文理大学

【資料 3-6-5】	学校法人村崎学園資産運用内規	
【資料 3-6-6】	外部資金一覧表	
3-7. 会計		
【資料 3-7-1】	学校法人村崎学園経理規程・同施行細則	※【資料 3-1-3】と同じ
【資料 3-7-2】	平成 26 年度 補正予算書	
【資料 3-7-3】	平成 27 年度 経理部担当者一覧	
【資料 3-7-4】	学校法人村崎学園監査計画書	
【資料 3-7-5】	学校法人村崎学園監事監査規則・学校法人村崎学園監事監査実施要領	※【資料 3-2-10】と同じ
【資料 3-7-6】	平成 27 年度 監査計画	
【資料 3-7-7】	平成 26 年度 監事監査報告書（理事会・評議員会）	
【資料 3-7-8】	学校法人村崎学園物件の調達管理取扱規程	※【資料 3-1-4】と同じ
【資料 3-7-9】	現品調査報告書	

基準 4. 自己点検・評価

基準項目		備考
コード	該当する資料名及び該当ページ	
4-1. 自己点検・評価の適切性		
【資料 4-1-1】	徳島文理大学学則	※【資料 F-3】と同じ
【資料 4-1-2】	徳島文理大学自己点検・評価に関する規程	
【資料 4-1-3】	徳島文理大学自己点検・評価に関する規程細則	
【資料 4-1-4】	自己点検・評価委員会組織図	
【資料 4-1-5】	平成 24 年度自己点検・評価の内容（徳島文理大学大学院薬学研究科）	
【資料 4-1-6】	四国の全薬学部との連携・共同による薬学教育改革評価委員会議事	
【資料 4-1-7】	平成 25 年度自己点検評価書	
4-2. 自己点検・評価の誠実性		
【資料 4-2-1】	データ・資料収集依頼文	
【資料 4-2-2】	2014 年度保護者会支部会開催のご案内	※【資料 2-3-11】と同じ
【資料 4-2-3】	保護者会支部会を終えて	
【資料 4-2-4】	平成 25 年度自己点検評価書	※【資料 4-1-7】と同じ
【資料 4-2-5】	自己点検評価研修会次第	
4-3. 自己点検・評価の有効性		
【資料 4-3-1】	人間生活学部教育・研究年報 平成 26 年度	※【資料 2-8-3】と同じ
【資料 4-3-2】	音楽学部 2014 年度教育・研究年報	※【資料 2-8-4】と同じ
【資料 4-3-3】	薬学部教育・研究年報第 9 号 2014 年	※【資料 2-8-5】と同じ
【資料 4-3-4】	総合政策学部平成 26 年度教員活動報告	※【資料 2-8-6】と同じ
【資料 4-3-5】	保健福祉学部 2014 年度教育・研究年報	※【資料 2-8-7】と同じ
【資料 4-3-6】	文学部 教育・研究年報 2014 年	※【資料 2-8-8】と同じ
【資料 4-3-7】	2014 年理工学部年報	※【資料 2-8-9】と同じ
【資料 4-3-8】	香川薬学部教育・研究年報 Annual Report 第 9 号 2014 年	※【資料 2-8-10】と同じ

徳島文理大学

【資料 4-3-9】	未来科学研究所 Annual Progress Report2014	※【資料 2-8-11】と同じ
【資料 4-3-10】	教員活動状況調査（アニュアルレポート）様式	※【資料 2-8-2】と同じ

基準 A. 地域貢献・地域連携

基準項目		備考
コード	該当する資料名及び該当ページ	
A-1. 徳島文理大学における地域貢献・地域連携		
【資料 A-1-1】	徳島文理大学地域連携センター規程	
【資料 A-1-2】	徳島文理大学公開講座 2015	※【資料 1-3-22】と同じ
【資料 A-1-3】	第1回地域連携センター開催セミナー	
【資料 A-1-4】	出張講義プログラム 高校生向け「知の資源」の開放 2014	
【資料 A-1-5】	第7回「特色ある教育・研究」全学発表会抄録集（37頁）	
【資料 A-1-6】	ホームページ [http://www.bunri-u.ac.jp/shikoku-yaku/] (薬学部/四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革)	
【資料 A-1-7】	考えよう、うどん県の暮らしと健康パンフレット	
【資料 A-1-8】	徳島文理大学通信（アカンサス）Vol.68（8頁）	
【資料 A-1-9】	人間生活学部教育・研究年報 平成26年度	※【資料 2-8-3】と同じ
【資料 A-1-10】	音楽学部 2014年度教育・研究年報	※【資料 2-8-4】と同じ
【資料 A-1-11】	薬学部教育・研究年報第9号 2014年	※【資料 2-8-5】と同じ
【資料 A-1-12】	総合政策学部平成26年度教員活動報告	※【資料 2-8-6】と同じ
【資料 A-1-13】	保健福祉学部 2014年度教育・研究年報	※【資料 2-8-7】と同じ
【資料 A-1-14】	文学部 教育・研究年報 2014年	※【資料 2-8-8】と同じ
【資料 A-1-15】	2014年理工学部年報	※【資料 2-8-9】と同じ
【資料 A-1-16】	香川薬学部教育・研究年報 Annual Report 第9号 2014年	※【資料 2-8-10】と同じ
【資料 A-1-17】	未来科学研究所 Annual Progress Report2014	※【資料 2-8-11】と同じ
【資料 A-1-18】	教員活動状況調査（アニュアルレポート）様式	※【資料 2-8-2】と同じ
【資料 A-1-19】	徳島県と徳島文理大学との地域貢献に関する包括連携協定書	
【資料 A-1-20】	徳島市と徳島文意大学との地域貢献に関する包括連携協定書	
【資料 A-1-21】	包括連携・協力に関する協定書（香川県）	
【資料 A-1-22】	さぬき市と徳島文理大学との連携に関する協定書	
【資料 A-1-23】	徳島文理大学と高松市との連携協力に関する協定書	
【資料 A-1-24】	ホームページ [http://wwwt.bunri-u.ac.jp/human/jidou/index.php?e=118] (人間生活学部児童学科/学科紹介/おぎやと21に参加します)	
【資料 A-1-25】	ホームページ [http://wwwt.bunri-u.ac.jp/human/media/files/tokushin.jpg] (人間生活学部メディアデザイン学科/プロジェクト/防災アニメよりたかくよりはやく)	
【資料 A-1-26】	徳島文理大学通信（アカンサス）Vol.69（13頁）	
【資料 A-1-27】	ホームページ [http://wwwt.bunri-u.ac.jp/human/media/index.php?e=349] (人間生活学部メディアデザイン学科/学科からのお知らせ/地域貢献/徳島県警察「情報発信ウォッチャー」委嘱式 2014/12/11)	

徳島文理大学

【資料 A-1-28】	ホームページ [http://www.bunri-u.ac.jp/human/media/index.php?e=342] (人間生活学部メディアデザイン学科/学科からのお知らせ/産学官協定/デジタルコンテンツビジネス入門セミナー2014/09/24)	
【資料 A-1-29】	ホームページ [http://www.bunri-u.ac.jp/human/media/index.php?c=7-46&page=3] (人間生活学部メディアデザイン学科/プロジェクト/Awatter Lab.)	
【資料 A-1-30】	中山間地域における持続可能なコミュニティづくりに関する調査研究 ～美馬市木屋平地区を対象とした大学と地域との連携による魅力発信事業～	
【資料 A-1-31】	第 31 回徳島文理大学薬学部卒業後教育講座	
【資料 A-1-32】	第三回徳島県薬草フェスティバル	
【資料 A-1-33】	ホームページ [http://www.bunri-u.ac.jp/hokenfukushi/blog/kango/index.php?e=162] (保健福祉学部/ブログ/看護学科/徳島市民病院新人看護師研修の一環として来学 2014/07/23)	
【資料 A-1-34】	徳島文理大学通信 (アカンサス) Vol.69 (10 頁)	※【資料 A-1-26】と同じ
【資料 A-1-35】	ホームページ 徳島県議会 [http://www.pref.tokushima.jp/gikai/gikaigaiyou/bunri/index2.html]	
【資料 A-1-36】	第 7 回「特色ある教育・研究」全学発表会抄録集 (31 頁)	※【資料 A-1-5】と同じ
【資料 A-1-37】	ホームページ [http://se.bunri-u.ac.jp/nb/2015/04/01/] (理工学部ナノ物質工学科/News/ノンアルコールワインが完成しました)	
【資料 A-1-38】	ホームページ [https://www.bunri-u.ac.jp/info/events/eschool.html] (イベント情報/2014年7月4日【香川県内小学生対象】かがわ子ども大学を開催します!)	
【資料 A-1-39】	文化財学科・高松市教育委員会連携協定書	
【資料 A-1-40】	2014 年度文化財学科公開講演会	
【資料 A-1-41】	比較文化研究所 2014 年度公開講演会「屋島 1934」	
【資料 A-1-42】	小豆島町からの調査協力依頼文	
【資料 A-1-43】	小豆島町からの依頼に対する本学の回答	
【資料 A-1-44】	小豆島史料調査概報No.2 (平成 27 年 3 月発行)	
【資料 A-1-45】	さぬき市健康福祉部福祉事務所からの依頼文書	
【資料 A-1-46】	第 5 回朗読コンテスト	

基準 B. 国際交流

基準項目		備考
コード	該当する資料名及び該当ページ	
B-1. 徳島文理大学における国際交流		
【資料 B-1-1】	徳島文理大学学術交流協定校一覧	
【資料 B-1-2】	徳島文理大学大学通信 (アカンサス) Vol.71 (3 頁)	
【資料 B-1-3】	徳島文理大学 2016 年大学案内 (146 頁)	※【資料 F-2】と同じ
【資料 B-1-4】	徳島文理大学高大連携協定校一覧	
【資料 B-1-5】	平成 25 年度以降提携校等受入一覧	
【資料 B-1-6】	徳島文理大学通信 (アカンサス) Vol.73 (9 頁)	※【資料 2-7-15】と同じ
【資料 B-1-7】	徳島文理大学大学通信 (アカンサス) Vol.68 (5 頁)	※【資料 A-1-8】と同じ

徳島文理大学

【資料 B-1-8】	交換留学及び短期留学・研修の実績（平成 25 年 5 月～27 年 5 月）	
【資料 B-1-9】	平成 27 年度徳島文理大学キャンパスガイド（102-103 頁）	※【資料 F-5】と同じ
【資料 B-1-10】	新入学生オリエンテーション（14 頁）	※【資料 1-3-18】と同じ
【資料 B-1-11】	香川キャンパス 国際交流グループからのお知らせ	